

特別史跡岩橋千塚古墳群

発掘調査・保存整備事業報告書 1

2010年3月

和歌山県教育委員会



紀ノ川と岩橋千塚 (西から)



特別史跡岩橋千塚古墳群遠景 (北東から)



前山A 2号墳 横穴式石室 (北から)



前山A 2号墳 整備状況 (北から)



前山A 9号墳 竅穴式石室 (南から)



前山A 17号墳 箱式石棺 (北から)



前山A 67号墳 羨道前底部 (南から)



前山A 67号墳 横穴式石室内部 (奥壁下部補修後)



前山A 67号墳 石室保存公開施設（南から）



前山B 41号墳 横穴式石室（北から）

序 文

古代の紀伊の中心地として栄えた和歌山市は、朝鮮半島との結びつきが強く多数の古墳時代の遺跡が存在しています。

これらの遺跡の代表的なものが市街地のすぐ東の丘陵上に広がる岩橋千塚古墳群で、このうち約61万㎡に約430基の古墳の群集した範囲が、国の特別史跡に指定されており、宮崎県の西都原古墳群とともに古墳群としての指定では全国で2箇所しかありません。なかでも天王塚や將軍塚など、天井が高く石棚・石梁のある独特な横穴式石室が代表的なものです。

岩橋千塚古墳群の調査は明治時代に始まり、大正7年の第一期調査で27基の古墳の調査を行い、その後も調査・保存・活用に取り組み、ようやく昭和46年に特別史跡岩橋千塚古墳群を後世まで保存するとともに、広く一般に公開することを目的として「県立紀伊風土記の丘」が博物館施設として開館しました。現在では、年間20万人を越す来園者が歴史ロマンの探求の場として、また、健康ブームを反映して憩いの場として訪れています。

当該整備事業は、平成15年度から「紀ノ川緑の歴史回廊事業」の一環として始まり、県下最大規模の大日山35号墳の調査を行ったところ、「翼を広げた鳥形埴輪」「両面人物埴輪」「ころく形埴輪」など全国でも例をみない埴輪が見つかっています。本報告書は平成20年度までの成果をまとめたもので、紀伊風土記の丘の親しまれている公開古墳の再調査を含め、保存と活用をより一層進めることができたものと考えております。

最後に、この調査と整備を経て報告書をまとめるに当たり、関係者の方々のご支援とご協力をいただきましたこと、ここに深く感謝申し上げます。

平成22年3月31日

和歌山県教育委員会
教育長 山口 裕市

例 言

- 1 本書は和歌山県教育委員会（以下「県教育委員会」という。）が実施した和歌山市岩橋に所在する特別史跡岩橋千塚古墳群の発掘調査と整備事業報告書である。
- 2 事業期間は平成15～25年度の計画であるが、本書はそのうち平成15～20年度事業について報告する。
- 3 平成15～20年度に発掘調査を実施した古墳のうち、大日山35号墳と前山A13号墳については、遺物整理・史跡整備事業が継続しているため本報告には含んでいない。
- 4 事業は、平成15・16年度は和歌山県教育委員会文化遺産課（以下「文化遺産課」という。）平成17～20年度は和歌山県立紀伊風土記の丘（以下「紀伊風土記の丘」という。）が担当した。
- 5 本書の執筆分担は下記のとおりであるが、第2章第1節（3）（7）については黒石哲夫（現文化遺産課主任）、第2章第1節（4）（5）については岩井顕彦（現財団法人和歌山県文化財センター技師）の報告をもとに作成した。
第1章第1節・第2節（3）、第3章第1節（仲原知之）
第1章第2節（1）（2）・第3節、第2章、第3章第2節・第4節（丹野拓）
第1章第4節、第3章第3節（山本高照）
第1章第4節、第4章（高瀬要一（紀伊風土記の丘館長））
- 6 本書の編集は丹野が行った。
- 7 調査・整理業務で作成した図面・写真・台帳等の記録資料及び出土遺物は紀伊風土記の丘が保管している。
- 8 調査・整備・報告書刊行にあたり、下記の方々と機関からご指導・ご協力を賜った。
文化庁・和歌山市教育委員会・財団法人和歌山県文化財センター
青柳泰介・有馬義人・井上裕一・犬木努・岡史恵・小栗明彦・賀来孝代・鐘方正樹・河内一浩・車崎正彦・杉山晋作・関真一・高橋克壽・忽那敬三・辻川哲朗・坂靖・松田度・宮崎康雄・山田隆文・若松良一

凡 例

- 1 本報告は、平面直角座標系第Ⅵ系（日本測地系）に基づき、図示した北方位は座標北を示す。
- 2 基準高は、東京湾標準潮位（T.P.）を使用した。
- 3 土器及び調査時の土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修小山正忠・竹原秀雄著「新版標準土色帖」を使用した。

組織

事務局

主体者：和歌山県教育委員会

教育長 小関 洋治（平成15～18年度） 山口 裕市（平成19～20年度）

生涯学習局長 松永 宣詔（平成15年度） 西畑 行庸（平成16・17年度）

板橋 孝志（平成18年度） 山路 正雅（平成19年度）

宮下 和己（平成20年度）

文化遺産課（平成15～20年度）

文化遺産課長 西畑 行庸（平成15年度） 前山 哲雄（平成16年度）

藤井 保夫（平成17・18年度）（副課長：平成15・16年度）

木下 淳（平成19・20年度）

副課長 額田 誠規（平成15・16年度） 祇園 知宏（平成17・18年度）

武内 雅人（平成17年度）（調査班長：平成15・16年度）

永光 寛（平成19年度）（専門員：平成16年度、教育企画員：平成18年度）

田中 亨（平成19年度） 吉田 政弘（平成20年度）

専門員 吉田 宣夫（平成15年度） 富加見泰彦（平成15・16年度）

調査班長 渋谷 高秀（平成19・20年度）

主査 小野 隆明（平成15年度） 酒井 清崇（平成16年度）

黒石 哲夫（平成17・18年度）

副主査 藤井 幸司（平成17～20年度）

萩野谷正宏（平成20年度）（技師：平成17～19年度）

技師 佐々木宏治（平成15・16年度） 仲原 知之（平成15・16年度）

高橋 智也（平成19～20年度） 瀬谷（渡辺） 今日子（平成17～20年度）

津村かおり（平成20年度）

紀伊風土記の丘（平成17～20年度）

館長 和田 正（平成17～19年度）（副館長館長職務代理者：平成20年度）

副館長 山本 新平（平成17年度） 武内 雅人（平成18年度）

酒部 三依（平成19年度）

総務課長 畑中 伸之（平成17～18年度） 中野 一三（平成20年度）（学芸課長：平成19年度）

主査 井上 佳典（平成18～20年度）

副主査 平田 育子（平成17年度）

学芸課長 山本 高照（平成20年度）（主任：平成17～18年度）

専門員 富加見泰彦（平成17年度）

副主査 丹野 拓（平成18～20年度） 仲原 知之（平成20年度）

技師 岩井 顕彦（平成19年度） 佐竹 智光（平成20年度）

本文目次

巻頭カラー写真	
第1章 はじめに	1
第1節 地理的・歴史的環境	1
(1) 地理的環境	1
(2) 歴史的環境	1
第2節 古墳の分布状況	5
(1) 岩橋千塚の古墳分布	5
(2) 特別史跡指定範囲の古墳分布状況	10
(3) 詳細分布図作成事業	13
第3節 調査と保存の歴史	18
第4節 事業の経緯と経過	24
(1) 事業の経緯	24
(2) 事業の経過	26
第2章 調査	31
第1節 発掘調査	31
(1) 目的と経緯・経過	31
(2) 各年度の調査概要	32
(3) 前山A 2号墳の発掘調査	36
(4) 前山A 9号墳と隣接地の発掘調査	45
(5) 前山A 17号墳の発掘調査	52
(6) 前山A 67号墳の発掘調査	55
(7) 前山B 41号墳の発掘調査	62
(8) 事業継続中の古墳の調査概要 (前山A 13号墳、大日山35号墳)	66
第2節 墳丘測量と石室実測	69
第3章 保存整備	106
第1節 危険木伐採	106
第2節 説明板・案内標識の設置	109
(1) 古墳群の説明板・案内標識	109
(2) 保存公開施設設置古墳の説明板	114
第3節 石室保存公開施設の設置	115
(1) 前山A 2号墳	115
(2) 前山A 67号墳	119
第4節 古墳保存修景工事	126
第4章 まとめ	130
写真図版	

挿図目次

- 図1 岩橋千塚古墳群の位置
図2 岩橋千塚古墳群と周辺の遺跡
図3 埋蔵文化財包蔵地所在地図 (岩橋千塚周辺)
図4 岩橋千塚地区割
〔「岩橋千塚」1967年以降〕
図5 埋蔵文化財包蔵地所在地図
(特別史跡周辺)
図6 特別史跡岩橋千塚古墳群古墳分布詳細図
図7 測量基準点位置図
図8 測量実施状況
図9 岩橋千塚出土装飾付須恵器
図10 岩橋千塚の石室紹介図
図11 県第一期調査古墳分布図
図12 岩橋型石室模式図
図13 発掘調査した古墳の位置
図14 保存修理事業対象古墳位置図
(平成15・16年度)
図15 保存修理事業対象古墳位置図
(平成17・18年度)
図16 保存修理事業対象古墳位置図
(平成19・20年度)
図17 発掘調査対象古墳の位置
(平成15～20年度)
図18 前山A 2号墳 (石室と調査区の配置)
図19 前山A 2号墳 (墳丘と調査区の配置)
図20 前山A 2号墳 横穴式石室
図21 前山A 2号墳 第1～3トレンチ
図22 前山A 2号墳 第4～7トレンチ
図23 前山A 2号墳 第8トレンチほか
図24 前山A 2号墳 出土遺物
図25 前山A 9号墳周辺 調査区の配置
図26 前山A 9号墳 調査区平面・土層断面図
図27 前山A 9号墳 竪穴式石室
図28 前山A 9号墳北西部 調査区の配置
図29 第1～3トレンチ 平面・土層断面
図30 第4・5トレンチ 平面・土層断面
図31 前山A 17号墳 調査区の配置
図32 前山A 17号墳
調査区平面・土層断面
図33 前山A 17号墳 箱式石棺
図34 前山A 67号墳 墳丘と石室
図35 前山A 67号墳 調査区平面・立面
図36 前山A 67号墳 横穴式石室
図37 前山A 67号墳 調査区土層断面
図38 前山B 41号墳 墳丘と石室
図39 前山B 41号墳 横穴式石室
図40 前山B 41号墳 調査区土層断面
図41 前山B 41号墳 出土遺物
図42 前山A 13号墳 調査区の配置
図43 大日山35号墳 調査区の配置
図44 石室実測状況
図45 前山A 4号墳墳丘・石室
図46 前山A 16号墳石室
図47 前山A 18号墳石室
図48 前山A 25号墳石室
図49 前山A 31号墳石室
図50 前山A 77号墳石室
図51 前山A 86号墳墳丘・石室
図52 前山A 92号墳石室
図53 前山A 96号墳石室
図54 前山A 107号墳石室
図55 前山A 114号墳石室
図56 前山A 119号墳石室
図57 前山A 121号墳石室
図58 前山A 122号墳石室
図59 前山A 125号墳石室
図60 前山A 130号墳石室
図61 前山A 141号墳石室
図62 前山A 142号墳石室
図63 前山B 1号墳墳丘・石室
図64 前山B 2号墳墳丘・石室
図65 前山B 4号墳墳丘・石室
図66 前山B 45号墳墳丘・石室
図67 知事塚古墳 (前山B 67号墳) 墳丘・石室
図68 前山B 68号墳墳丘・石室

- 図 69 前山B 69号墳墳丘・石室
- 図 70 前山B 111号墳石室
- 図 71 前山B 117号墳墳丘
- 図 72 前山B 118号墳石室
- 図 73 大日山1号墳墳丘
- 図 74 大日山3号墳石室
- 図 75 大日山4号墳石室
- 図 76 大日山5号墳石室
- 図 77 大日山6号墳石室
- 図 78 危険木伐採対象古墳の位置
- 図 79 説明板・案内標識の設置位置
- 図 80 古墳群説明板・案内標識の仕様
- 図 81 古墳群説明板等の見本
- 図 82 保存公開施設設置古墳の説明板仕様
- 図 83 前山A 2号墳 石室保存公開施設平面図
- 図 84 前山A 2号墳
ガラス製覆屋詳細図①
- 図 85 前山A 2号墳
ガラス製覆屋詳細図②
- 図 86 前山A 67号墳 工事平面図
- 図 87 前山A 67号墳 工事縦断面図
- 図 88 前山A 67号墳 保護覆屋詳細図①
- 図 89 前山A 67号墳 保護覆屋詳細図②
- 図 90 前山A 67号墳 電気設備配置図・詳細図
- 図 91 前山A 67号墳 石室補修箇所図
- 図 92 保存修景工事対象古墳の位置

表目次

- 表 1 測量基準点一覧
- 表 2 岩橋千塚古墳群詳細分布図作成事業概要
- 表 3 調査と保存の歴史
- 表 4 事業内容一覧
- 表 5 発掘調査対象古墳一覧
- 表 6 墳丘測量・石室実測古墳一覧
- 表 7 危険木伐採一覧
- 表 8 説明板一覧
- 表 9 保存修景工事対象古墳一覧

巻頭カラー図版

1. 紀ノ川と岩橋千塚
特別史跡岩橋千塚古墳群遠景
2. 前山A 2号墳 横穴式石室
前山A 2号墳 整備状況
3. 前山A 9号墳 竪穴式石室
前山A 17号墳 箱式石棺
4. 前山A 67号墳 義道前庭部
前山A 67号墳 横穴式石室内部
5. 前山A 67号墳 石室保存公開施設
前山B 41号墳 横穴式石室

写真図版目次

1. 古墳群遠景
2. 古墳群遠景
3. 特別史跡遠景
4. 特別史跡遠景
5. 特別史跡近景
6. 特別史跡近景
7. 前山A 2号墳発掘調査
8. 前山A 2号墳発掘調査
9. 前山A 2号墳発掘調査
10. 前山A 2号墳発掘調査
11. 前山A 2号墳発掘調査
12. 前山A 2号墳発掘調査
13. 前山A 2号墳発掘調査
14. 前山A 2号墳発掘調査
15. 前山A 2号墳発掘調査
16. 前山A 9号墳発掘調査
17. 前山A 9号墳発掘調査
18. 前山A 9号墳発掘調査
19. 前山A 9号墳発掘調査
20. 前山A 9号墳北西隣接地発掘調査
21. 前山A 17号墳発掘調査
22. 前山A 17号墳発掘調査
23. 前山A 17号墳発掘調査
24. 前山A 17号墳発掘調査

25. 前山A 17号墳発掘調査
26. 前山A 67号墳発掘調査
27. 前山A 67号墳発掘調査
28. 前山A 67号墳発掘調査
29. 前山A 67号墳発掘調査
30. 前山A 67号墳発掘調査
31. 前山A 67号墳発掘調査
32. 前山A 67号墳発掘調査
33. 前山A 67号墳発掘調査
34. 前山A 67号墳発掘調査
35. 前山B 41号墳発掘調査
36. 前山B 41号墳発掘調査
37. 前山B 41号墳発掘調査
38. 前山B 41号墳発掘調査
39. 前山B 41号墳発掘調査
40. 墳丘・石室の記録化
41. 墳丘・石室の記録化
42. 墳丘・石室の記録化
43. 墳丘・石室の記録化
44. 墳丘・石室の記録化
45. 墳丘・石室の記録化
46. 墳丘・石室の記録化
47. 墳丘・石室の記録化
48. 墳丘・石室の記録化
49. 墳丘・石室の記録化
50. 墳丘・石室の記録化
51. 墳丘・石室の記録化
52. 墳丘・石室の記録化
53. 墳丘・石室の記録化
54. 墳丘・石室の記録化
55. 墳丘・石室の記録化
56. 墳丘・石室の記録化
57. 墳丘・石室の記録化
58. 墳丘・石室の記録化
59. 墳丘・石室の記録化
60. 墳丘・石室の記録化
61. 墳丘・石室の記録化
62. 墳丘・石室の記録化
63. 危険木伐採
64. 危険木伐採
65. 古墳群説明板設置
66. 古墳群説明板設置
67. 古墳群説明板設置
68. 保存公開施設設置古墳の説明板設置
69. 保存公開施設設置古墳の説明板設置
70. 前山A 2号墳保存公開施設設置
71. 前山A 2号墳保存公開施設設置
72. 前山A 2号墳保存公開施設設置
73. 前山A 67号墳保存公開施設設置作業
74. 前山A 67号墳保存公開施設設置作業
75. 前山A 67号墳保存公開施設
76. 前山A 67号墳保存公開施設
77. 保存修景工事工程
78. 保存修景工事工程
79. 保存修景工事工程
80. 保存修景工事状況
81. 保存修景工事状況
82. 保存修景工事状況
83. 保存修景工事状況
84. 保存修景工事状況
85. 保存修景工事状況
86. 保存修景工事状況
87. 平成15～20年度普及啓発活動等
88. 平成15～20年度実施事業（別途報告分）

第1章 はじめに

第1節 地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境

岩橋千塚古墳群周辺の地形は、中央構造線が東西に横断し、これによって北側の内帯と南側の外帯に分けられ、この断層上に紀ノ川が西流する。内帯に属する和泉山脈は、領家帯の西南端にあたり堆積岩である礫岩・砂岩・泥岩の互層をなす和泉層群で構成される。外帯は、変成岩である結晶片岩を主体とする三波川変成帯（長湊変成帯）にあたる。この外帯に龍門山脈があり、結晶片岩中に貫入した蛇紋岩からなる龍門山（756 m）が主峰となる。龍門山脈は西側へ標高を減じながら、途中紀ノ川支流の貴志川に分断されるが、岩橋山塊まで続く。岩橋山塊は結晶片岩類で構成される山塊で、東から天王塚山（152 m）・大日山（142 m）と連なり、西端は花山（77 m）や福飯ヶ峯（101 m）の小山塊が続く。この岩橋山塊の尾根や斜面に岩橋千塚古墳群が存在する。



図1 岩橋千塚古墳群の位置

(2) 歴史的環境

古墳時代以前の概要

岩橋山塊近辺では旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代には、岩橋山塊裾部で鳴神貝塚、吉礼貝塚、禰宜貝塚、岡崎縄文遺跡などが確認され、鳴神貝塚や隣接する鳴神Ⅳ遺跡から採掘された女性を埋葬した土坑墓などが検出された。弥生時代には、紀ノ川下流域南岸では太田・黒田遺跡、紀ノ川下流域北岸では西田井、北田井、宇田森、川辺、吉田遺跡などの弥生集落が立地する。岩橋山塊南西側の葛蒲谷遺跡では中期の台状墓が検出されている。中期後葉～後期前半には太田・黒田遺跡など平野部の集落が激減し、岩橋山塊の天王塚山遺跡や和歌山市南端の滝ヶ峰遺跡などの高地性集落が出現する。後期中葉以降、岩橋山塊南西部の井辺、神前遺跡のほか、紀ノ川北岸の田屋、西田井、宇田森遺跡など平野部に集落が展開して、その多くは古墳時代前期に継続する。紀ノ川下流域では銅鐸6口（有本銅鐸など）が発見されている。

古墳時代の概要

岩橋山塊西側には鳴神Ⅱ～Ⅵ、音浦、大日山Ⅰ遺跡など古墳時代の集落が立地する。これらの集落から韓式系土器や滑石製模造品などの祭祀遺物が多く出土する。この他、友田町、秋月遺跡などで竪穴住居や掘立柱建物が検出されている。紀ノ川北岸では古墳時代中期の大型倉庫群が発見された鳴滝遺跡や陶質土器が多数出土した楠見遺跡が知られている。

岩橋千塚古墳群周辺の古墳の概要

紀ノ川下流域南岸では、前期に県内最古の前方後円墳と考えられる秋月1号墳が造営される。秋月、

鳴神遺跡などでは中期～後期の円墳・方墳が造られる。

岩橋山塊東側の明楽山(鳩羽山)では東国山、モント塚、明楽、小倉神社、小倉、宮山、奥山田、具東壺、七ツ塚、寺山古墳群など後期の古墳群が形成される。東国山1号墳では未盗掘の竪穴式石室が調査され、男女2体の人骨、多量の遺物が発見された。明楽古墳群は主体が横穴式石室で、2号墳は横穴式石室とともに竪穴式石室をもつ。小倉1・8号墳は横穴式石室で、特に8号墳は石棚をもつ岩橋型横穴式石室である。宮山古墳群では6号墳などが横穴式石室である。奥山田古墳群では6世紀後半の小竪穴式石室(6号墳)、7世紀の無袖式横穴式石室(8号墳)が確認された。具東壺1～3号墳は7世紀の横穴式石室である。七ツ塚古墳群は主に7世紀代に横穴式石室が築造され、2号墳は板石を組み合わせた横穴式石室である。寺山古墳群は方墳3基を含む約20基の7世紀の古墳群で、蛇紋岩の大石を用いた穹窿式横穴式石室が構築されている。

岩橋山塊南東側の貴志川流域の平野部では古墳時代中期～後期にかけて円墳(籬子塚古墳、丸山古墳、三味塚古墳)や前方後円墳(双子三味塚古墳、平池1号墳)が造営される。丸山古墳は箱式石棺から鉄鋌・鉄鍔を含む鉄製品、玉類、琴柱形石製品などが発見された。平池1号墳は調査の結果、くびれ部に陸橋をもつ6世紀前半の前方後円墳(全長31.5m)であることが判明した。紀ノ川と貴志川の合流地点には船戸山古墳群・船戸箱山古墳が形成される。船戸山1～3・6号墳は岩橋型横穴式石室で、このうち2・3号墳は石棚を有する。船戸箱山古墳は6世紀中頃～後半に構築され、墳丘には埴輪列が確認された。なお、船戸山3号墳では横穴式石室2基と竪穴石室1基、6号墳では横穴式石室と箱式石棺1基ずつ、船戸箱山古墳では5つの石室(横穴式石室2基、竪穴式石室3基)が築かれ、1つの古墳に複数の主体部が構築されるのが特徴的である。

岩橋山塊南側から海南市にかけても数多くの古墳が造営されている。伊太祁曾神社1号墳は石棚・石梁をもつ岩橋型横穴式石室、城ノ前1号墳・小野田古墳ともに6世紀後半～7世紀前半の岩橋型横穴式石室である。葉勝寺南山古墳群では1号墳が6世紀後半の箱式石棺、2号墳が横穴式石室である。室山古墳群は6世紀中葉～7世紀前半の岩橋型横穴式石室が主体の古墳群で、1・2号墳は石棚・石梁をもつ横穴式石室、4号墳は竪穴式石室、5号墳は片袖式横穴式石室である。山崎山古墳群は調査の結果、5世紀の礎床をもつ割竹形木棺(5号墳)と箱式石棺(2号墳)、6世紀初頭の本直直葬(15号墳)、6世紀の竪穴式石室(3・11・13・14号墳)、6世紀末～7世紀初頭の石棚をもつ横穴式石室(1号墳)が確認された。5号墳は5世紀前半の造出部を有する全長45mの前方後円墳である。

紀ノ川北岸では、釜山古墳群(木ノ本古墳群)中の車駕之古墳古墳が調査され、段築、盾形周濠、造出を備えた5世紀後半の前方後円墳(全長86m)と判明し、金銀勾玉などが出土した。高芝1号墳は7世紀の和泉砂岩を用いた横穴式石室、2号墳は全長約40mの前方後円墳である。貴志古墳は竪穴式石室を主体部とする6世紀後半の古墳と考えられる。晒山古墳群では、5世紀前半の晒山1号墳は主体部が粘土層で、直刀や玉類が出土した。6世紀前半の晒山4号墳・10号墳(背見山古墳、全長35mの前方後円墳)は横穴式石室をもつ。5世紀後半に築かれた前方後円墳の大谷古墳(全長67m)は

組合式家形石棺が検出され、鉄製馬冑・馬甲などの豊富な遺物が出土した。雨ヶ谷古墳群は、5世紀後半～6世紀前半の木棺直葬（1号墳）、T字形横穴式石室（2号墳）が調査された。6～7世紀に築造された鳴滝古墳群では、石棚を有する岩橋型横穴式石室（1号墳）、和泉砂岩を用いた横穴式石室（2・10号墳）、木棺直葬（6号墳）が確認された。奥出古墳、園部円山古墳はともに和泉砂岩の巨石を用いた横穴式石室で、園部円山古墳からは金銅装大刀や馬具が出土した。六十谷1・2号墳はともに5世紀代の埴輪が出土し、2号墳は全長27mの前方後円墳で、埴輪列・葺石も確認されている。六十谷古墳群の東側には北山、直川八幡山、八王子山、別所、上野、山口古墳群が続くが、発掘調査はほとんど実施されていない。八王子山古墳群は前方後円墳3基を含む約20基の古墳群で、木棺直葬（8号墳）、横穴式石室（16号墳）が確認されている。

奈良時代以降の概要

紀伊国一宮の^{ひのくに}日向・^{くにかかす}国懸神宮が造営され、秋月遺跡では奈良～室町時代の掘立柱建物が検出され、神宮に関連する大規模集落と考えられる。太田・黒田遺跡では奈良時代の大形井戸から斎串や和同開珎が出土した。神宮周辺には条里地割が残る。室町時代には和歌山平野に太田城跡があり、16世紀の濠状遺構が調査され、近くに太田城水攻め堤跡が残る。

【引用・参考文献】

- 大野嶺夫 1985・1986「岩橋千塚と周辺のT字形横穴式石室（上）・（下）」『古代学研究』109・110（古代学研究会）、1971「明楽山山塊の古墳群について」『古代学研究』62、2003「岩橋千塚とことろ・どころ」
- 大野嶺夫・大野左千夫 1977「背見山古墳発掘調査概報」『古代学研究』85
- 海南市教育委員会 2005「小野田古墳発掘調査概報」「海南市内遺跡発掘調査概報～平成16年度～」
- 海南市役所 1979「海南市史 第三巻史料編1」
- 金谷克巳 1955「紀伊の古墳1」（紀伊考古学研究会）・1956「紀伊の古墳2」（綜藝舎）・1960「紀伊の古墳3」（日本考古学研究会）、1963「和歌山県和歌山市明楽山古墳群」『日本考古学年報9（昭和31年度）』
- 川口修実 2004「紀伊における穹窿式横穴式石室の検討～寺山古墳群の分析を通して～」『紀伊考古学研究』7
- 関西大学文学部考古学研究室 1967「岩橋千塚」（関西大学文学部考古学研究紀要第二冊）
- 貴志川町 1981「貴志川町史第三巻史料編2」
- 日下雅義 1969「太田・黒田遺跡の地形環境」『和歌山市太田・黒田地域総合調査 地理・歴史調査概報』（和歌山市教育委員会、太田・黒田地域総合調査団）、1979「紀伊湊と吹上浜」『和歌山の研究1』（清文堂）
- 園部円山古墳保存会 1989「和歌山市指定文化財（史跡）園部円山古墳調査概報」
- 同志社大学文学部文化学科 1973「和歌山市楠見 雨ヶ谷古墳群調査報告」
- 前田敬彦 2003「和歌山市栄谷所在「貴志古墳」の出土遺物」『和歌山市立博物館研究紀要』17
- 三宅正浩 1988「紀伊における古墳時代中期の一樣相～貴志川流域の首長墓をめぐって～」『巽三郎先生古稀記念論集 求真能道』（巽三郎先生古稀記念論集刊行会編）
- 和歌山県 1983「和歌山県史 考古資料」
- 和歌山県教育委員会 1978「山崎山古墳群緊急発掘調査報告書」、1984「鳴滝遺跡発掘調査報告書」、2000「岩橋千塚周辺古墳群 緊急確認調査報告書」、2005「秋月遺跡」「箱山古墳（船戸箱山古墳）」『緊急雇用対策特別基本事業に係る発掘調査資料整理概報』
- 和歌山県教育委員会・和歌山大学 1983「和歌山大学移転統合地発掘調査報告書」

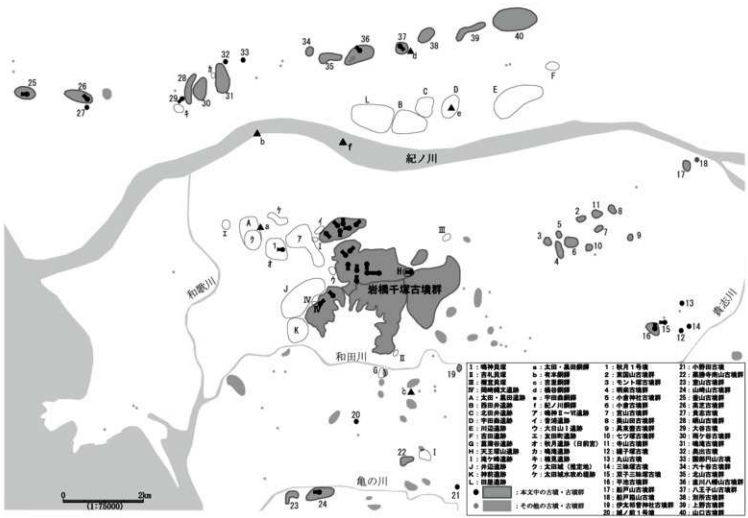


図2 岩橋千塚古墳群と周辺の遺跡

(財)和歌山県文化財センター 2004 「平塚古墳群の発掘調査」(財)和歌山県文化財センター一年報 2003]

和歌山県文化財研究会 1967 「和歌山市鳴滝古墳群の調査」(和歌山県文化財研究所調査報告第二冊)

和歌山県教育委員会 1959 「大谷古墳」, 1972 「和歌山市における古墳文化」(和歌山県文化財研究所調査報告一上、

1991 「六十谷古墳群発掘調査報告書」, 2004 「平塚之古墳古墳第6次調査」(和歌山市内遺跡発掘調査概報一平

成 14年度 -1)

(財)和歌山県文化財保存振興事業団 1992 「奥山田遺跡第3次調査」(和歌山県文化財発掘調査年報 1、1997 「城ノ

前1遺跡(城ノ前1号墳)」(和歌山県埋蔵文化財発掘調査年報 1)

第2節 古墳の分布状況

(1) 岩橋千塚の古墳分布

岩橋千塚古墳群は和歌山県の北西部、紀ノ川河口部南岸の岩橋山塊に築かれた古墳群である。岩橋山塊は和歌山市市街地の東にある丘陵で、標高140～150mの東西向きの主稜線とそこから南北に派生する尾根や斜面に古墳が群生している。

岩橋千塚の範囲

岩橋千塚古墳群は明治時代以降たびたび調査が行われてきており、古墳群の範囲についてはその都度認識が変化してきた。そのため、岩橋千塚の範囲は古くから認識されてきた広域の範囲と、和歌山県教育委員会の埋蔵文化財包蔵地図で公的に古墳の管理に使用されている範囲にずれが生じており、当事業期間中にも古墳群の分布調査の必要性が再認識された。

現在『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所地図』では、岩橋山塊西寄りの古墳が群生する前山A・B・大日山・大谷山・井辺地区に寺内地区の一部と天王塚古墳(1基)を足した範囲を岩橋千塚古墳群の範囲としており、古墳総数は472基である。これに隣接して花山古墳群と井辺前山古墳群、寺内古墳群、山東古墳群が分布するものとして、岩橋山塊周辺の古墳群を把握している。

これに対して、学史的には大正時代に前山地区周辺が岩橋千塚として認識されており、昭和42年(1967)の和歌山市・関西大学による分布調査報告では、東は矢田峠、北は宮井用水、南は和田川、西は和歌山平野の範囲に広がる岩橋山塊とそこから派生する半独立丘陵を含む範囲を岩橋千塚として認識している。この広域の範囲を補う概念として、地形を元にした地区割りが行われている。この頃には前山地区が前山A・B・C地区に分割されていたが、前山C地区は古墳が存在しない空白域にあたるため、地形的に同一地区とみなすべき和佐地区の一部として把握すべきだろう。このため、『岩橋千塚』刊行以降に広く認識されている岩橋千塚の範囲は、地形区分から花山(84基)・大谷山(23基)・大日山(53基)・前山A(152基)・前山B(290基)・和佐(14基)・井辺前山(88基)・井辺(28基)・寺内(88基)・山東(28基)の10地区(合計848基)に区分できる。紀伊風土記の丘の分布調査では平成20年度時点で前方後円墳・帆立貝形古墳35基、方墳21基、円墳792基、古墳推定地点を含め計848基の古墳がある認識となっている。

主要な古墳の分布

岩橋千塚では丘陵の最高所と尾根の好所を選んで前方後円墳を造っており、そこから派生する尾根と斜面、裾部には小型の円墳が群生する。井辺地区には方墳が分布している。

古墳の築造は4世紀末～5世紀初頭に始まり、5世紀の前方後円墳は粘土土を主体部とする花山8号墳や花山44号墳など花山地区に集中している。5世紀末から6世紀初頭の花山6号墳まで花山地区が古墳群の中心であった。和歌山平野に面し、花山の南方に連なる大谷山地区・大日山地区・井辺前山地区にはそれぞれ6世紀前半の前方後円墳である大谷山22号墳、大日山35号墳、井辺八幡山古墳を中心に群集墳が広がる。6世紀代には紀ノ川に面した前山北斜面に群集墳築造の中心があり、大古墳群が形成される。6世紀後半以降の首長墓は墳長86mの天王塚古墳、石室平面積が最大となる寺内57号墳、終末期の方墳である井辺1号墳と続き、7世紀後半には古墳の築造が終息する。

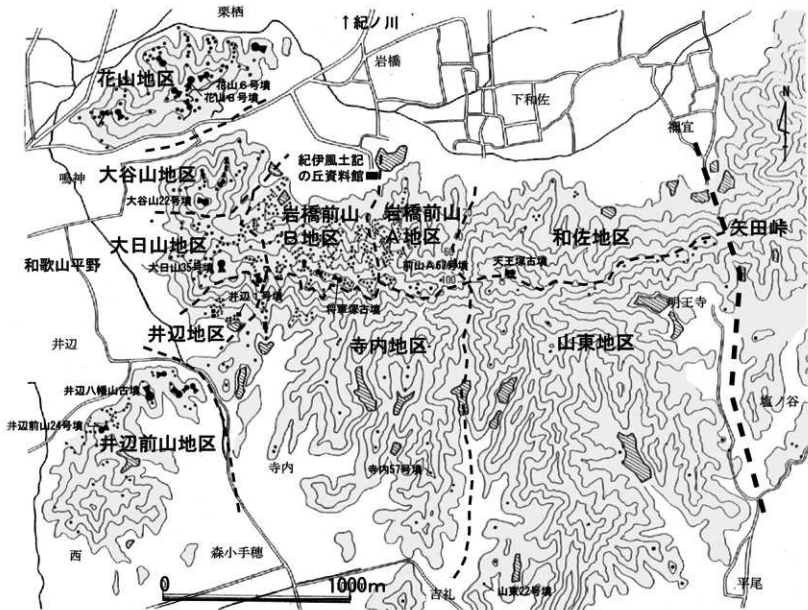


図4 岩橋千塚地区区割 (〔岩橋千塚〕1967年以降)

(2) 特別史跡指定範囲の古墳分布状況

古墳分布の現状認識

現在、848基の岩橋千塚古墳群のうち、430基を越す古墳が密集する範囲が特別史跡岩橋千塚古墳群として指定されている。特別史跡岩橋千塚古墳群の指定範囲は、東西約1300m、南北約700m、総面積608,801㎡である。古墳数は和歌山県の発行する『埋蔵文化財包蔵地所在地図』の公的な数で、平成7年度には375基、平成18年度には約430基であった。踏査をさらに進めた結果、現状では457基の存在を確認している。

この地区の古墳分布状況図は、大正10年(1921)と昭和42年度(1967)のほか、近年は埋蔵文化財包蔵地図として公表されてきた。しかし、縮尺約5,000～6,500分の1の図に大雑把に古墳の印がうたれており、実際には現地での古墳が何号墳かほとんど不明であった。平成14年度にこの状況を解消するため踏査が始まったが、その成果が結実するよりも早く開始した当事業では、古墳名については仮番号をつけ暫定的なリストを使用しているのが現状である。複雑な仮番号の付いた古墳名は古墳群の管理・活用に支障をきたすので継続して踏査を進め、仮番号の解消に努めている。

各地区の概況

岩橋山塊の北側平野部の地名が「岩橋」であり、この地域に面した山塊北斜面を岩橋前山と呼んでいる。大正7年(1918)に調査された範囲がA地区、その西がB地区と便宜的に呼称されている。

前山A地区は東西350m、南北800mで、標高は20～150m、古墳総数は152基である。近年、帆立貝形古墳や方墳が多数発見され、5世紀後半から7世紀初頭まで継続する独自性の強い集団を形成している可能性が指摘されている。前山A地区には平成20年度時点で、帆立貝形古墳3基、方墳17基、円墳132基の分布が確認されている。

前山B地区は、東西650m、南北600mの範囲に290基の古墳が群在する古墳の稠密度の最も高い地区である。標高は20～150mで、岩橋山塊主稜線には將軍塚・知事塚・郡長塚といった前方後円墳と帆立貝形古墳が並び、尾根と緩斜面に円墳が群集する。分布調査では、前方後円墳3基、帆立貝形古墳3基、円墳284基が確認されている。昭和40年代後半には紀伊風土記の丘の設立に伴い將軍塚古墳や花木園・花木園東地区で発掘調査が行われた。

大日山地区は、東西650m、南北400mで、標高141mの大日山頂にある前方後円墳の大日山35号墳を中心に、帆立貝形古墳1基、円墳51基が展開している。古墳総数は53基で、このうち28基が特別史跡地内に所在している。前山B地区との間は便宜的に谷筋などで区切られている。

大谷山地区は東西650m、南北400mで、標高130mの大谷山の山頂から北斜面に古墳が分布する地区である。昭和37年度の踏査成果では1～39号墳までであるが、その後欠番となっているものが多く、現在、前方後円墳6基、円墳17基、合計23基の古墳が確認されている。南側に造出あるいは堤をもつ墳長約65mの大谷山22号墳と、初期の岩橋型横穴式石室をもつ大谷山6号墳があり、5世紀末～6世紀前半の古墳が存在している。昭和40年前後に開発が進み、小型の前方後円墳である大谷山26～28号墳や5世紀の円墳である大谷山39号墳は調査後破壊された。大谷山4～6号墳と大谷山12～17号墳は調査後に、特別史跡の範囲に追加指定された。

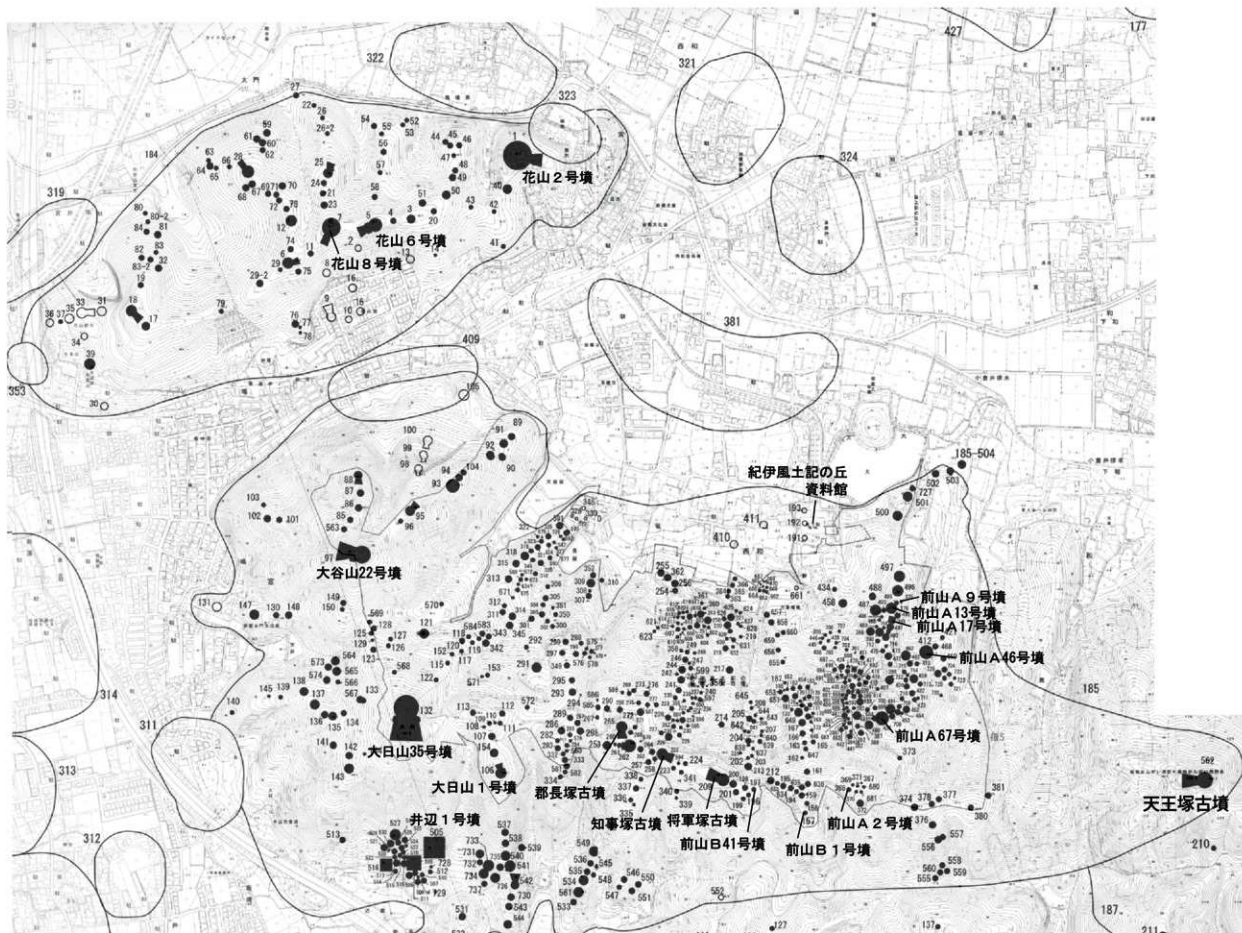


図5 埋蔵文化財包蔵地所在地図 (特別史跡周辺)

(3) 詳細分布図作成事業

史跡整備事業とは別に紀伊風土記の丘では詳細分布図作成事業を実施している。昭和55年度(1980)に基本計画を作成して以降、史跡地内に1～4級の基準点を設置し、その基準点を基にして古墳群の1/200の測量図を作成している。史跡整備事業には含まれない事業であるが、設置した基準点や測量図等は今回の整備事業に利用しているため、その成果一覧表と基準点位置図・測量範囲図を掲載する。これまでに1級基準点9箇所、2級基準点3箇所、3級基準点87箇所、4級基準点30箇所を設置している。1～3級は金属標、4級はプラスチック杭で設置し、これらの基準点を結ぶ節点もプラスチック杭で設置している。この他、平板測量図を作成する際に利用した図根点295点をプラスチック杭で設置しているが、プラスチック杭は原位置を保っていない可能性もあるため使用に際しては注意が必要である。

年度	基準点	級数	X	Y	H	緯度	経度	設置業者	設置日
	田岡崎	二等三角点	-197,067,650	-71,532,540	141.780			H67アジア測量	
			-197,067,664	-71,532,551	141.840	34-13-15.1475	135-13-24.7235	H11総へこ測量	
	田岩橋	二等三角点	-194,948,470	-70,324,240				S56アジア測量	
			-194,948,414	-70,324,233	9.080	34-14-24.2298	135-14-11.3165	H11総へこ測量	
	田岩子塚		-197,157,610	-69,979,460				S56アジア測量	
昭和56年度	1-No.1	1級	-197,203,940	-70,391,440	127.184	34-13-11.0040	135-14-09.3510	(株)アジア航測	S57.2.26
昭和56年度	1-No.2	1級	-196,890,330	-70,453,110	69.053	34-13-21.1680	135-14-06.8050	(株)アジア航測	S57.2.26
昭和56年度	1-No.3	1級	-197,022,700	-70,524,410	94.640	34-13-16.8550	135-14-04.1020	(株)アジア航測	S57.2.26
昭和56年度	1-No.4	1級	-196,854,100	-70,566,370	65.081	34-13-22.3170	135-14-02.4130	(株)アジア航測	S57.2.26
昭和56年度	1-No.5	1級	-196,473,380	-70,601,850	18.394	34-13-24.6640	135-14-00.7980	(株)アジア航測	S57.2.26
昭和56年度	1-No.6	1級	-197,148,060	-70,646,730	144.981	34-13-12.7560	135-13-59.3600	(株)アジア航測	S57.2.26
昭和56年度	1-No.7	1級	-196,825,650	-70,733,470	43.805	34-13-23.1990	135-13-55.8750	(株)アジア航測	S57.2.26
昭和56年度	1-No.8	1級	-197,081,140	-70,743,700	119.041	34-13-14.9040	135-13-55.5510	(株)アジア航測	S57.2.26
昭和57年度	1-No.9	1級	-197,156,190	-70,884,460	157.050	34-13-12.4340	135-13-00.0730	朝日航洋(株)	S58.2.16
平成元年度	121	2級	-196,824,589	-71,058,064	49.686	34-13-23.1541	135-13-43.1916	(株)アジア航測	H12.2.13
平成元年度	122	2級	-196,724,466	-71,588,999	122.361	34-13-26.2739	135-13-22.4516	(株)アジア航測	H12.2.17
平成3年度	200	2級	-196,791,980	-71,325,499	93.934	34-13-24.1487	135-13-32.7320	(株)かんこう	H19.9.10
昭和57年度	301	3級	-196,941,880	-70,511,230	76.121	34-13-19.8810	135-14-04.5940	朝日航洋(株)	S58.2.16
昭和57年度	302	3級	-196,993,870	-70,537,210	92.102	34-13-17.7870	135-14-03.5940	朝日航洋(株)	S58.2.16
昭和57年度	303	3級	-196,949,210	-70,558,640	77.134	34-13-19.2320	135-14-02.7430	朝日航洋(株)	S58.2.16
昭和57年度	304	3級	-196,903,540	-70,578,340	69.759	34-13-20.7090	135-14-01.9640	朝日航洋(株)	S58.2.16
昭和57年度	305	3級	-196,932,570	-70,586,770	67.550	34-13-19.7650	135-14-01.6390	朝日航洋(株)	S58.2.16
昭和57年度	306	3級	-197,026,530	-70,594,200	102.831	34-13-16.7130	135-14-01.3770	朝日航洋(株)	S58.2.16
昭和57年度	307	3級	-197,002,200	-70,640,550	92.481	34-13-17.4920	135-13-59.5590	朝日航洋(株)	S58.2.16
昭和57年度	308	3級	-196,952,140	-70,667,340	77.656	34-13-19.1100	135-13-58.4970	朝日航洋(株)	S58.2.16
昭和59年度	309	3級	-196,840,190	-70,650,150	39.312	34-13-22.7480	135-13-59.1350	朝日航洋(株)	S60.2.26
昭和59年度	310	3級	-196,897,070	-70,652,090	64.611	34-13-20.9010	135-13-59.0760	朝日航洋(株)	S60.2.26
昭和59年度	311	3級	-197,075,000	-70,597,820	106.072	34-13-18.1390	135-14-01.2490	朝日航洋(株)	S60.2.27
昭和59年度	312	3級	-197,090,220	-70,665,890	117.269	34-13-14.6280	135-13-58.5940	朝日航洋(株)	S60.2.27
昭和59年度	313	3級	-197,113,520	-70,533,800	111.186	34-13-13.9040	135-14-03.7630	朝日航洋(株)	S60.2.28
昭和59年度	314	3級	-197,130,680	-70,601,490	132.126	34-13-13.3310	135-14-01.1220	朝日航洋(株)	S60.2.28
昭和62年度	315	3級	-196,952,980	-70,436,560	61.486	34-13-19.1390	135-14-07.5170	(株)アジア航測	S63.2.17
昭和62年度	316	3級	-197,006,910	-70,461,730	67.733	34-13-17.3820	135-14-06.5470	(株)アジア航測	S63.2.17
昭和62年度	317	3級	-197,209,870	-70,496,810	134.338	34-13-10.7860	135-14-05.2630	(株)アジア航測	S63.2.18
昭和62年度	318	3級	-197,171,420	-70,604,930	145.113	34-13-12.0080	135-14-01.0000	(株)アジア航測	S63.2.18
平成元年度	131	3級	-196,698,101	-70,820,354	27.862	34-13-27.3669	135-14-00.2580	(株)アジア航測	H12.2.13
平成元年度	132	3級	-196,651,437	-71,525,514	104.302	34-13-28.6590	135-13-24.8715	(株)アジア航測	H12.2.16
平成元年度	133	3級	-196,760,154	-71,151,276	37.020	34-13-25.2226	135-13-39.5303	(株)アジア航測	H12.2.17
平成元年度	134	3級	-196,634,251	-71,347,551	63.261	34-13-22.7663	135-13-31.8623	(株)アジア航測	H12.2.16
平成2年度	319	3級	-197,143,451	-70,723,619	135.349	34-13-12.8866	135-13-56.3540	(株)アジア航測	H13.2.11
平成2年度	320	3級	-197,143,860	-70,790,512	133.627	34-13-12.8570	135-13-53.7911	(株)アジア航測	H13.2.11
平成2年度	321	3級	-197,186,881	-70,753,307	146.305	34-13-11.4697	135-13-55.2067	(株)アジア航測	H13.2.11
平成2年度	322	3級	-197,231,178	-70,724,683	143.368	34-13-10.0389	135-13-56.3382	(株)アジア航測	H13.2.11
平成4年度	323	3級	-197,091,232	-71,005,609	139.056	34-13-14.5124	135-13-45.3186	(株)アジア航測	H15.2.2
			-197,091,226	-71,005,605	139.067	34-13-14.5126	135-13-45.3203	(株)かんこう	H10.8.20
平成4年度	324	3級	-197,112,732	-70,904,777	137.952	34-13-13.8393	135-13-49.2664	(株)アジア航測	H15.2.2
			-197,112,733	-70,904,773	137.939	34-13-13.8393	135-13-49.2680	(株)かんこう	H10.8.20
平成4年度	325	3級	-197,148,433	-70,937,389	147.977	34-13-12.6736	135-13-48.0027	(株)アジア航測	H15.2.2
平成4年度	326	3級	-197,198,217	-70,870,365	138.711	34-13-11.0731	135-13-50.6362	(株)アジア航測	H15.2.2
平成6年度	327	3級	-197,076,477	-71,153,999	122.721	34-13-14.9548	135-13-39.5176	(株)アジア航測	H17.1.19
平成6年度	328	3級	-197,114,943	-71,117,563	127.487	34-13-13.7153	135-13-40.9527	(株)アジア航測	H17.1.19
平成6年度	329	3級	-197,129,263	-71,043,666	136.134	34-13-13.2687	135-13-43.8444	(株)アジア航測	H17.1.20
平成8年度	330	3級	-197,021,608	-71,092,717	126.704	34-13-16.7508	135-13-41.8969	(株)アジア航測	H19.1.9
平成8年度	331	3級	-197,020,574	-71,008,247	110.576	34-13-16.8652	135-13-45.1651	(株)アジア航測	H19.1.8
平成8年度	332	3級	-197,008,874	-70,952,418	101.835	34-13-17.2635	135-13-47.3736	(株)アジア航測	H19.1.16

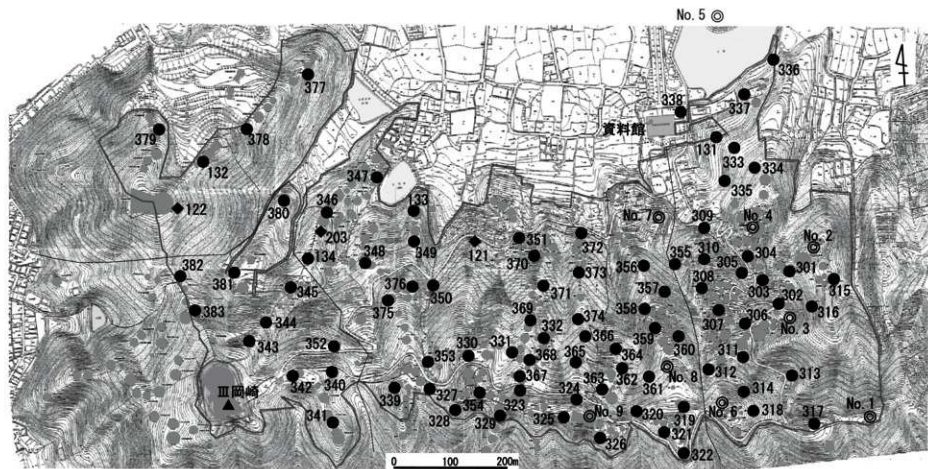
表1 測量基準点一覧

年度	基準点	級数	X	Y	H	緯度	経度	設置業者	設置日
平成10年度	333	3級	-196,717.873	-70,593.220	38,669	34-13-26.7318	135-14-01.3241	(株)アリア軌測	H11.3.5
平成10年度	334	3級	-196,761.647	-70,554.323	51,868	34-13-25.3205	135-14-02.8568	(株)アリア軌測	H11.3.5
平成10年度	335	3級	-196,783.062	-70,612.919	38,646	34-13-24.6111	135-14-00.5735	(株)アリア軌測	H11.3.5
平成12年度	336	3級	-196,558.694	-70,503.346	13,776	34-13-31.9203	135-14-04.7881	(株)アリア軌測	H13.3.2
平成12年度	337	3級	-196,620.987	-70,561.494	18,608	34-13-29.8842	135-14-02.5275	(株)アリア軌測	H13.3.2
平成12年度	338	3級	-196,635.574	-70,675.311	15,652	34-13-29.3829	135-13-58.0291	(株)アリア軌測	H13.3.2
平成15年度	339	3級	-197,069.414	-71,223.233	122,129	34-13-15.1670	135-13-36.8103	(株)アリア軌測	H16.3.5
平成15年度	340	3級	-197,030.532	-71,317.261	113,692	34-13-16.4059	135-13-33.1247	(株)アリア軌測	H16.3.5
平成15年度	341	3級	-197,111.446	-71,337.571	116,690	34-13-13.7746	135-13-32.3552	(株)アリア軌測	H16.3.5
平成15年度	342	3級	-197,029.189	-71,401.203	121,351	34-13-16.4288	135-13-29.8444	(株)アリア軌測	H16.3.5
平成15年度	343	3級	-196,963.782	-71,475.366	109,873	34-13-18.5650	135-13-26.9268	(株)アリア軌測	H16.3.5
平成15年度	344	3級	-196,933.301	-71,438.766	94,781	34-13-19.5318	135-13-28.3481	(株)アリア軌測	H16.3.9
平成15年度	345	3級	-196,876.643	-71,383.055	70,926	34-13-21.3845	135-13-30.5082	(株)アリア軌測	H16.3.9
平成16年度1	346	3級	-196,753.816	-71,299.760	45,385	34-13-25.3910	135-13-33.7284	(株)かんてい	H16.12.28
平成16年度1	347	3級	-196,685.155	-71,207.569	30,937	34-13-27.6431	135-13-37.3084	(株)かんてい	H16.12.28
平成16年度1	348	3級	-196,685.165	-71,207.567	30,985	34-13-27.6427	135-13-37.3085	(株)かんてい	H16.12.28
平成16年度1	349	3級	-196,741.457	-71,238.277	25,983	34-13-25.8081	135-13-36.1252	(株)かんてい	H16.12.28
平成16年度1	349	3級	-196,741.472	-71,238.274	26,032	34-13-25.8076	135-13-36.1253	(株)かんてい	H16.12.28
平成16年度1	349	3級	-196,806.605	-71,163.863	48,830	34-13-23.7118	135-13-39.0522	(株)かんてい	H16.12.28
平成16年度1	350	3級	-196,806.613	-71,163.857	48,875	34-13-23.7116	135-13-39.0525	(株)かんてい	H16.12.28
平成16年度1	350	3級	-196,895.903	-71,139.529	59,302	34-13-20.8194	135-13-40.0295	(株)かんてい	H16.12.25
平成16年度1	351	3級	-196,895.911	-71,139.509	59,346	34-13-20.8192	135-13-40.0303	(株)かんてい	H16.12.25
平成16年度1	351	3級	-196,825.542	-70,981.135	42,211	34-13-23.1421	135-13-46.1979	(株)かんてい	H16.12.23
平成16年度1	351	3級	-196,825.535	-70,981.128	42,209	34-13-23.1423	135-13-46.1982	(株)かんてい	H16.12.23
平成16年度1	352	3級	-196,991.223	-71,321.184	101,872	34-13-17.6808	135-13-32.5698	(株)かんてい	H16.12.23
平成16年度1	352	3級	-196,991.229	-71,321.175	101,893	34-13-17.6806	135-13-32.5691	(株)かんてい	H16.12.23
平成16年度1	353	3級	-197,032.306	-71,162.079	109,159	34-13-16.3865	135-13-39.1878	(株)かんてい	H16.12.23
平成16年度1	353	3級	-197,032.317	-71,162.079	109,155	34-13-16.3862	135-13-39.1888	(株)かんてい	H16.12.23
平成16年度1	354	3級	-197,093.029	-71,064.624	135,206	34-13-14.4396	135-13-43.0148	(株)かんてい	H16.12.23
平成16年度1	354	3級	-197,093.019	-71,064.590	135,220	34-13-14.4399	135-13-43.0161	(株)かんてい	H16.12.23
平成16年度2	355	3級	-196,890.931	-70,715.753	40,650	34-13-21.0848	135-13-56.5875	アリア軌測(株)	H17.1.18
平成16年度2	356	3級	-196,898.775	-70,762.777	61,578	34-13-20.8187	135-13-54.7518	アリア軌測(株)	H17.1.18
平成16年度2	357	3級	-196,938.385	-70,730.638	64,982	34-13-19.8409	135-13-56.0193	アリア軌測(株)	H17.1.18
平成16年度2	358	3級	-196,964.053	-70,767.151	85,719	34-13-18.6988	135-13-54.6002	アリア軌測(株)	H17.1.3.6
平成16年度2	359	3級	-197,013.270	-70,747.218	102,886	34-13-17.1062	135-13-55.2935	アリア軌測(株)	H17.1.3.6
平成16年度2	360	3級	-197,040.518	-70,707.396	107,005	34-13-16.2315	135-13-56.8075	アリア軌測(株)	H17.1.3.6
平成16年度3	361	3級	-197,101.328	-70,785.806	111,837	34-13-14.2386	135-13-53.9171	(株)かんてい	H17.1.3.6
平成16年度3	362	3級	-197,092.796	-70,823.014	117,827	34-13-14.5064	135-13-52.4555	(株)かんてい	H17.1.3.6
平成16年度3	363	3級	-197,097.760	-70,858.909	123,669	34-13-14.3365	135-13-51.0546	(株)かんてい	H17.1.3.6
平成16年度3	364	3級	-197,041.765	-70,831.079	101,805	34-13-16.1608	135-13-52.1251	(株)かんてい	H17.1.10
平成17年度1	365	3級	-197,053.520	-70,897.510	114,571	34-13-15.7630	135-13-49.5329	(株)かんてい	H17.1.12
平成17年度1	365	3級	-197,053.515	-70,897.486	114,573	34-13-15.7631	135-13-49.5338	(株)かんてい	H17.1.12
平成17年度1	366	3級	-197,012.884	-70,877.665	101,450	34-13-17.9868	135-13-50.2963	(株)かんてい	H17.1.12
平成17年度1	366	3級	-197,012.876	-70,877.645	101,455	34-13-17.9871	135-13-50.2971	(株)かんてい	H16.8.30
平成17年度1	367	3級	-197,063.660	-70,997.871	128,725	34-13-15.4092	135-13-45.6144	(株)かんてい	H17.1.12
平成17年度1	367	3級	-197,063.653	-70,997.822	128,725	34-13-15.4095	135-13-45.6163	(株)かんてい	H16.8.30
平成17年度1	368	3級	-197,024.688	-70,980.432	114,620	34-13-16.6784	135-13-46.2840	(株)かんてい	H17.1.12
平成17年度1	368	3級	-197,024.680	-70,980.382	114,635	34-13-16.6787	135-13-46.2846	(株)かんてい	H16.8.30
平成17年度1	369	3級	-196,966.308	-70,978.558	103,845	34-13-18.5738	135-13-46.2402	(株)かんてい	H17.1.12
平成17年度1	369	3級	-196,966.298	-70,978.512	103,845	34-13-18.5742	135-13-46.2420	(株)かんてい	H16.8.30
平成17年度1	370	3級	-196,857.207	-70,956.160	54,381	34-13-22.1207	135-13-47.1832	(株)かんてい	H17.1.12
平成17年度1	370	3級	-196,857.191	-70,956.142	54,381	34-13-22.1210	135-13-47.1839	(株)かんてい	H16.8.30
平成17年度1	371	3級	-196,913.376	-70,952.422	81,784	34-13-20.2983	135-13-47.3459	(株)かんてい	H17.1.12
平成17年度1	371	3級	-196,913.358	-70,952.385	81,793	34-13-20.2988	135-13-47.3473	(株)かんてい	H16.8.30
平成17年度1	372	3級	-196,826.645	-70,871.848	33,045	34-13-23.1331	135-13-50.6687	(株)かんてい	H17.1.14
平成17年度1	372	3級	-196,826.635	-70,871.845	33,045	34-13-23.1335	135-13-50.6687	(株)かんてい	H16.8.30
平成17年度1	373	3級	-196,885.406	-70,876.016	59,777	34-13-21.2248	135-13-50.3231	(株)かんてい	H17.1.14
平成17年度1	373	3級	-196,885.397	-70,876.014	59,782	34-13-21.2255	135-13-50.3233	(株)かんてい	H16.8.30
平成17年度1	374	3級	-196,969.157	-70,882.408	87,885	34-13-18.5049	135-13-50.0981	(株)かんてい	H17.1.14
平成17年度1	374	3級	-196,969.151	-70,882.404	87,885	34-13-18.5051	135-13-50.0985	(株)かんてい	H16.8.30
平成17年度2	375	3級	-196,921.395	-71,219.465	83,779	34-13-19.9723	135-13-38.9136	(株)かんてい	H17.1.14
平成17年度2	375	3級	-196,921.392	-71,219.457	83,779	34-13-19.9724	135-13-38.9139	(株)かんてい	H16.8.30
平成17年度2	376	3級	-196,896.669	-71,174.461	75,390	34-13-20.7860	135-13-38.6648	(株)かんてい	H17.1.14
平成17年度2	376	3級	-196,896.666	-71,174.454	75,382	34-13-20.7861	135-13-38.6653	(株)かんてい	H16.8.30
平成18年度	377	3級	-196,511.522	-71,330.690	47,738	34-13-33.2454	135-13-32.4456	(株)かんてい	H19.1.10
平成18年度	378	3級	-196,598.942	-71,447.319	78,544	34-13-30.3822	135-13-27.9144	(株)かんてい	H19.1.10
平成18年度	379	3級	-196,607.640	-71,598.046	104,325	34-13-30.0626	135-13-22.0273	(株)かんてい	H19.1.10
平成18年度	380	3級	-196,736.119	-71,381.611	45,522	34-13-25.9460	135-13-30.8228	(株)かんてい	H19.1.10
平成18年度	381	3級	-196,818.887	-71,483.727	65,797	34-13-22.3606	135-13-26.5665	(株)かんてい	H19.1.10
平成18年度	382	3級	-196,850.820	-71,588.150	86,989	34-13-22.1720	135-13-22.4865	(株)かんてい	H19.1.10
平成18年度	383	3級	-196,915.802	-71,566.536	99,587	34-13-20.0682	135-13-23.3504	(株)かんてい	H19.1.10

●3級基準点の一部は平成17年度に再調査実施(下段に表記)。 ●緯度は衛星測位による。

※座標は日本測地基準系に基づく

表1 測量基準点一覽



- ◎ : 1級基準点
- ◆ : 2級基準点
- : 3級基準点
- ▲ : 三等三角点

図7 測量基準点位置図

事業年度	測量	基準点設置
昭和55年度	古墳群詳細分布図作成準備委員会基本計画作成(『岩橋千塚古墳群分布図作成準備委員会報告書』S56.3.30)	
昭和56年度		1級基準杭8点設置
昭和57年度		1級基準杭1点、3級基準杭設置8点、図根点35点設置
昭和58年度	平板測量6,400㎡、平板測量16,000㎡(委託)	
昭和59年度		3級基準杭6点、図根点40点設置
昭和60年度	平板測量12,000㎡(委託)	図根点4点設置
昭和61年度	平板測量16,000㎡(委託)、1/400図編集・作成	
昭和62年度		3級基準杭4点、図根点31点設置
昭和63年度	平板測量16,000㎡(委託)	図根点4点設置
平成元年度	1/400図編集・作成(委託)	2級基準点2点、3級基準点4点設置
平成2年度		3級基準杭4点、図根点28点設置
平成3年度	平板測量13,000㎡(委託)	図根点7点設置
平成4年度		3級基準杭4点、図根点28設置
平成5年度	平板測量13,000㎡(委託)	
平成6年度		3級基準杭3点、図根点25点設置
平成7年度	平板測量12,000㎡(委託)	図根点6点設置
平成8年度		3級基準杭3点、図根点24点設置
平成9年度	平板測量12,000㎡(委託)	図根点4点設置
平成10年度		3級基準杭3点、図根点25点設置
平成11年度	平板測量12,000㎡(委託)	図根点9点設置
平成12年度		3級基準杭3点、図根点25点設置
平成13年度	平板測量9,500㎡(委託)	
平成14年度	平板測量8,200㎡(委託)	
平成15年度		3級基準杭7点設置
平成16年度		3級基準杭19点設置
平成17年度		3級基準杭12点設置、古墳測量杭21点設置
平成18年度		2級基準杭1点、3級基準杭7点、4級基準点30点設置
平成19年度	測量8,000㎡(直営)-発掘調査・石室簡易実測、レーザー測量13,000㎡(委託)	
平成20年度	レーザー測量 1回目:14,000㎡・2回目:6400㎡・3回目:14,000㎡(委託)	

平成20年度まで	測量範囲 計201,500㎡	1級基準点 9点	1級節点 3点
		2級基準点 3点	2級節点 7点
		3級基準点 87点	3級節点 132点
		4級基準点 30点	4級節点 40点
		図根点 295点	

表2 岩橋千塚古墳群詳細分布図作成事業概要

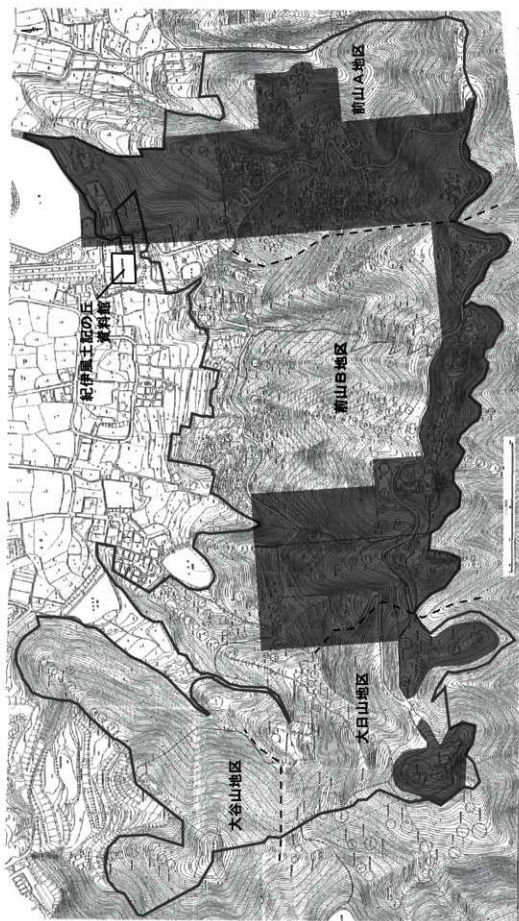


図8 測量実施状況

第3節 調査と保存の歴史

岩橋千塚古墳群の発掘調査は明治時代に始まり、昭和6年（1931）には史跡に指定され、保護されている。全国的にも早い段階で調査・保存が進められ、昭和27（1952）年の特別史跡指定に至っており、今日まで守り伝えられた古墳群といえる。ここでは岩橋千塚古墳群の調査と保存の歴史を振り返っておきたい。

江戸時代以前

岩橋山塊は古墳時代以降、近年まで里山として利用されてきたようである。その中で日前宮に近い花山地区は、古墳時代以降も紀伊国造家の墓域として存続したものと考えられる。平安時代には花山地区の西側で蔵骨器が出土しており、花山古墓と仮称されている。室町時代には紀伊国造家により興徳寺が建立され、江戸時代には紀伊国造家墓域が築かれている。

古墳の盗掘は鎌倉時代頃に始まったようで、大日山35号墳や將軍塚等の石室内から瓦器片が出土している。江戸時代になると田辺藩主安藤家の領地となっており、この時期には盗掘はあまり進まなかったものと推定されている。江戸時代後期に編纂された『紀伊統風土記』の岩橋村の項に「村の南山に古墳の跡多し誰の墳なるや詳ならず」と記載されている¹¹¹。また、『紀伊名所図会』の姻山の項に「此山において往々陶器をほり出すことあり…上古の墳墓にもあらんか。その既に荒廃の後、土人まれ、にその埋葬の具をひろひ得るをもて、はじめは陶器山ともいひしなるを、後世継してツツキ山とよべるにや」と記載があり、花山地区の古墳に関する記述が遺されている。なお、岩橋千塚の北西端に位置する花山は、姻山・陶器山のほかにハニ山・埴輪山と呼ばれており、昔から埴輪が見つかったことによる名称であろう。

明治時代

明治時代になると藩は解体され県へと変わり、岩橋千塚周辺は、明治時代の初めに西和佐村の共有地になったが、その頃の状況は伝わっていない。

明治39年（1906）には、東京帝国大学の坪井正五郎と交友のあった紀州徳川家の当主・徳川頼倫が古墳群の調査を行っている。この調査の翌年、明治40年（1907）には東京帝国大学人類学教室の大野雲外が、岩橋千塚で出土した装飾付き須恵器（図9）や天王塚古墳・將軍塚古墳・前山A17号墳の石室構造について報告した（図10）。前山A17号墳では発掘調査が実施され、箱式石棺の副室から銜角付冑が出土した。明治44年（1911）にはイギリス人のN.G.マンローが『Prehistoric Japan』で岩橋千塚古墳群の石室を海外で紹介した（図10）。

岩橋千塚の石室や副葬品が知られるようになってとともに、盗掘も行われるようになっていった。



図9 岩橋千塚出土装飾付き坏須恵器

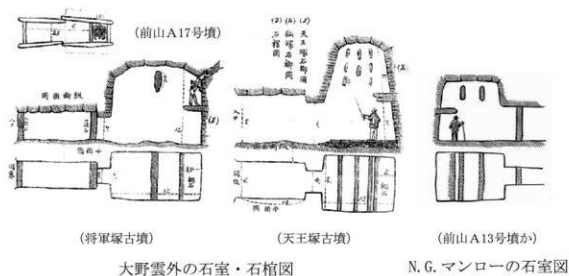


図 10 岩橋千塚の石室紹介図

大正時代

大正7年(1918)には、和歌山県が岩橋千塚第一期調査を行った。黑板勝美の指導のもと岩井武俊・田澤金吾らが前山A地区を調査し、大正10年(1921)に『和歌山県史跡名勝天然記念物調査会報告書』として報告した。この報告では前山A地区の古墳分布図のほか、古墳の図面と写真が多数掲載されている。報告された古墳は前山A 46号墳や前山A 67号墳など27基にのぼり、このうち11基の古墳は、現在紀伊風土記の丘の石室公開古墳として活用されている。

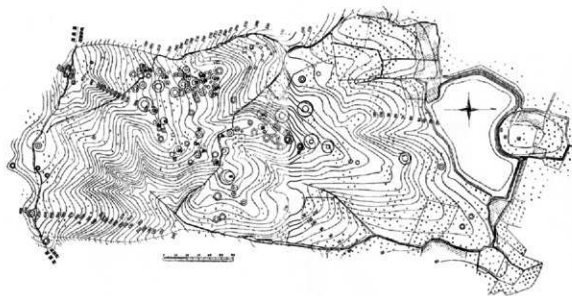


図 11 県第一期調査古墳分布図

昭和時代

岩橋千塚古墳群は、昭和6年(1931)7月31日、内務省告示第275号をもって史跡指定を受けた。指定範囲は当時の西和佐村の共有林で、現在の前山A・B地区にあたる。昭和7年(1932)には、大日山35号墳石室に祀られた大日如來の参詣のための工事中に、石室と遺物が発見されている。石室内から鏡などが出土したと報告されているが、大日山35号墳との関係は判然としな¹⁷い。

第二次世界大戦の終わる昭和20年頃には防空壕の掘削などにより古墳の破壊が進行した。戦後もない昭和23年頃には食糧難による岩橋千塚の開墾計画が持ち上がったが、田中敬忠・宮田啓二氏らの尽力により古墳群は保存された。古墳群の保存運動として全国でも初期の例として知られ、昭和27年(1952)の特別史跡指定に結実した。

しかし、昭和30～40年代になると、岩橋千塚周辺で市街化が進み、古墳群は存亡の危機に立たされた。市街地に近い花山・大谷山・井辺前山等の地区では、開発と文化財保護の折り合いが付き、花山10号墳や花山44号墳、井辺前山6号墳など岩橋千塚の主要な前方後墳までもが消滅していった。

このような中で、和歌山市教育委員会は関西大学・同志社大学等の協力を得て、古墳群の実態調査に乗り出した。¹¹・¹² 調査成果は『岩橋千塚』¹³『井辺八幡山古墳』¹⁴という報告書にまとめられ、古墳の分布や、主要古墳の規模・形状や石室、出土遺物等が紹介された。また、県教育委員会で¹⁵は特別史跡岩橋千塚古墳群の県有地化を進め、昭和46年(1971)8月に紀伊風土記の丘として開園した。

紀伊風土記の丘開園後、隣接する大谷山地区において、昭和47～48年には粘土槨をもつ大谷山39号墳の調査や初期の横穴式石室をもつ大谷山6号墳の調査が行われた。¹⁶ また、昭和50年度には紀伊風土記の丘園内にて、花木園・花木園東地区の発掘調査が行われ、¹⁶墳丘が復元整備された。昭和63年(1988)には、特別史跡の追加指定が行われ、周辺地の古墳の保存がはかられた。

平成時代

平成7～10年度には、特別史跡岩橋千塚古墳群の周辺部において古墳の分布踏査と発掘調査が行われ、岩橋千塚全体の把握が進んだ。¹⁷・¹⁸ 大谷山12～17・38号墳の周辺は発掘調査を経て、平成12年度に特別史跡に追加指定された。¹⁹

平成15年度からは、岩橋千塚古墳群の保存と活用をより充実させるために、和歌山県では特別史跡岩橋千塚古墳群保存修理事業を開始した。大日山35号墳からは両面人物埴輪などの珍しい埴輪が出土し、全国的に注目を集めている。古墳群の分布調査も進み、帆立貝形古墳や方墳の発見が相次いでいる。事業は平成25年度まで続く計画であり、古墳群の保存と活用が期待されている。

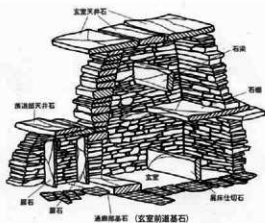


図12 岩橋型石室模式図

【参考文献】

- 註1 仁井田好古編 1889『紀伊統風土記』（天保10（1839）年3月15日謹上）
- 註2 高市志友 1812『紀伊名所図会』巻ノ四（文化9（1812）年出版）
- 註3 大野雲外 1907『紀伊海草郡岩橋古墳発見祝部土器』『東京人類学雑誌 258』
- 註4 大野雲外 1907『紀伊国海草郡古墳石椁構造に就いて』『東京人類学雑誌 259』
- 註5 N.G.MUNRO 1911『Prehistoric Japan』
- 註6 田澤金吾 1921『岩橋千塚第一期調査』『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査会報告書』第1輯
- 註7 勝田良太郎 1933『大日ノ古墳』『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査会報告』12
- 註8 和歌山市教育委員会 1964『花山古墳』
- 註9 和歌山市教育委員会 1967『和歌山市花山西部地区古墳』
- 註10 和歌山県教育委員会 1967『昭和41年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報』
- 註11 大野嶺夫 2003『岩橋千塚とところどころ』
- 註12 和歌山市教育委員会・関西大学考古学研究室 1967『和歌山市東部地区埋蔵文化財（古墳）第一次分布調査概報』
和歌山市教育委員会・関西大学考古学研究室 1968『和歌山市東部地区埋蔵文化財第二次分布調査概報（古墳・窯跡）』
など
- 註13 関西大学文学部考古学研究室 1967『岩橋千塚』
- 註14 和歌山市教育委員会・同志社大学 1972『井辺八幡山古墳』
- 註15 和歌山県教育委員会 1972『大谷山4・5・6・39号墳』
- 註16 和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所 1976『紀伊風土記の丘年報第3号』
- 註17 和歌山県教育委員会 1987『井辺前山古墳群とその関連道跡』
- 註18 和歌山県教育委員会 2000『岩橋千塚周辺古墳群緊急調査報告書』
- 註19 和歌山県教育委員会 2004『岩橋千塚古墳群の調査（平成6年度）』『和歌山県埋蔵文化財調査年報・平成14年度』

【平成15～20年度事業について掲載した概要報告】

- 和歌山県教育委員会『和歌山県埋蔵文化財調査年報』平成15・16年度
紀伊風土記の丘『紀伊風土記の丘年報』平成17～20年度
財団法人和歌山県文化財センター『和歌山県文化財センター年報』平成15～20年度

【平成15～20事業の成果を中心に作成した展示図録】

- 和歌山県立紀伊風土記の丘 2008『図録・岩橋千塚』
文化庁 2009『発掘された日本列島・新発見考古速報 2009』

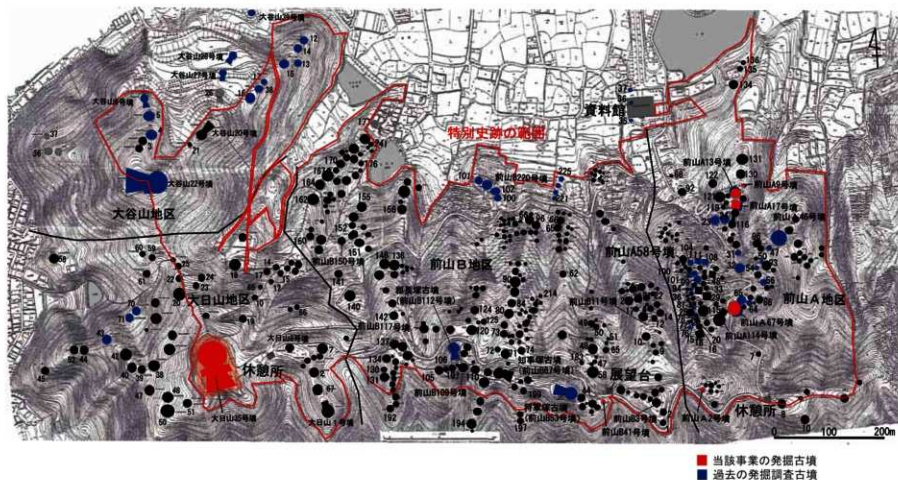


図 13 発掘調査した古墳の位置

元号	西暦	調査/保存	内容
江戸～明治			江戸時代は田辺藩領。安藤帯刀が廃藩置縣の折に岩橋村に寄付、村有林となる。
明治39年	1906	調査	徳川頼倫による岩橋千塚の調査
明治40年	1907	調査	大野雲外による岩橋千塚の発掘調査。この頃から盗掘が盛んになる。
大正7年	1918	調査	県が岩橋千塚の第一期調査を実施。前山A地区の古墳27基を調査
大正10年	1921	調査	『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査会報告書』第1輯、刊行
昭和6年	1931	保存	7月31日、内務省史跡指定
昭和7年	1932	調査・保存	8月8日、大日山山頂の東方隣接地で、工事中に鏡等が出土
昭和20年頃	1945	保存	防空壕等の掘削・開掘による古墳の破壊
昭和23年頃	1948	保存	食糧難に伴う開墾計画が浮上し、田中敬忠・宮田啓二らによる保存運動が起こる。
昭和27年	1952	保存	3月29日、特別史跡に指定
昭和35年	1960	保存	鳴神団地造成、鳴神墳輪窓？が破壊される。
昭和36年	1961	調査	9月、第二室戸台風被害による発見古墳（前山B101号墳）の発掘調査実施
昭和37年度	1962	調査・保存	和歌山市教育委員会、古墳の分布図と調査カードを作成
昭和38年	1963	調査・保存	4月20日～5月5日、花山団地造成予定地にて、花山10・11号墳の発掘調査実施。調査後、土取りのため消滅
昭和38年度	1963	調査・保存	12月29日～1月7日、県・市が団地造成中に発見された井辺前山32号墳を調査
昭和39年	1964	保存	花山1・12・15・18号墳、これ以前に破壊
昭和39年	1964	調査	工事に発見された井辺前山36号墳と和歌山市が調査。
昭和38～41年度	1963～1966	調査	和歌山市・関西大学による岩橋千塚の総合調査（測量…花山2・20・大谷山20・大日山1・35・知事塚古墳ほか、発掘…花山6・8・10・大谷山22・郡長塚・將軍塚・天王塚・井辺1・寺内18号墳ほか）
昭和40年	1965	保存	井辺前山6号墳に隣接する円墳、仮称6-1・6-2号墳が土取りのため消滅
昭和41年	1966	調査・保存	4月20日～7月31日、土取り・開墾で部分的に破壊されていた井辺前山6号墳を記録保存のための緊急発掘する。調査後に消滅。
昭和41年	1966	調査	5月～7月、花山西部地区の古墳群発掘調査（花山42・44～46号墳）
昭和41年	1966	保存	8月、花山42・44号墳は消滅、花山45・46号墳は埋め戻される
昭和43年度	1968	保存	県立紀伊風土記の丘、土地買収開始
昭和43年度	1968	調査	7月28日～10月21日、和歌山市・関西大学が寺内地区総綱寺谷の古墳群調査（寺内6・28・32・63号墳）
昭和44年	1969	調査	1月17日～4月5日、和歌山市・同志社大学が井辺八幡山古墳の調査を実施。東西の遺山から多量の埴輪と裝飾付き須臾器が出土
昭和44年	1969	保存	8月22日、前年からの大谷山・大日山西麓土取りが進行、大日山33号墳の調査のため一時黙子を申し入れ。翌日早朝、ブルドーザーで破壊される。
昭和46年頃	1971	保存	紀伊風土記の丘資料館建設予定地で前山B35～37号墳確認。36号墳は資料館ビロイデーに移築される。園路建設に伴い、前山A・B地区の古墳の削平あり
昭和46年	1971	保存	8月2日、県立紀伊風土記の丘、開闢。大谷山地区を中心に用地買収計画進行
昭和46年	1971	保存	11月23日、前山B177～179・206号墳、宅地造成のため、突如破壊される
昭和47年	1972	調査・保存	6～9月、県が大谷山4～6号墳を発掘調査。約5万㎡の土地を買収、保存
昭和47年	1972	調査・保存	10月、県が大谷山39号墳記録保存のための発掘調査、調査後破壊される
昭和47年	1972	保存	この時点で、花山8～11、14・16・17号墳、団地造成のため削平・消滅確認
昭和48年	1973	調査・保存	8月14日、県が大谷山27・28号墳を発掘調査、現地説明会を開催。調査後、大谷山26号墳とともに消滅・破壊
昭和50年度	1975	調査・保存	10月1日～3月31日、紀伊風土記の丘の前山B地区環境整備に先立つ調査で、花木園地区の古墳（前山B100～102・220号墳）が発見される。墳丘が復元整備
昭和51年	1976	調査・保存	1月10日～3月31日、前山B地区環境整備のため、花木園東地区の古墳（前山B221・223～225号墳）の痕跡が発見される。埋め戻して保存が図られる。
昭和52年	1977	調査・保存	2月22日～3月15日、隣接地の土取りがあり、井辺前山5号墳が発掘調査される。
昭和53年	1978	調査	12月19日～29日、砂羅之谷竊跡群の発掘調査実施。
昭和62年度	1987	調査	県が『井辺前山古墳群とその関連遺跡』を発行
昭和63年	1988	保存	12月21日、大谷山6号墳周辺を追加指定
平成3年	1991	調査	9月、県文化財センターが山東22号墳の発掘調査を実施
平成5年	1993	調査	8～9月、市が寺内地区の実態確認調査を実施。寺内57号墳横穴式石室を確認
平成6年度	1994	調査・保存	大谷山12～17・38号墳の調査を実施。調査後に土地買上・追加指定
平成7～11	1995～1999	調査	県が岩橋千塚周辺古墳群緊急確認調査を実施。特別史跡西側隣接地の古墳分布調査を実施。花山33・36、大日山43・58・70・71号墳、井辺前山前24・26号墳、寺内22・23・64号墳を発掘
平成12年	2000	保存	3月29日、大谷山地区北東部を追加指定
平成14年度	2002	調査	特別史跡岩橋千塚古墳群の再踏査による古墳群リスト修正作業始まる。
平成15年度	2003	調査・保存	12～3月、市が和佐地区の和坂南垣内古墳群を調査
平成15年度	2003	調査・保存	県が岩橋千塚古墳群の整備事業を開始（当事業）

表3 調査と保存の歴史

第4節 事業の経緯と経過

(1) 事業の経緯

紀伊風土記の丘は昭和43年度から土地公有化と整備が始まり、昭和46年8月に開園した。開園以降も継続して整備と維持管理が行われてきたが、その間における古墳群の整備は花木園地区における4基の古墳の墳丘を復元的に整備したことなどにとどまっていた。また、岩橋千塚古墳群の整備方針は紀伊風土記の丘設立当初期より一貫して現状を維持しながら見学に供するという姿勢であった。

開園30年を経過し、古墳の石室や墳丘にも風化や傷みが見られるようになってきた。また、墳丘上の樹木が大きく成長し、樹根による石室への悪影響や倒木による墳丘の崩落を招きかねない事態や、墳丘の見通しが悪くなり、墳形が分かりづらいなどの問題が顕在化していた。

和歌山県教育委員会はこのような問題を解決するとともに、我が国有数の古墳群である岩橋千塚の学術的価値をより分かり易い形で来訪者に見てもらうことを目的として、平成15年度から特別史跡岩橋千塚古墳群の保存修理事業に着手した。加えて、この事業は和歌山県の「紀ノ川緑の歴史回廊推進事業」の一環として、特別史跡岩橋千塚古墳群を紀ノ川流域の文化遺産を連ねる重要なポイントとして位置づけることも目的であった。

事業は各年度毎に下記の委員会を設置し、指導助言を受けながら行った。事務局は平成15・16年度が文化遺産課、平成17年度以降は紀伊風土記の丘が担当した。

平成15年度

大日山35号墳保存修理委員会

森 郁夫 帝塚山大学教授

和田晴吾 立命館大学教授

菅谷文則 滋賀県立大学教授

増測 徹 橘女子大学教授

高瀬要一 奈良文化財研究所計測修景調査室長

開催日：第1回 平成15年8月21日

第2回 平成15年10月10日

内 容：第1回 大日山35号墳の整備について
特別史跡岩橋千塚古墳群整備計画(案)について
第2回 大日山35号墳発掘調査の成果と今後の方針について
大日山35号墳保存修理について

平成16年度

特別史跡岩橋千塚古墳群保存整備委員会

森 郁夫 帝塚山大学教授

和田晴吾 立命館大学教授

菅谷文則 滋賀県立大学教授

増測 徹 橘女子大学教授

開催日：平成16年11月1日

内 容：平成16年度特別史跡岩橋千塚古墳群の発掘調査成果と保存修理事業の実施について

平成 17 年度

特別史跡岩橋千塚古墳群整備委員会

森 郁夫 帝塚山大学教授

和田晴吾 立命館大学教授

菅谷文則 滋賀県立大学教授

増測 徹 京都橋大学教授

開催日：平成 17 年 11 月 15 日

内 容：平成 17 年度事業実施状況について

平成 18 年度事業計画について

平成 18 年度

特別史跡岩橋千塚古墳群整備委員会

森 郁夫 帝塚山大学教授

和田晴吾 立命館大学教授

菅谷文則 滋賀県立大学教授

増測 徹 京都橋大学教授

内田和伸 奈良文化財研究所景観研究室長

開催日：平成 18 年 9 月 7 日

内 容：平成 18 年度事業実施状況について

平成 19 年度事業計画について

平成 19 年度

特別史跡岩橋千塚古墳群整備委員会

森 郁夫 帝塚山大学教授

和田晴吾 立命館大学教授

菅谷文則 滋賀県立大学教授

増測 徹 京都橋大学教授

内田和伸 奈良文化財研究所景観研究室長

開催日：平成 20 年 2 月 1 日

内 容：平成 19 年度事業の実施状況について

平成 20 年度事業計画について

平成 20 年度

特別史跡岩橋千塚古墳群整備委員会

森 郁夫 帝塚山大学教授

和田晴吾 立命館大学教授

菅谷文則 滋賀県立大学名誉教授

増測 徹 京都橋大学教授

内田和伸 奈良文化財研究所景観研究室長

開催日：平成 20 年 10 月 29 日

内 容：平成 19 年度事業報告

平成 20 年度事業の進捗状況について

今後の事業計画の検討



整備委員会の現地指導

(2) 事業の経過

A. 平成 15 年度

大日山 35 号墳を対象に危険木伐採、墳丘測量、墳丘調査、後円部横穴式石室の調査、応急遺物整理を実施するとともに、石室の保存修理を行い、写真・図面等を焼き付けたセラミック製の説明板を 2 基設置した。石室の保存修理は、玄室の石棚・両袖部・玄門部を対象にエポキシ樹脂を加えた擬土による接着・補填と欠落部の石材補填を行い、擬土には近似色の色粉を混ぜて全体がなじむよう配慮した。

東側造出の発掘調査では、翼を広げた鳥形埴輪や大型の家形埴輪など、注目すべき埴輪群を発見した。

なお、当該年度には特別史跡の追加指定や今回の整備の基本方針等を内容とする「特別史跡岩橋千塚古墳群整備計画」を策定した。

B. 平成 16 年度

大日山 35 号墳では、危険木伐採と東側くびれ部・墳丘基壇裾部のトレンチ調査を実施した。危険木伐採は、大日山 35 号墳の他 25 基の古墳を対象に行った。

T 字形石室の前山 A 2 号墳では墳丘測量、墳丘調査、石室調査を行った上で、石室を合成樹脂を混ぜた擬土によって強化するとともに、横にセラミック製の説明板を設置した。また、前山 B 41 号墳については、墳丘測量、石室調査、石室埋め戻し、墳丘修景整備を実施した。

C. 平成 17 年度

大日山 35 号墳と前山 A 67 号墳の発掘調査を実施した。大日山 35 号墳の発掘調査では、西側造出より両面人物埴輪や胡籬形埴輪、馬形埴輪等を発見した。前山 A 67 号墳については、羨道部の調査を実施した。また、平成 15・16 年度大日山 35 号墳の出土遺物整理も行っている。

発掘調査の結果をもとに、大日山 35 号墳の墳丘整備と前山 A 67 号墳の保存公開施設の実施設計も行った。前山 A 2 号墳の T 字形石室上部にはガラス覆屋を設置した。

將軍塚（前山 B 53 号墳）他 29 基の危険木を伐採し、知事塚（前山 B 67 号墳）他 8 基の保存修景工事を実施した。

D. 平成 18 年度

前山 A 13 号墳横穴式石室の排水機能回復等を目的とした発掘調査を実施した。また、大日山 35 号墳出土遺物の整理も行った。

危険木伐採は前山 A 46 号墳他 12 基で実施した。墳丘保存修景工事は前山 A 51 号墳他 27 基を対象とした。

前山 A 67 号墳については、玄室奥壁石積を修復し、墓道両側法面をコンクリート擁壁によって保護するとともに、石室にソーラー発電による照明装置を設置した。

E. 平成 19 年度

前山 A 9 号墳・17 号墳の発掘調査を実施した。大日山 35 号墳等の出土遺物整理も継続して行っている。大日山 35 号墳では、東西造出等の墳丘復元整備工事を実施した。

危険木伐採は大日山 35 号墳他 43 基で、保存修景工事は前山 A 16 号墳他 14 基で行った。また説明板を大日山 35 号墳、前山 A 67 号墳、將軍塚（前山 B 53 号墳）、前山 A 46 号墳の 4 基に設置した。

F. 平成 20 年度

前山 A 9 号墳・13 号墳周辺の古墳状隆起部の発掘調査を実施し、古墳ではないことを確認した。大日山 35 号墳等の出土遺物整理も実施している。

危険木伐採は前山 B 114 号墳他 9 基を対象とした。

石室公開古墳のうち、見学者が特に多く、岩橋千塚古墳群における代表的な横穴式石室をもつ將軍塚（前山 B 53 号墳）と前山 A 46 号墳の石室内部にソーラー発電による照明装置を設置するための実施設計書を作成した。

説明板については、前山 A 地区のうち公開古墳が集中している南北約 350 m、東西約 300 m の範囲に、岩橋千塚古墳群全体の説明板 2 基と各古墳の説明板 10 基、古墳群の案内標識板 10 基を設置した。

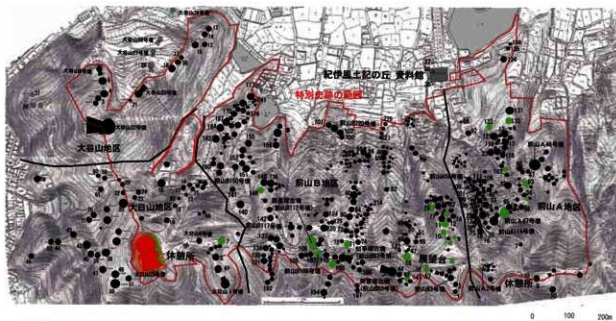
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
危険木伐採	大日山35号墳	大日山35号墳 前山A 2号墳 前山B 41号墳 前山A 67号墳 他18基	前山B 53号墳 (將軍塚) 他29基	前山A 46号墳 他12基	大日山35号墳 他43基	前山B 114号墳 他9基
発掘調査 ()は出土遺物整理	大日山35号墳	大日山35号墳 前山A 2号墳 前山B 41号墳	大日山35号墳 前山A 67号墳	前山A 13号墳 (大日山35号墳) (前山A 2号墳)	前山A 17号墳 前山A 9号墳 (大日山35号墳)	前山A 13号墳 (大日山35号墳)
保存修景			前山A 4号墳 他9基	前山A 51号墳 他27基	前山A 16号墳 他14基	
保存整備実施設計・監理			大日山35号墳 前山A 67号墳		大日山35号墳 (監理)	前山A 46号墳 前山B 53号墳 (將軍塚)
石室保存公開施設設置・ 墳丘復元整備工事		前山A 2号墳	前山A 2号墳	前山A 67号墳	大日山35号墳	
説明板設置	大日山35号墳	前山A 2号墳			大日山35号墳 前山A 67号墳 前山B 53号墳 (將軍塚) 前山A 46号墳	前山A地区 22基
事業費 (円) (主たる事業費+その他の経費)	20,000,766	10,000,149	22,000,282	25,001,322	26,992,688	6,661,455

表4 事業内容一覧



- 発掘調査
- 危険木伐採
- 説明板等設置
- 保存公開施設設置
- 保存修繕工事

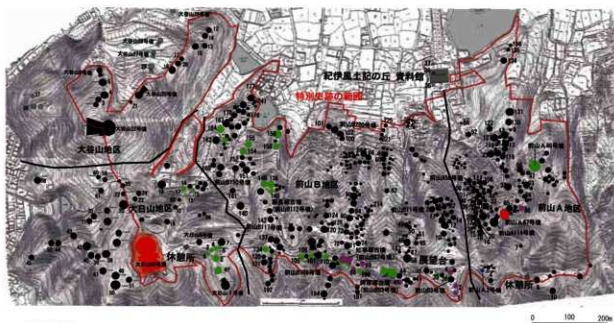
平成15年度事業 全体平面図



- 発掘調査
- 危険木伐採
- 説明板等設置
- 保存公開施設設置
- 保存修繕工事

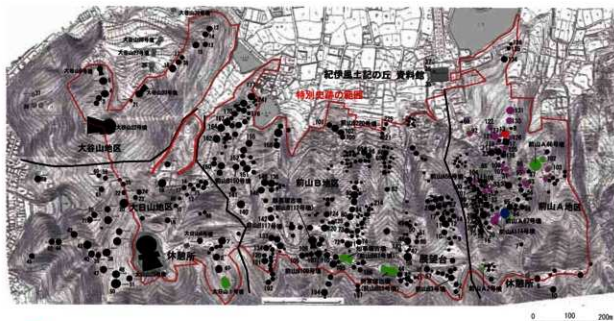
平成16年度事業 全体平面図

図14 保存修理事業対象古墳位置図 (平成15・16年度)



- 発掘調査
- 危険木伐採
- 説明板等設置
- 保存公開施設設置
- 保存修繕工事

平成17年度事業 全体平面図



- 発掘調査
- 危険木伐採
- 説明板等設置
- 保存公開施設設置
- 保存修繕工事

平成18年度事業 全体平面図

図 15 保存修理事業対象古墳位置図 (平成 17・18 年度)



図 16 保存修理事業対象古墳位置図（平成19・20年度）

第2章 調査

第1節 発掘調査

(1) 目的と経緯・経過

発掘調査の目的

岩橋千塚古墳群は今から約100年前の徳川頼倫・大野雲外・N.G.マンローらによる調査成果から、特別な価値のある古墳群として、日本のみならず海外まで紹介された古墳群である。先人が守り伝えてきたこの古墳群の価値を正しく評価し、広く世の中に紹介し伝えていくために、和歌山県では紀伊風土記の丘を建設してその保存・管理・活用にあたっている。

平成15年度から実施している当事業では、県内最大規模を誇る大日山35号墳の復元整備を行うため発掘調査を実施した。東西の造出からは類例のない両面の人物・翼を広げた鳥・胡篋・双脚輪状の冠帽をかぶる人物などの埴輪が出土しており、全国的に注目を集めている。また、もう一方の核となる事業として、群集墳の墳丘形状と分布状況、各種石室の調査を実施することとした。発掘調査は、前山A地区の石室公開古墳の再調査を中心とし、紀伊風土記の丘の古墳見学の園路沿いに事業を展開している。

調査対象古墳の選定

発掘調査にあたっては文化遺産課と紀伊風土記の丘が調査候補となる古墳を選定し、整備委員会で検討のうえ、調査を実施している。事業を始めるにあたり、平成15年度には、紀伊風土記の丘園内で見学可能な古墳の中で最大規模である大日山35号墳を調査対象として、整備・公開することとした。平成16年度にはT字形石室と呼ばれる横長で小型の横穴式石室をもつ前山A2号墳と展望台に隣接する前山B41号墳を調査対象とした。平成17～19年度は、資料館に近い前山A地区を石室公開古墳地区として認識し、岩橋型横穴式石室をもつ前山A13・67号墳と、小型竪穴式石室をもつ前山A9号墳、箱式石棺をもつ前山A17号墳の再調査を行っている。

なお、大日山35号墳と前山A13号墳の発掘調査成果は、出土遺物整理作業と古墳整備事業完了後に報告書を取りまとめる計画なので本報告書ではその概要を記すにとどめた。

調査の経過

発掘調査は、平成15・16年度は文化遺産課、平成17年度以降は紀伊風土記の丘が担当して指示・判断を行い、財団法人和歌山県文化財センターが現場作業の支援にあたった。

現地は草木の生い茂る丘陵の斜面にあたるため、調査に先立ち樹木の伐採や笹草刈りを行い、現況測量を実施した。発掘は人力掘削で行い、調査後には埋め戻しを行っている。測量・実測は詳細分布図作成事業により設置した基準点を用い、基本的に東西南北で4mに区切ったグリッドを用いて遺物の取り上げを行っている。調査後の遺物は和歌山県教育委員会が所蔵し、紀伊風土記の丘の収蔵庫に保管している。

(2) 各年度の調査概要

A. 平成 15 年度の発掘調査

大日山 35 号墳の第 1 次調査を実施した。

調査では墳丘測量ののち、墳丘の規模・形状の確認調査を行い、調査区を拡張して東造出の埴輪と須恵器大甍の配置状況の確認を行った。また、年度末に横穴式石室床面の調査を行い、須恵器や鉄製品片・玉類を検出した。調査の結果、墳丘の下に基壇の存在を確認したほか、「翼を広げた鳥形埴輪」等多数の埴輪が出土した。

なお、応急整理作業として、調査で出土した約 150 箱の埴輪等の洗浄と台帳整備を行った。

現地調査期間は平成 15 年 6 月 26 日から平成 16 年 3 月 31 日までで、調査区は 11 か所で、発掘面積は 675㎡、測量面積は 12,484㎡である。大日山 35 号墳の調査成果については、平成 16・17 年度分も合わせ、後日、別途報告書を作成する計画である。

B. 平成 16 年度の発掘調査

前山 A 2 号墳・前山 B 41 号墳・大日山 35 号墳の発掘調査を実施した。

前山 A 2 号墳と前山 B 41 号墳は横穴式石室の調査である。前山 A 2 号墳では T 字形と呼ばれる小型で横に長い横穴式石室の調査を行い、石室の閉塞状況を確認した。前山 B 41 号墳は調査後埋め戻しを行っているが、前山 A 2 号墳は平成 17 年度に石室上部に強化ガラス製の覆屋を設置して公開している。大日山 35 号墳の第 2 次調査では基壇上面を巡る円筒埴輪列を確認した。

なお、整理作業として、前年度に出土した埴輪等の接合を開始した。翼を広げた鳥形埴輪と須恵器大甍は復元を行い、盛装男子、水鳥、猪と思われる四足獣についても復元作業を進めた。

現地調査期間は平成 16 年 8 月 18 日から平成 17 年 1 月 11 日までで、発掘面積は 50㎡、測量面積は 400㎡である。

C. 平成 17 年度の発掘調査

大日山 35 号墳と前山 A 67 号墳の調査を行った。

前山 A 67 号墳の調査では、横穴式石室入口部分の調査を行い、墳丘規模の確保のため盛土をしている状況を確認した。大日山 35 号墳の第 3 次調査では西造出の発掘のほか、後円部・前方部・基壇・墳頂部の確認調査を行った。西造出では、「両面人物埴輪」や「胡録形埴輪」などを含む多量の埴輪が出土した。

なお、応急整理作業として、西造出から出土した埴輪の洗浄を行った。

現地調査期間は平成 17 年 9 月 8 日から平成 18 年 3 月 10 日までであるが、このうち前山 A 67 号墳は 10 月 21 日から 11 月 15 日に掘削を行い、整備委員会の後、3 月 6 日から 3 月 9 日まで追加調査を行った。発掘面積は約 315㎡、うち前山 A 67 号墳は約 16㎡である。発掘調査を行った場所のほかに、知事塚古墳を含む 9 基の古墳の測量を行っており、測量面積は 2,168㎡である。

D. 平成 18 年度の発掘調査

前山 A 13 号墳の調査及び前山 A 67 号墳の補足調査を実施した。

前山 A 13 号墳では、石室の床面及び排水溝の調査を実施し、石室の展開図を作成した。前山 A 67 号墳の調査では、羨門部と排水溝について調査を行った。

前山 A 13 号墳の発掘調査は、紀伊風土記の丘が担当し、財団法人和歌山県文化財センターが現地調査の支援にあたった。前山 A 67 号墳の調査は、保存公開施設設置工事に先立つ補足調査である。

なお、整理作業として、形象埴輪・土器の復元・実測を行った。両面人物埴輪等が復元され、12 月に紀伊風土記の丘の資料館にて特別公開した。また、前山 A 2・B 41 号墳の須恵器・土師器の接合と実測も行っている。

現地調査期間は、前山 A 13 号墳が平成 18 年 7 月 25 日から 10 月 12 日までで、発掘面積は 13㎡、測量面積は 480㎡である。

E. 平成 19 年度の発掘調査

前山 A 9 号墳と前山 A 17 号墳の調査を実施した。

前山 A 17 号墳は明治 40 年（1907）に調査され学史的にも著名な箱式石棺をもつ方墳であり、前山 A 9 号墳は大正 7 年（1918）に調査された小型壜穴式石室をもつ円墳である。これらの古墳と隣接する古墳状隆起について調査を行い、紀伊風土記の丘への来園者が最初に古墳に触れる地区の古墳の特色と分布状況を明らかにすることにした。

なお、整理作業として、埴輪の復元を続けた。

発掘調査は、紀伊風土記の丘が実施した。当年度の発掘調査に限り、埋蔵文化財部門の国庫補助事業として行っている詳細分布図作成事業の一環として実施している。現地調査期間は平成 19 年 10 月 1 日から平成 20 年 2 月 27 日までで、発掘面積は約 59㎡、測量面積は 1,500㎡である。

F. 平成 20 年度の発掘調査

前山 A 9・A 13 号墳の隣接地の調査を実施した。

前年度に引き続き、低墳丘の古墳の有無を確認するため確認調査を実施した。前山 A 9 号墳の北・北西及び前山 A 13 号墳西側の古墳状隆起について、古墳ではないことを確認した。

なお、整理作業は、埴輪の復元・実測を行っている。胡録形埴輪の復元が完了し、秋に特別公開を行った。また、紀伊風土記の丘の資料館にて、12 月 2 日～2 月 22 日に岩橋千塚の特別展を開催し、当事業で出土した埴輪の紹介を行っている。

調査期間は平成 20 年 7 月 1 日から 12 月 6 日までで、発掘面積は約 38㎡である。



図 17 発掘調査対象古墳の位置 (平成 15 ~ 20 年度)

年度	発掘/測量/整理	対象古墳名	回数	期間	目的	成果	発掘/測量面積 (㎡)	調査指導	調査主体	業務支援	現場作業担当	実績金額 (円)	現状変更(発掘のみ) (申請・許可・終了報告の順)
15	発掘・測量	大日山35号墳	1	0626～0331	墳丘規模・形状確認、東造出・横穴式石室の調査	東造出から埴輪等150箱出土	675/12,484	文化庁・整備委員会	県文化遺産課	(財)和歌山県文化財センター	藤井幸司	13,629,000	文第56号(H15.4.18) 15委庁第4の88号(H15.5.23)
	応急整理	大日山35号墳	-		埴輪等の洗浄	-	-						
16	発掘・測量	前山A2号墳	1	0701～0131	横穴式石室の調査	T字形石室の羨道の状況を確認	19/200	文化庁・整備委員会	県文化遺産課	(財)和歌山県文化財センター	黒石哲夫	5,097,000	文第149号(H16.6.11) 16委庁第4の443号(H16.7.16)
	発掘・測量	前山B41号墳	1		横穴式石室の調査	正方形石室の具体的な状況を確認	17/186						
	発掘	大日山35号墳	2		基壇円筒埴輪列の調査	基壇が盾形であることを確認	14/14						
	整理	大日山35号墳	-		埴輪の接合・復元	翼を広げた鳥形埴輪を復元	-						
17	発掘	前山A67号墳	(2)	0902～0328	羨道前底部等の調査	墳丘・石室の構築順序を確認	16/16	文化庁・整備委員会・県文化遺産課	県立紀伊風土記の丘	(財)和歌山県文化財センター	丹野拓 (富加見泰彦) (丹野拓)	7,781,313	文第105号の2(H17.5.26) 17委庁第4の351号(H17.8.10) 紀風第30号(H18.5.17)
	発掘	大日山35号墳	3		墳丘の規模・形状確認、西造出の調査	西造出から埴輪等130箱出土	299/299						
	測量・簡易実測	知事塚古墳等9基	-		保存修景古墳の事前記録化	知事塚規模34.5m、造出あり	1,853						
	応急整理	大日山35号墳	-		埴輪等の洗浄	-	-						
18	発掘	前山A13号墳	(2)	0601～0328	横穴式石室の調査	閉塞石確認、玉類若干出土	13/380	文化庁・整備委員会・県文化遺産課	県立紀伊風土記の丘	(財)和歌山県文化財センター	富加見泰彦 (武内雅人) (丹野拓)	9,736,000	紀風第28号(H18.5.16) 18委庁第4の376号(H18.8.4) 紀風第44号(H19.5.30)
	簡易実測	前山A・大日山地区27基	-		保存修景古墳の事前記録化	-	-						
	整理	大日山35号墳等	-		埴輪の復元・実測	両面人物埴輪を復元	-						
19	発掘・測量	前山A9号墳	(2)	1001～0227	墳丘規模・形状確認、竪穴式石室の再調査	低墳丘の古墳	21/650	文化庁・整備委員会・県文化遺産課	県立紀伊風土記の丘	-	岩井顕彦 (丹野拓)	2,221,800	紀風第84号(H19.8.7) 19委庁第4の922号(H19.9.5) 紀風号外(H20.3.4)
	発掘・測量	前山A17号墳	(2)		墳丘規模・形状確認、箱式石棺の再調査	板石の加工痕を確認	34/650						
	石室実測	前山A・B地区5基	-		保存修景古墳の事前記録化	前山A18号墳で須恵器表採	-						
	整理	大日山35号墳等	-		埴輪の復元・実測	胡蝶形埴輪を復元	-						
20	発掘	前山A9・13号墳隣接地	1	1202～0222	古墳の有無確認	低墳丘の古墳なし	30/30	文化庁・整備委員会・県文化遺産課	県立紀伊風土記の丘	(財)和歌山県文化財センター	岩井顕彦 (丹野拓)	2,379,300	紀風第31号(H20.5.28) 20委庁第4の470号(H20.7.3) 紀風第15号(H21.4.21)
	整理	大日山35号墳	-		埴輪の復元・実測	双脚輪状冠帯を被る人物埴輪を復元	-						

調査回数の()は明治・大正時代の調査を第1次調査とした場合の回数

表5 発掘調査対象古墳一覧(平成15～20年度)

(3) 前山A 2号墳の発掘調査

a. 調査の経緯と経過

前山A 2号墳は標高149mの岩橋山塊主稜線上、前山A地区の南西部に位置する古墳である。古墳の規模は直径約10mで、内部にはいわゆるT字形石室と呼ばれている横長の横穴式石室が築かれている。

古墳は盗掘を受け、墳丘上部約1/3が破壊され、石室も天井石や側壁上部の石材が抜かれていた。前山A 2号墳の近辺には、横穴式石室や竪穴式石室を内部施設とする小型の円墳が他にも3基築かれており、何らかの係わりをもった集団の古墳群ではないかと推定される。

墳丘に8本のトレンチを設定し、横穴式石室及び墓道部の調査を実施した。

b. 調査区各説

第1トレンチ

第1トレンチは玄室の北東角から北東方向に設定した。長さ4.0m、幅0.7mである。土層の堆積は上から1層7.5YR3/2黒褐色腐植土、2層5Y8/3淡黄色土、3層5Y8/4淡黄色土、4層2.5Y8/6黄色土、5層10YR6/6明黄褐色土、6層2.5Y8/4黄色土、7層2.5Y6/4にぶい黄色土、8層2.5Y5/4黄褐色弱粘質土である。底部は表土から20～40cm程の深さで岩盤となっている。明瞭な周溝や葺石等は確認できなかった。石室の内側側壁から、約0.9m外側で岩盤を掘り込んでおり、石室の墓坑であると推定される。玄室床面との比高差は約0.9mである。石室を構築する石材の周囲には長さ20～30cm程の結晶片岩がやや疎らに埋め込まれていた。

第2トレンチ

第2トレンチは玄室部から南東方向に設定した。長さ約2.8m、幅約0.8mである。南東部は岩盤で、墳丘裾部は浅く周溝状に掘削されている。

第3トレンチ

第3トレンチは玄室部から北北東方向に設定した。長さ約2.9m、幅約0.6mである。土層の堆積は上から1層7.5YR4/2灰褐色腐植土、2層2.5Y7/4浅黄色土、3層2.5Y7/6明黄褐色土、4層2.5Y6/6明黄褐色土、5層2.5YR6/8明黄褐色土である。墳丘裾部では長さ10～20cm程の扁平な片岩が並んでいた。

第4トレンチ

第4トレンチは羨道南壁の前端部から南南西方向に設定した。長さ約4.8m、幅約0.7mである。土層の堆積は上から1～11層に分層された。1～3層が古墳築造後の堆積土で、4～10層が古墳の盛土、11層が地山であると考えられる。

羨道部の石材は結晶片岩製で、長さ40～70cm、幅10～20cmの楔状の形状で、小口積みになっている。これらの石材の周囲には、やや締まった明黄褐色土やオリブ黄色土の高まりがみられる(第7～10層)。墳丘の中核部では、内部施設である横穴式石室の石材を積み上げては、周りを土で覆う作業を順次繰り返し、墳丘を盛り上げていったのではないかと推定される。

トレンチ中央部の標高147.6mから南側では底は岩盤が露出している。羨道部床面との比高差は約0.1mとレベル差はあまりない。

第5トレンチ

第5トレンチは墓道の位置と墳丘裾部の土層を確認するために、墳丘南西部に南北方向に設定した。長さ約2.6m、幅約0.5mである。土層の堆積は上から1層5Y6/4オリーブ黄色土、2層10Y6/2オリーブ灰色土、3層2.5Y6/4にぶい黄色土、4層7.5Y6/2灰オリーブ色シルト質土(地山)である。南部の2層から完形の須恵器短頸壺が、天地が逆の状態出土した。1～2層からは、須恵器甕、土師器把手付鍋の破片が出土した。羨道の堆積土は4層に分かれる。断面観察では、排水溝の掘り込みは確認できなかった。

第6トレンチ

第6トレンチは墓道先端部の状況を確認するために、墳丘南西端部に設定した。長さ約2.0mである。幅約1.0mの墓道を検出した。羨道の先端部は削平されて不明瞭であった。中心軸上に長さ65cm、幅32cmの片岩や、人頭大の片岩が掘えられていたが、その下部では排水溝は確認できなかった。墓道入口の北側から完形の陶器TK43型式に相当する須恵器坏身が、ほぼ水平な状態で1点出土した。

第7トレンチ

第7トレンチは、墳丘裾部の土層を確認するために、墳丘西部に南北方向に設定した。長さ約1.3m、幅約0.4mである。土層の堆積は上から1層5Y6/4オリーブ黄色土、2層10Y6/2オリーブ灰色土、3層7.5Y6/2オリーブ色シルト質土(地山)である。その下は5Y7/4浅黄色～5Y6/3オリーブ黄色の結晶片岩の岩盤である。

第8トレンチ

第8トレンチは墓道の位置と土層を確認するために、羨道入口部に南北方向に設定した。長さ約2.5m、幅は南側で1.3m、北側で1.0mである。

墓道埋土の土質は墳丘盛土と類似しており、上端で、幅1.8mで断面は逆台形状である。墳丘の土の堆積は、ほぼ水平に近いが、墓道の土の堆積は両側壁部から中央にかけて、斜めに下がっている。

c. 墳丘の調査成果

墳丘は各トレンチの土層の堆積状況から直径約10mの円墳と推定される。南西部のトレンチでは岩盤を整形した浅い溝状の落ち込みがみられたが、その他の地点では、明瞭な周溝は確認されなかった。墳丘は旧地形が東北東から西南西へと傾斜しているため、全体的に同様の方向で盛土している。下部は水平に近いような緩やかな傾斜の盛土であるが、上部になると石室を中心として、斜め上方に盛り上げられている。版築や作業単位を示すような土質の単位は認められなかった。

d. 石室の調査成果

石室は岩橋山塊で産出する板状の結晶片岩で構築されており、西南西方向に開口している。石室基部は岩盤を平坦にして築かれており、規模は玄室の幅1.88m～1.92m、長さ1.02m～1.03m、羨道の幅0.75m、長さ1.95mである。石室規模が小さいことから、古墳に葬られた人物は1人だと推定される。

石室は基本的に横長の片岩を小口積みにして構築されており、玄室前道部(通廊部)もやや大型の石材を小口積みにして、1個の石で構成された側面を前壁部としている。羨道部は石材がやや小型であり、大きさも不揃いで積み方も乱雑である。入口部は水平ではなく全体的に斜め下方に積まれている。

玄室と羨道の間には玄室前道部(通廊部)と呼ばれている幅約0.50mの狭まった部分があり、基底

部では厚さ約8cmの板状の扉石が立てられ、内部を閉塞していた。玄室の前端部から墓道にかけての床面には、幅約20cmの断面がV字状の暗渠排水溝が設けられている。玄室入口部の2個の片岩は排水溝の蓋石だと推定される。羨道と墓道は玄室から見て、やや左側に偏って築かれている。

石室は各トレンチの状況から、丘陵斜面の上側から岩盤をコの字状に墓壙を掘削して床面を平坦にし、石材を水平に小口積みにしていき、周囲を土で固めて築いたものと推定される。墳丘の中心点は、ほぼ羨道の中間点にあっている。

e. 出土遺物

玄門部から土師器の壺(3)、墓道入口部から須恵器の坏身(12)、南西部の墳丘中から須恵器短頸壺(9)が出土した。玄室から高坏片(1・2)、墳頂と羨道では須恵器大甕の口縁部片(4)が出土している。このほか、主体部から墳丘外に出る付近では第5トレンチから須恵器蓋(6)・高坏(8)・坏蓋(7)、土師器壺(11)・把手付碗(10)の破片、第6トレンチから須恵器甕(13)が出土した。石室北東の墳丘上からは、須恵器大甕片(5)が出土している。これらの出土遺物から、この古墳が築かれたのは6世紀末頃だと推定される。

f. 調査後の措置

発掘調査後に、強化ガラス覆屋を用いた石室保存公開施設を設置した。

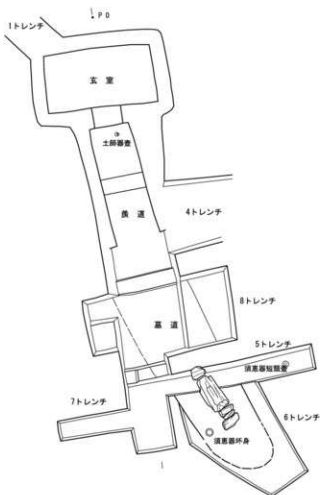


図18 前山A2号墳 石室と調査区の配置

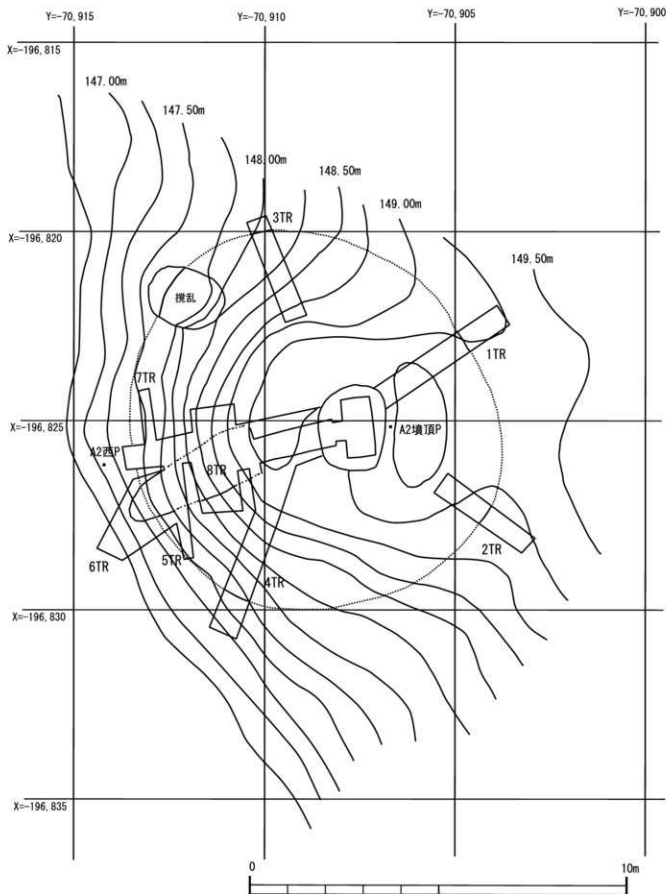


図 19 前山 A 2号墳 墳丘と調査区の配置

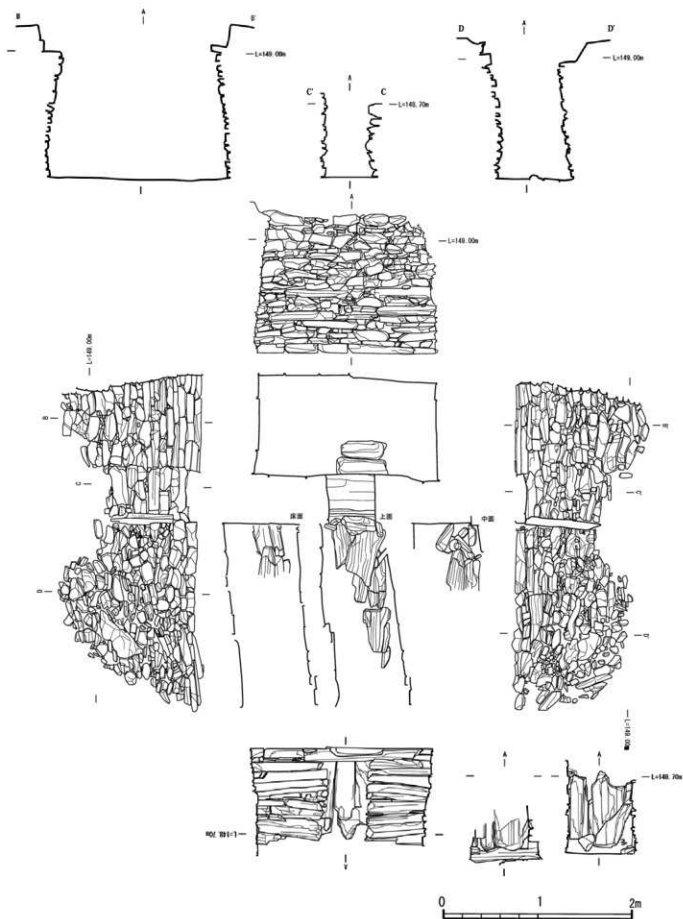
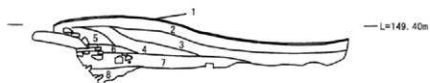
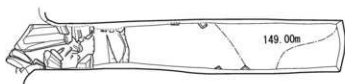


图 20 前山 A 2 号墳 横穴式石室



- 1 7.5YR3/2 黒褐色腐植土
- 2 5Y8/3 淡黄色土
- 3 5Y8/4 淡黄色土
- 4 2.5Y8/6 黄色土
- 5 10YR6/6 明黄褐色土 (7.5Y7/6 黄橙色礫少量含む)
- 6 2.5Y6/4 黄色土
- 7 2.5Y6/4 にふい 黄色土 (結晶片岩やや多く含む)
- 8 2.5Y5/4 黄褐色粘質土 (結晶片岩やや多く含む)

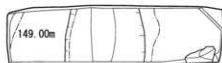


第1トレンチ

S=1/50

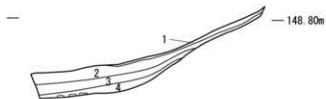


- 1 7.5YR3/2 黒褐色腐植土
- 2 5Y8/3 淡黄色土
- 3 5Y8/4 淡黄色土
- 4 砂礫少量混じり 5Y8/4 淡黄色土
- 5 2.5Y8/6 黄色土
- 6 砂礫混じり 2.5Y7/4 淡黄色土
- 7 2.5Y8/6 黄色土 (2.5Y8/6 黄色礫少量含む)
- 8 2.5Y7/6 明黄褐色土 (ややシルト質) (2.5Y8/6 黄色礫少量含む)
- 9 10YR8/3 淡黄緑小礫少量混じり 2.5Y7/4 淡黄色土 (地山)
- 10 2.5Y8/6 黄色軟質岩盤



第2トレンチ

S=1/50



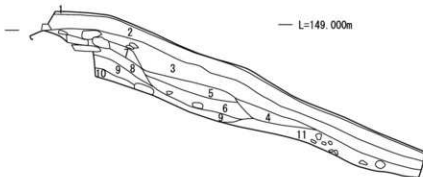
- 1 7.5YR4/2 灰褐色腐植土
- 2 2.5Y7/4 淡黄色土
- 3 2.5Y7/6 明黄褐色土
- 4 2.5Y6/6 明黄褐色土



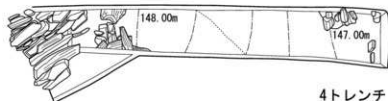
第3トレンチ

S=1/50

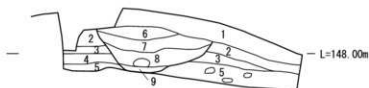
図21 前山A2号墳 第1～3トレンチ



- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1 7.5YR3/2黒褐色腐蝕土 | 7 地山礫・片岩礫少量含む2.5Y6/6明黄褐色土 |
| 2 片岩混じり5Y6/4オリーブ黄色土 | 8 地山礫・片岩礫少量含む2.5Y7/6明黄褐色土 |
| 3 片岩混じり5Y5/4オリーブ色土 | 9 地山礫・片岩礫少量含む7.5Y6/3オリーブ黄色土 |
| 4 片岩混じり2.5Y5/4黄褐色土 | 10 地山礫・片岩礫少量含む5Y6/3オリーブ黄色土 |
| 5 片岩混じり2.5Y6/4にぶい黄色土 | 11 片岩・礫混じり5Y5/3灰オリーブ色土 |
| 6 片岩混じり2.5Y6/3にぶい黄色土 | |



4トレンチ S=1/50



- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1 片岩混じり5Y6/4オリーブ黄色土 | 6 2.5Y6/6明黄褐色土 |
| 2 片岩なし10Y6/2オリーブ灰(微量) | 7 2.5Y6/4にぶい黄色土 |
| 3 片岩なし7.5Y7/3浅黄色土 | 8 片岩混じり |
| 4 片岩なし10Y6/2オリーブ灰色弱シルト質土(微量含む) | 9 2.5Y6/4にぶい黄色土 |
| 5 片岩なし7.5Y7/3浅黄色 | |

5トレンチ西壁 S=1/50

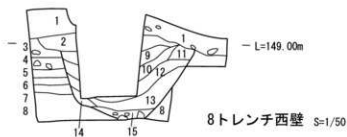


- | |
|----------------------------|
| 1 片岩混じり5Y6/4オリーブ黄色土 |
| 2 10Y6/2オリーブ灰色弱シルト質土(微量含む) |
| 3 7.5Y6/2灰オリーブ色シルト質土(地山) |

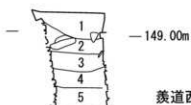
7トレンチ S=1/50



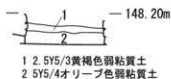
図22 前山A2号墳 第4～7トレンチ



- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 片岩混じり5Y6/4オリーブ黄色土 | 9 片岩混じり・炭微量含む2.5Y7/4浅黄色土 |
| 2 片岩混じり・炭微量含む2.5Y7/4浅黄色土 | 10 片岩混じり2.5Y7/3浅黄色土 |
| 3 2.5Y5/6黄褐色土 | 11 片岩混じり5Y7/3浅黄色土 |
| 4 2.5Y6/6明黄褐色土 | 12 片岩混じり5Y6/4オリーブ黄色土 |
| 5 2.5Y6/4にぶい黄色土 | 13 2.5Y6/6明黄褐色土 |
| 6 片岩混じり | 14 7.5Y5/2灰オリーブ色土 |
| 7 2.5Y6/4にぶい黄色土 | 15 8.5Y5/4オリーブ色土 |
| 8 2.5Y6/6明黄褐色土 | |



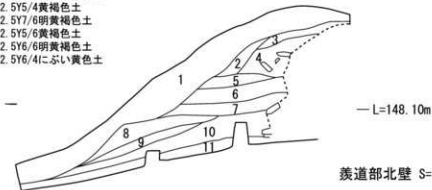
羨道西壁 S=1/50



- | |
|------------------|
| 1 2.5Y5/3黄褐色弱粘質土 |
| 2 5Y5/4オリーブ色弱粘質土 |

玄室断面土層 S=1/50

- | |
|----------------------|
| 1 片岩混じり5Y6/4オリーブ黄色土 |
| 2 片岩混じり2.5Y5/4黄褐色土 |
| 3 片岩混じり2.5Y7/6明黄褐色土 |
| 4 片岩混じり2.5Y5/6黄褐色土 |
| 5 片岩混じり2.5Y6/6明黄褐色土 |
| 6 片岩混じり2.5Y6/4にぶい黄色土 |

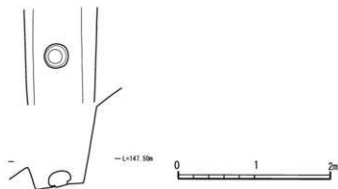


羨道部北壁 S=1/50

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 片岩混じり5Y6/4オリーブ黄色土 | 7 片岩混じり5Y7/4浅黄色土 |
| 2 片岩混じり2.5Y5/4黄褐色土 | 8 片岩混じり5Y6/3オリーブ黄色土(礫やや多い) |
| 3 片岩混じり2.5Y7/6明黄褐色土 | 9 7.5Y7/3浅黄色土(炭微量含む) |
| 4 片岩混じり2.5Y5/6黄褐色土 | 10 10Y6/2オリーブ灰色弱シルト質土 |
| 5 片岩混じり2.5Y6/6明黄褐色土 | 11 7.5Y6/2灰オリーブ色シルト質土(地山) |
| 6 片岩混じり2.5Y6/4にぶい黄色土 | |



第6トレンチ遺物出土状況



第5トレンチ遺物出土状況

図23 前山A2号墳 第8トレンチほか

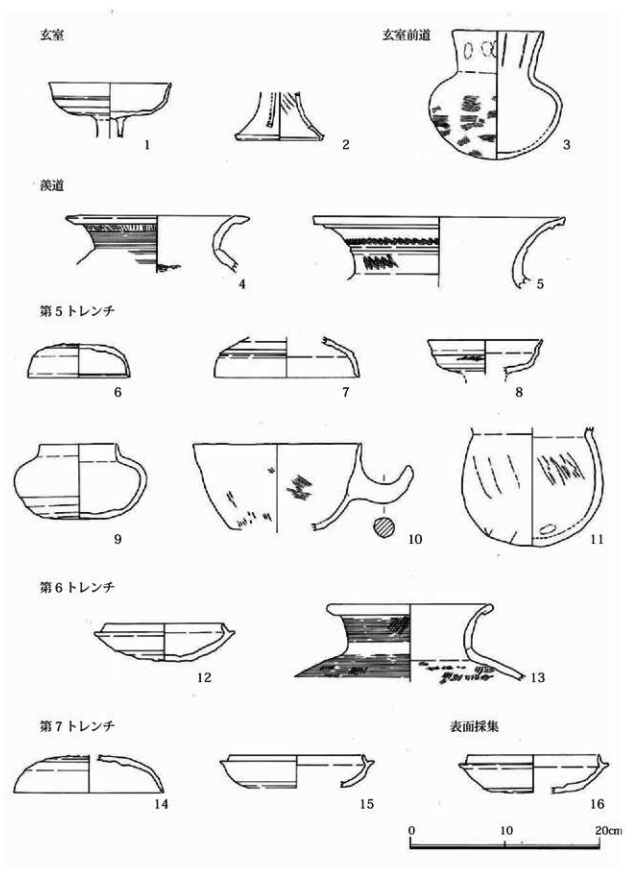


図 24 前山 A 2号墳 出土遺物

(4) 前山A9号墳と隣接地の発掘調査

A. 前山A9号墳と南側隣接地の発掘調査

a. 調査の経緯と経過

前山A9号墳は大正7年(1918)に調査が行われ、大正10年(1921)に『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査会報告書』1で竪穴式石室の平面図と断面図が報告された後、埋め戻されることなく現在に至っている。この大正年間の調査の際、石室内より鉄鎌が出土したとされている。今回の調査は前山A9号墳主体部の再発掘を含む第2次調査であり、主体部の図化と墳丘の確認調査を行った。

また、前山A129号墳が大正7年・昭和42年(1967)の古墳分布図では前山A9号墳の北側、平成15年度時点では南側にある微隆起に比定されており不明確なため、前山A9号墳周辺の微隆起について確認調査を行った。

平成19年度は前山A9号墳と南側の古墳状隆起、平成20年度は前山A9号墳の北～北西の古墳状隆起を調査した。

b. 調査区各説

第1トレンチ

前山A9号墳と前山A129号地点を横断する位置に設定したトレンチである。2箇所で拡張を行っている。

第1トレンチ北東側では石室北の墳丘裾部を検出した。墳丘裾部では地山を溝状に掘りくほめ整形しており、地山に類似した風化した片岩の小礫を含む盛土を厚さ15cm分検出した。石室西側では、地山のわずかな高まりを確認したが、盛土は確認できなかった。またトレンチ北東端から約4.8mの地点で、斜面をL字形に整形していることを確認した。

第1トレンチ中央では、地山が皿状のわずかなくほみが連続したような地形をしていることを確認した。

第1トレンチ南西側では、前山A13号墳の墳丘裾部を検出した。裾の外側は、若干掘りくほめられており、底面は現在の園路よりやや低くなっている。トレンチの端部では、盗掘による削平で墳丘が平坦になっているものと考えられる。

第2トレンチ

前山A9号墳の墳丘東側に設定したトレンチである。西端で墳丘盛土を検出した。盛土は、第1トレンチで検出したものと同じ土質である。墳丘の一部は、地山を整形して構築しているとみられるが、木の根による攪乱が著しく、墳丘の裾は判然としなかった。

第3トレンチ

前山A9号墳の墳丘西側に設定したトレンチである。東端で墳丘盛土を検出した。盛土は、第1トレンチで検出したものと同じ土質である。墳丘の一部は、地山を整形して構築している。トレンチ西側では、2次堆積土の下から、風化した岩盤が検出された。

第4トレンチ

前山A129号墳の盗掘坑のほぼ中心を通り、第1トレンチに直交するトレンチである。盗掘排土の

下から地山を検出した。盗掘坑は、不整形形が重なり合った形状となっていた。盗掘坑の底部では地山に類似する土と腐植土が互層をなしている。腐植土からは、形状の保たれた木の葉が検出されており、新しい時期に堆積したとみられる。

石材片や粘土など、主体部を構成する可能性のある遺構・遺物は、検出できなかった。

c. 墳丘について

前山A9号墳は直径約5m、短径約3mの円墳で、地山削り出しと盛土を併用した小規模な円墳であることが判明した。斜面をL字形にカットして平坦面を作り出し、西側以外の地山面の低い部分に土を盛っている。現状から想定する限り、高い墳丘は想定し難く、石室上面を覆う程度のものだとみられる。

d. 主体部の調査成果

調査前から上部が露出していた竪穴式石室を対象として調査を実施した。石室内の土の堆積は約10cmと非常に薄い。石室床面の頭位側（西側）では、長軸方向に向かって目地の合った石が並んでいるが、足位側（東側）では、乱れている。また、中央部では、地山が露出していた。小口面の立石との間は若干の隙間があるが、側壁の基底石との関係が不明確である。大正7年の調査では粘土質の床面から鉄鍬が2点出土した報告となっているので、割石が地山であり、粘土を張って床面としたものとの評価も可能であるが、現状の観察では割石敷きと推定している。

主体部は小型の竪穴式石室で主軸長1.54m、幅は西側で0.56m、東側で0.45m、残存高は約0.55mであった。天井石は残っていなかった。側壁は比較的大きな結晶片岩を横に積み上げて構築し、小口は板石を立てて、その上に結晶片岩を横に積んでいる。

石室の裏込めには石を用いず、石同士が接する部分には黒色を帯びた粘質土を詰め、掘り方と石の間には地山に類似し、片岩礫を含まない土を詰めている。最上部の石より上は、これら2種類の土を墳丘盛土が覆っている。

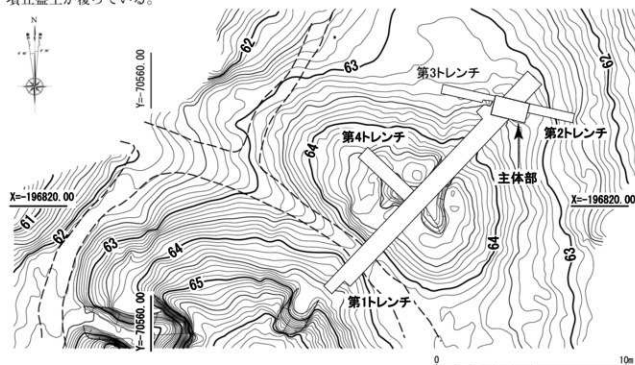


図25 前山A9号墳周辺 調査区の配置

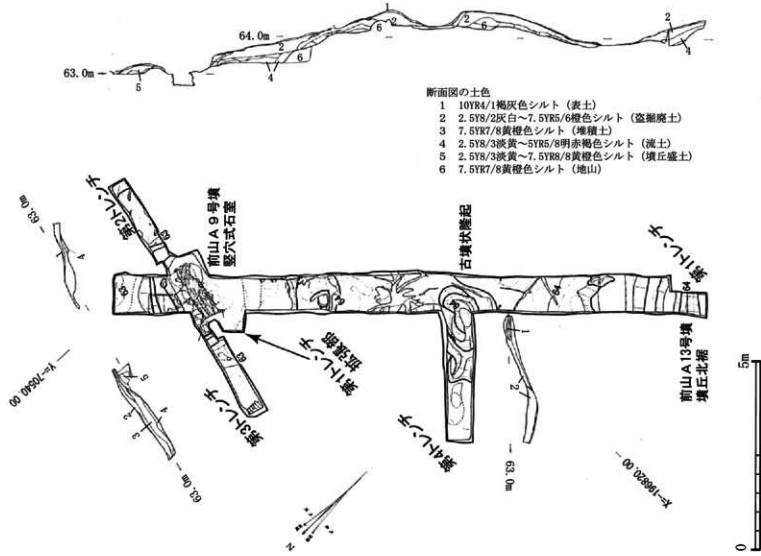


図26 前山A9号墳 調査区平面・土層断面図

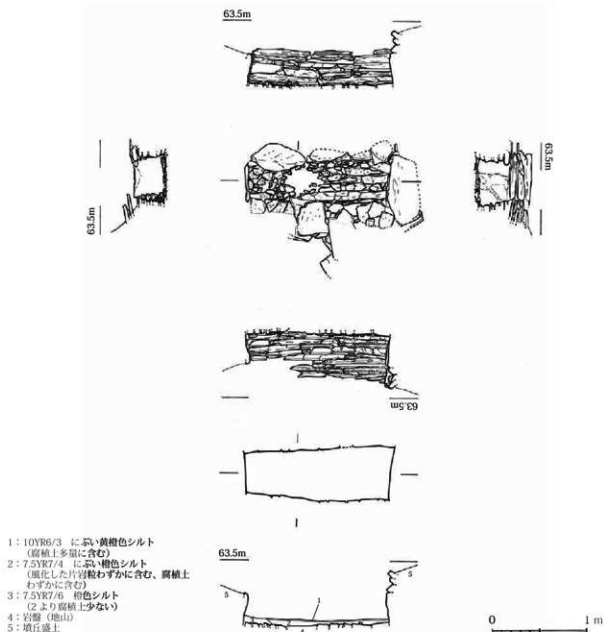


図 27 前山A 9号墳 竪穴式石室

e. 出土遺物

なし

f. 前山A 129号墳について

前山A 129号墳とされていた古墳状の隆起は、土層の状況や盗掘坑の観察から自然地形であることが判明した。古墳としては形状が整っていないことも、自然地形であるとの判断を補強することになるであろう。

g. 前山A 13号墳北裾について

前山A 13号墳は、墳丘のごく一部が調査区にかかったに過ぎないが、墳丘の裾は現在の見かけ上の墳丘よりやや内側に位置していた。また断ち割りを実施していないため確定できないが、墳丘全体が盛土によって構築されている可能性がでてきた。

B. 前山A9号墳北西隣接地の発掘調査

a. 調査の経緯と経過

前山A9号墳北側の2箇所の隆起は、大正10年(1921)と昭和42年(1967)の分布図では前山A128・129号墳に相当するものとして取り扱われていた地点である。しかし、実際に低墳丘の古墳であるのか判断しなしたため第1～3トレンチを設定して確認するとともに、その西側に第4・5トレンチを設定し尾根筋の古墳の有無を調査することとした。

b. 基本層序

第1層は表土で、腐植を多量に含む灰白色シルトである。第2層は橙色の微砂混じりシルトで、地山に腐植を含んだ黄褐色微砂混じりシルトが混ざったものである。第3層は地山で橙色の微砂混じりシルトから成る。場所によっては風化した片岩を主体とし、赤みの強い土が地山となっているほか、風化した片岩塊が露出している場所もある。

c. 第1～3トレンチ

前山A9号墳北側の古墳状隆起及び盗掘坑を調査

対象とした調査区である。第1トレンチと第2トレンチとの交差部分で盗掘坑を、第3トレンチとの交差部分と第1トレンチのほぼ中央で落ち込みを検出した。

盗掘坑

大正7年(1918)の和歌山県第一期調査と昭和42年の和歌山市・関西大学の調査報告の古墳分布図では、古墳として印された微隆起部にあたる。調査前から溝状の落ち込みが確認されており、盗掘坑と推定されていた。長径約1.6m、短径約0.9mの楕円形で、底面は凹凸があるものの、南から北へと緩やかに低くなっている。横断面は緩やかなV字形である。埋土は再堆積土と推定される第4層と第5層からなる。石の据え付け痕跡や石材等は確認できなかった。盗掘時の排土は北側の斜面へ排出されたとみられ、斜面中ほどから下側にかけて、地山の再堆積土と推定される土が広がっている。

第1トレンチ南壁に沿って断割りを行ったところ、風化した片岩(土層番号22)や、これを母材とする赤褐色系の土層(土層番号21・23・24)が広がっており、人為的な盛土は確認できなかった。調査の結果、この地点には古墳はなく、木の倒壊などによる隆起と窪みを古墳と誤認して盗掘された跡と推定される。

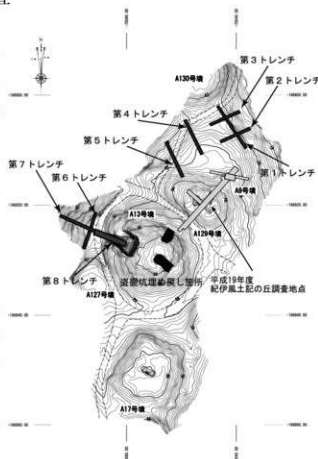


図28 前山A9号墳北西部 調査区の配置

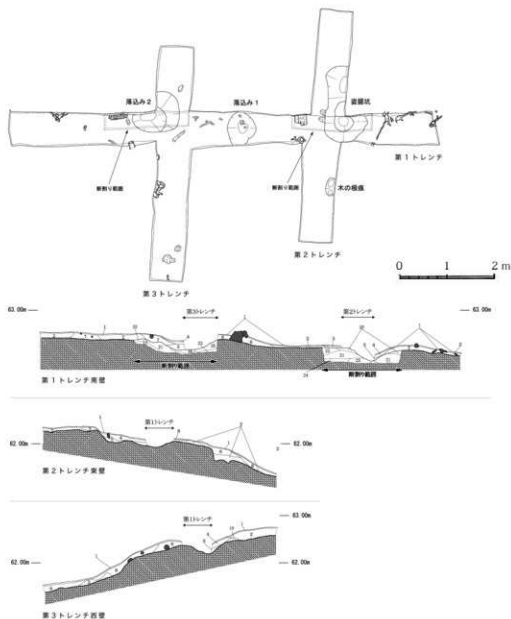


図 29 第 1～3トレンチ 平面・土層断面

落ち込み 1

第 1 トレンチのほぼ中央で検出した浅い不整形形の落ち込みである。埋土は土層番号 5 である。

落ち込み 2

大正 7 年の和歌山県第一期調査と昭和 42 年の和歌山市・関西大学の調査報告の古墳分布図では、古墳として印された微隆起部にあたる。調査前から、円形の落ち込みが確認されており、盗掘坑の可能性が考えられていた。一辺約 1 m の隅丸方形の落ち込みである。埋土は再堆積土と推定される 4 層と 5 層および、植物根の攪乱によって形成されたとみられる 7 層からなる北側の斜面中ほどから下側にかけて、地山の再堆積土と推定される土が広がっていることから、盗掘を受け、その際排土が北側の斜面へ排出されたとみられる。

第1トレンチ南壁に沿って断ち割りを行ったところ、第2層下面に広がる地山（土層番号25）、風化した片岩（土層番号22）や、これを母材とする赤褐色系の土層（土層番号21・23・24）の広がりを確認した。落ち込みの底面中央の下面には、粘質がやや強く、黒味を帯びた土層（土層番号26）が確認されたが、落ち込みに溜まった水や腐植等の影響によるものと推定される。

d. 第4・5トレンチ

前山A9号墳の西側の平場から斜面にかけて設置したトレンチである。双方とも、ほぼ中央を南北に円礫やバラスを敷いた園路（土層番号11）が走っている。園路より東側の斜面には、地山直上まで園路造成時に使用されたとみられるバラスの再堆積土（土層番号12・13）が確認された。

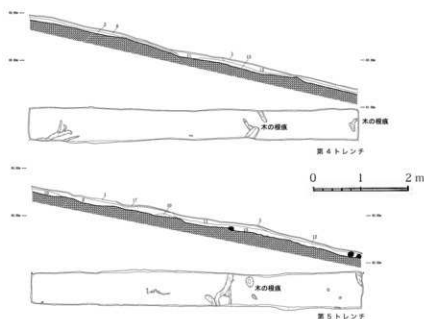
e. 出土遺物

第1トレンチの2層上面で現代のタイル片が1点出土したほか、遺物は出土していない。

f. 第1調査区の調査成果とその後の措置

前山A128号墳と前山A129号墳とされた微隆起は古墳ではないことを確認した。前山A9号墳周辺には他に堅穴式石室や箱式石棺を主体部とする低墳丘の古墳がほとんど分布していない状況が確認され、低墳丘の古墳が連なる前山A地区西側の尾根と異なる状況がより明確になった。

前山A9号墳については説明板を設置し公開する方針であるが、調査後は仮に埋め戻しを行っている。



1層	10004.1	灰白	シルト	調査区尾根に堆積	調査区
2層	10004.2	黄	粘砂質シルト	10004.1に比べ凝縮状態のシルトが堆積	調査区
3層	10004.3	黄褐色	シルト	調査区	二次堆積土
4層	10004.4	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
5層	10004.5	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
6層	10004.6	黄褐色	粘砂質シルト	10004.5層の下部に堆積した地山土層	調査区
7層	10004.7	灰白	シルト	10004.6層の下部に堆積した地山土層	調査区
8層	10004.8	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
9層	10004.9	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
10層	10004.10	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
11層	10004.11	灰白	シルト	調査区	二次堆積土
12層	10004.12	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
13層	10004.13	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
14層	10004.14	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
15層	10004.15	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
16層	10004.16	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
17層	10004.17	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
18層	10004.18	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
19層	10004.19	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
20層	10004.20	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
21層	10004.21	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
22層	10004.22	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
23層	10004.23	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
24層	10004.24	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
25層	10004.25	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
26層	10004.26	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
27層	10004.27	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
28層	10004.28	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
29層	10004.29	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
30層	10004.30	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
31層	10004.31	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
32層	10004.32	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
33層	10004.33	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
34層	10004.34	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
35層	10004.35	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
36層	10004.36	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
37層	10004.37	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
38層	10004.38	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
39層	10004.39	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
40層	10004.40	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
41層	10004.41	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
42層	10004.42	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
43層	10004.43	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
44層	10004.44	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
45層	10004.45	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
46層	10004.46	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
47層	10004.47	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
48層	10004.48	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
49層	10004.49	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土
50層	10004.50	黄褐色	粘砂質シルト	調査区	二次堆積土

図30 第4・5トレンチ 平面・土層断面

(5) 前山A 17号墳の発掘調査

a. 既往の調査

前山A 17号墳は明治時代に東京帝国大学人類学教室の大野雲外により発掘調査が行われた(第1次調査)。報告によると箱式石棺の副室から衝角付甕が出土しており、棺内には朱が塗布されていたという。大正10年の『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査会報告書』1には、箱式石棺の平面図と断面図が掲載されており、岩橋千塚の初期の調査例として知られる(第2次調査)。今回の調査は第3次調査にあたる。

b. 調査の経過

前山A 17号墳は箱式石棺の中に水・泥が溜まりやすく、公開及び保存に支障をきたしていた。そこで石棺内に堆積した泥を除去し、石棺の再実測を行うこととした。墳丘裾の各辺から主体部に向けてトレンチを設定し、石棺の掘り方の形状や墳丘裾部の位置の確認を行っている。

c. 調査区各説

第1トレンチ

前山A 17号墳の北斜面に設定したトレンチである。標高65.1m付近で地山を検出した。これより下は、地山を削りだして墳丘を構築している。墳丘裾は標高64.7m付近で検出した。

第2トレンチ

前山A 17号墳の西斜面に設定したトレンチである。標高65.2m付近で地山を検出した。これより下は地山を削りだして墳丘を構築している。墳丘裾は標高64.7m付近で検出した。墳丘は木の根の攪乱による凹凸が著しい。

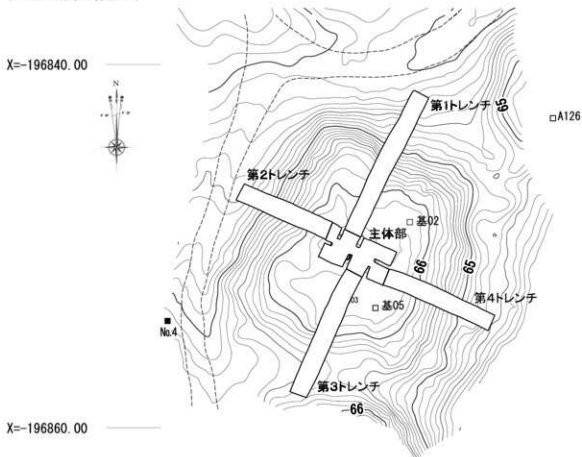


図31 前山A 17号墳 調査区の配置

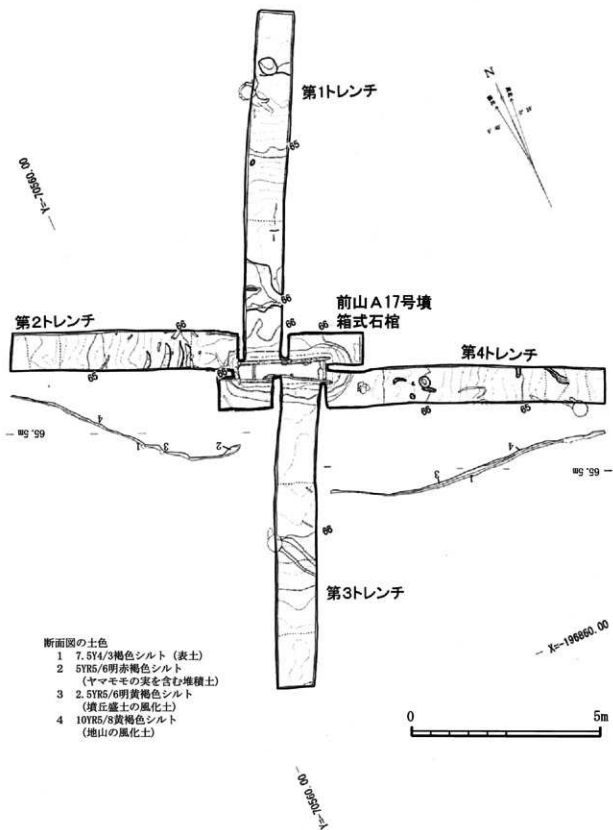


図 32 前山A 17号墳 調査区平面・土層断面

第3トレンチ

前山A 17号墳の南斜面に設定したトレンチである。標高66.2 m付近で地山を確認した。これより下は、地山を削りだして墳丘を構築している。墳丘裾は標高65.6 m付近で検出した。他のトレンチに比べ、傾斜が極めて緩やかである。

第4トレンチ

前山A 17号墳の東斜面に設定したトレンチである。標高66.3 m付近で地山を検出した。これより下は、地山を削りだして墳丘を構築している。墳丘裾は標高64.8 m付近で検出した。

d. 主体部

調査前から上部が露出していた箱式石棺を調査した。石棺内には、30cm以上の土が堆積していたが、石棺床面直上からビニール袋の断片が検出されている。埋土は層位ごとに採取したうえで水洗を実施した。

石棺は長さ2.32 m、東小口幅0.53 m、副室仕切り石幅0.40 m、西小口幅0.40 m、高さ0.45 mである。主室が長さ1.90 mで東側の幅が広く、副室が長さ0.42 mである。主室からは鉄刀が2本出土したといわれており、主室の西側には明治時代に衝角付き冑が出土したという副室が付属する。副室は一枚の板石で主室と隔たれている。側壁はそれぞれ2枚の板石からなっている。板石の接する部分には、石が密着するように切り欠きが施されている。副室仕切石と南側壁が接する部分には、仕切石が固定できるようにコの字形の加工が施されている。箱式石棺の床面には、東小口に2枚の石を置いている。

側壁には、赤色化した部分が認められたが、肉眼では、朱であるか、結晶片岩の風化部分が赤く発色しているのか、判断がつかなかった。

e. 出土遺物

なし

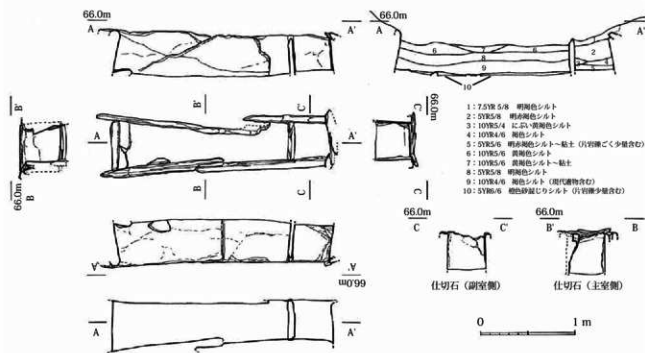


図33 前山A 17号墳 箱式石棺

(6) 前山A 67号墳の発掘調査

a. 調査の経緯

前山A 67号墳は前山A地区に所在する直径27mの円墳である。岩橋山塊の主稜線からやや北に下った尾根に位置しているが、前山A地区に群集する円墳を見下ろす標高100mの地点にあり、前山A地区では良好な立地を占めている。埋葬施設は横穴式石室であり、南の小さな谷に向かって開口している。

前山A 67号墳は、大正7年(1918)に行われた県の第1期調査に報告がある。南に開口する横穴式石室の図面と写真が残されており、羨道から羨道前庭部にかけて床面まで掘り下げ石組が検出されている状況が写真で確認できる。今回の調査前の現状では羨道の途中から羨道前庭部まで埋まっており、特に羨門部が半分の高さまで埋まっていた。羨門左側壁の石積みが土圧により屈曲していることが報告で指摘されていることから、羨門部の安全を確保するために埋め戻したものと推定される。

b. 調査の方法

平成17年度に、前山A 67号墳の石室入口部分の発掘調査を行った。調査にあたって羨道に仮主軸を設定し、南端に設置した原点から1mごとに東西の区画を互い違いに掘った。羨門部は保護のため掘削せず、羨道前庭部の側壁と基礎地形、墳丘内墓道の確認を行った。また、排水溝の掘り方を確認し、整備委員会等で検討のうえ、幅15cmのサブトレンチを設定して掘り下げられる範囲で調査を行った。

なお、羨門下半部と排水溝石組部は平成18年度の調査(追加調査)により確認したが、本書ではまとめて図化を行った。

c. 盗掘坑の掘削と排水溝の補足調査

平成16年度には、墳丘北側にある盗掘坑は、玄室奥壁の壁面崩壊箇所には達しているものと考えられた。そこで、平成16年度は、墳丘北斜面から奥壁に向かって伸びる盗掘坑の確認を目的として調査を行った。墳丘北斜面から盗掘坑を手掘りで掘削したが、掘削後すぐに危険と判断し、埋め戻しを行った。

また平成17年度の発掘の追加調査として、羨門の下半部と排水溝の拡張・断ち割り調査を行った。調査は平成18年12月から平成19年1月にかけて実施した。羨門の下半部については、大正10年以降の埋め戻し土の再掘削と写真撮影、図化作業を行った。また、羨道前庭部に長さ0.9m、幅0.3mと0.4mの断ち割りを入れ、床面から深さ0.95mの地点で排水溝の蓋石を検出した。調査後は、速やかに保存公開施設及び照明施設設置工事をおこなった。

d. 石室入口部の調査成果

石室入口部は羨門と羨道前庭部、墳丘内墓道に相当する部分で、調査区は長さ7.65m、幅は平均2.12m、調査面積は16.2㎡である。羨道前庭部の堆積土を除去すると、結晶片岩の板石が2枚出土した。板石の大きさは117×50×20cmと170×60×10cmである。羨門の大きさよりやや小さいため、羨道前庭部の天井石や閉塞石を支えるため斜めに立てかける板石の可能性も考えられる。

羨門は高さ2 m、幅0.7 mで、左側壁の中央が内側にせり出している。羨門には化粧石として厚さ約10 cmの板状の石を使用しており、高さは床面から110cmまで残存している。羨門部の天井石は閉塞石がちょうど当たるように、板石の側面を向けている。羨門から外側へ1.3 mの地点には、高さ約10cm、厚さ約5 cm、長さ40cmと60cmの仕切り状の石を立てており、羨門閉塞石の支え石を受ける施設である可能性が考えられる。

羨道前庭部は右側壁が3.1 m、左側壁が3.4 m、結晶片岩の割石を1～10段積んでおり、高さは羨門寄りでは約1 mである。羨道側壁は、羨道前庭部の床面に立石があるあたりまでは、地山に据え付け穴を掘り、基底石を据えている。この部分では羨門に近い地点よりも土が盛られており、石は1～2個しか積んでいない。石積みの方も立石より羨門寄りでは小口積み、墓道寄りでは平積みを多用する。

立石のある地点より墓道寄りでは、南向きに急激に落ちる地山面の上に、6層分の粘質土・砂質土・細礫層を積み上げ、その上に石を置いて側壁の延長としている状況を確認した。これらの盛土は墳丘を南へ拡張し、墳丘内墓道までを含めた主体部の長さを確保するための基礎地形として認識される。

羨道前庭部の床面では排水溝の掘り方を確認した。排水溝の調査は第4次調査で行っているが、羨門から南へ2、3 mの地点で幅0.4 mのサブトレンチを設定し、床面から深さ0.95 mで蓋石を確認している。排水溝の石組上面は幅約30cmで結晶片岩の割石を蓋としており、掘り方は上面で約25～40cmであった。

墳丘内墓道は羨道前庭部の石組が途切れた場所から続く石組のない通路部で長さ約5 m、幅1.0～1.5 mである。羨門から6～7 mの墳丘内墓道入口にあたる地点の土坑において、炭化物片と土師器片を検出しており、古墳の主体部入口において火と土器を用いた何らかの祭祀的行為が行われていたものと推測される。

e. 墳丘について

前山A 67号墳は南北方向に長い直径23～27 mの楕円形を呈した円墳である。東西方向は隣接する前山A 65号墳と前山A 114号墳の間に造るという制約により短い。南北方向の長さは、6世紀後半からの石室の羨道部が長大化する傾向を受け、側壁基底石の高さまで墳丘を盛り上げる基礎地形を行うことにより、直径27 mの規模を確保したものと考えられる。

古墳の尾根上方にあたる西側には園路があり、周溝の有無は不明である。周辺に岩盤は露頭していないが、排水溝調査のサブトレンチから、石室は地山上面を若干削った高さに位置し、排水溝は部分的に岩盤を掘り込んで造られていることがわかる。

f. 石室について

埋葬主体部は南向きに開口する横穴式石室であり、結晶片岩を用いている。玄室は長さ3.8 m、幅2.3 m、高さ3.2 m、石室の全長は羨道前庭部まで入れて10.84 mあり、岩橋千塚では寺内57号墳・天王塚古墳に次ぎ、井辺1号墳と同じ長さを誇る石室である。墳丘内墓道も含めた古墳の埋葬施設の長さは約15.32 mである。

玄室の石積みは結晶片岩を小口積みしており、高さ10～20cm幅100cm以下のやや大き目の板状の石材を使う。前壁は左右の袖に均等に使い、上部に高さ35cmの大型の石材を積み上げる。玄室前道はほぼ玄室の中央に接続している。玄室奥壁には床面から150cmの高さに石棚がある。石棚は厚い板石を用いており、厚さは30cmで奥壁から110cm張り出している。石棚の下には屍床があり、幅190×奥行き100cmの範囲を石で区画している。屍床の膺上の削り込みは見られない。石室の床面は玉石が敷かれている。遺物は表採されていない。玄室床面から230cmの高さには、室内の両側壁にかけて石梁が1枚ある。石梁は垂直梁である。

玄室と羨道の間には、岩橋型石室の特徴である玄室前道（通廊）がある。玄室の入口を扉石で閉塞するため玄室や羨道より狭くなった部分であり、床面には玄室前道基石と呼ばれる大型で平らな石材が敷かれている。玄室前道は長さ1.2m、幅0.8m、高さ約1.5mで、玄室前道基石の厚みにより、玄室より1段高くなっている。玄門部入口側には板状の化粧石（方立）を立てて装飾されている。

羨道は玄門から羨門までの空間で、長さ2.2m、幅1.0m、高さ1.9～2.1mである。床面は堆積土を除去したところほぼ平坦なようであるが、羨道の天井石は羨門側が一段高く積まれている。羨門部入口両壁下部には板状の化粧石（方立）があり、上半は欠失している。

g. 出土遺物

羨道前庭部で須恵器壺・甕類と高坏の破片、墳丘内墓道部から須恵器坏身片が出土した。ともに、大正7年調査以降の埋め戻し土から出土している。古墳の外から墳丘内墓道へ入る地点で、炭化物とともに土師器片が出土した。

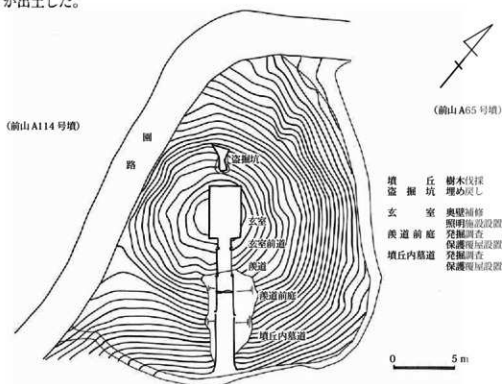


図34 前山A67号墳 墳丘と石室

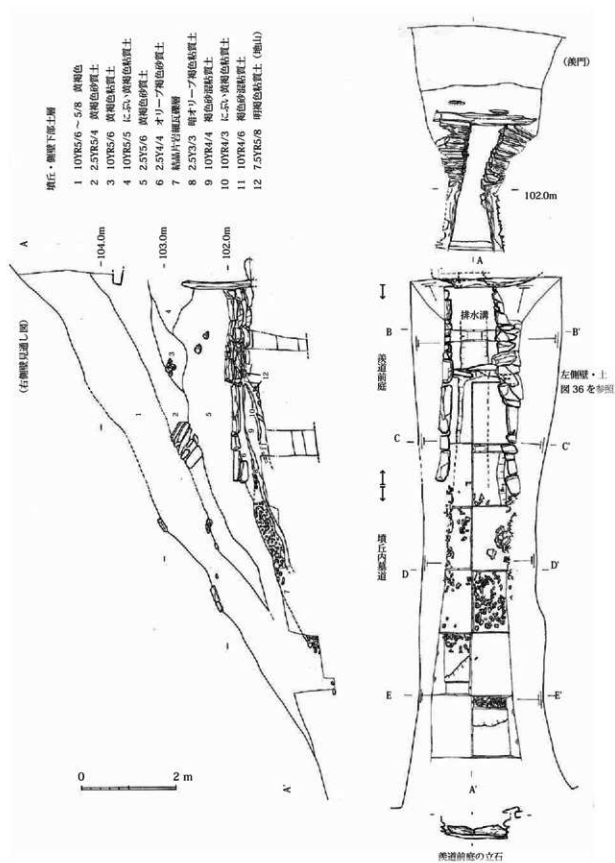


図 35 前山 A 67 号墳 調査区平面・立面

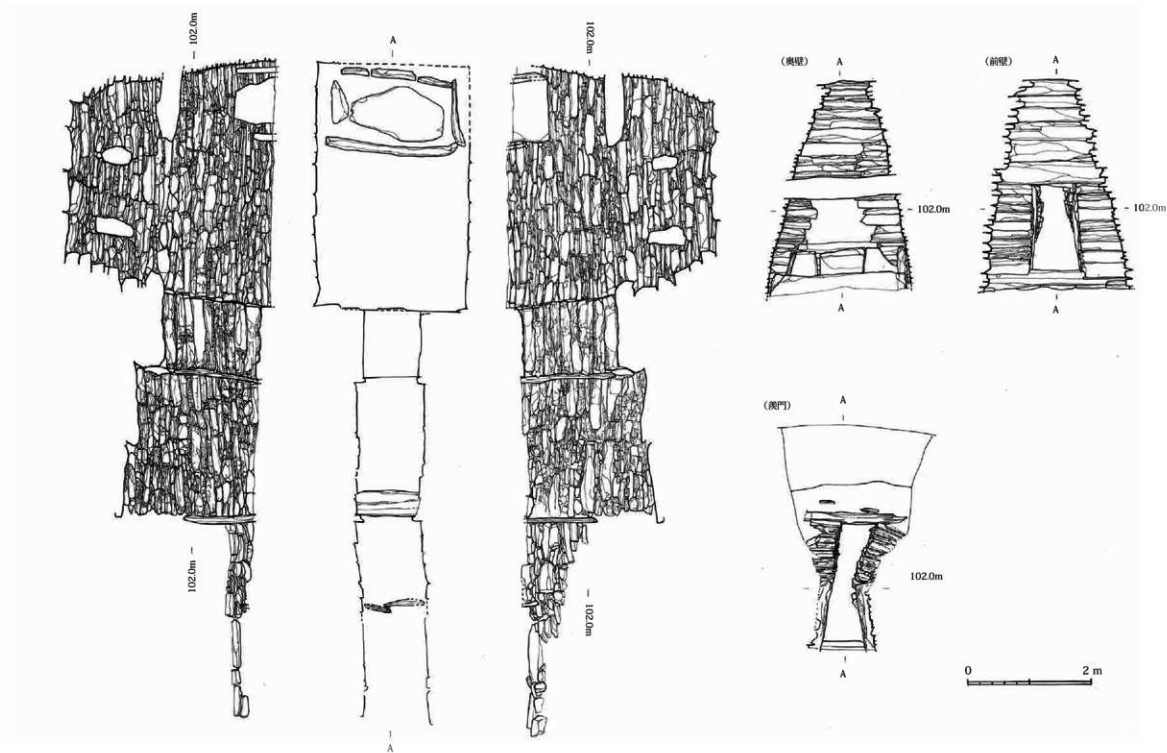
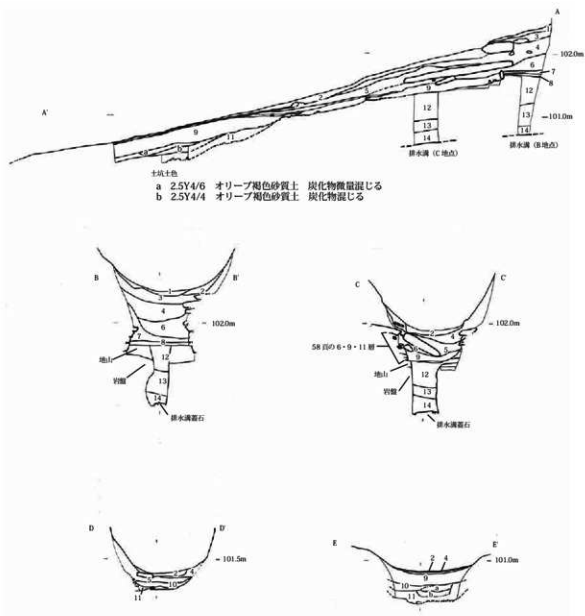


图 36 前山 A 67 号墳 横穴式石室



調査区土色

- | | |
|----------------------------|-------------------------------------|
| 1 10YR6/6 明黄褐色砂質土 | 10 2.5Y5/4 明黄褐色砂質土片岩破片多数混じる |
| 2 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 | 11 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂質土 |
| 3 10YR5/3 にぶい黄褐色瓦礫砂質土 | 12 7.5YR5/8 明褐色砂質土と10YR4/4 褐色砂質土の混層 |
| 4 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 やや砂が多い | 13 10YR4/4 褐色砂質土に7.5YR5/8 明褐色砂質土の混層 |
| 5 2.5Y5/6 黄褐色砂質土 | 14 10YR5/6 明褐色砂質土に7.5Y5/2 岩盤片多量に含む |
| 6 10YR5/6 黄褐色砂質土 | |
| 7 2.5Y5/4 黄褐色砂質土 | |
| 8 2.5Y5/4 黄褐色砂質土片岩破片多数混じる | |
| 9 2.5Y5/4 黄褐色砂質土 | |

0 2 m

図37 前山A 67号墳 調査区土層断面

(7) 前山 B41 号墳の発掘調査

a. 経緯と経過

前山 B 41 号墳は岩橋千塚古墳群中の南東部に位置し、標高約 140 m の尾根の東端部に造られた古墳である。古墳の規模は直径約 8.0 m で、内部には玄室平面形が正方形に近い横穴式石室が築かれている。古墳は盗掘を受け、墳丘上部の約 1/2 が破壊され、石室も天井石や側壁上部の石材が抜かれていた。

b. 墳丘

墳丘は断ち割り調査を実施していないので、正確な規模は明らかでないが、平板測量図の等高線の状態から直径 8.0 m 前後の円墳であると推定される。墳丘の中心点は玄室のほぼ中央部あたりだと考えられる。

墳丘の北側を切断する形で土地境界を区画する溝が掘削されており、壁面の断面観察から山側には岩盤を穿って古墳に付随する幅約 2.0 m、深さ約 0.45 m 程の周溝が掘削されていることを確認した。

c. 石室の調査成果

石室は岩橋山塊で産出する板状の結晶片岩で構築されており、南東方向に開口している。石室は土地境界溝の周溝断面土層と玄室床面の高さから考えると、岩盤を掘削して築かれており、規模は玄室の幅 1.62 m、長さ 1.82 m ～ 1.86 m で、羨道の幅 0.90 m ～ 1.15 m、長さ 1.85 m である。玄室奥壁には長さ約 30 cm、幅約 20 cm 前後の結晶片岩の板石が敷かれて、周辺には直径 5 cm 前後の玉石が見られることから、本来は板石を底に敷いて、その上に玉石を敷き詰めていたものと推定される。排水溝は設けられていない。玄門端部から入口方向に約 1.3 m の場所では、長さ 40 ～ 50 cm の片岩の板石が長軸方向に数枚敷かれており、羨門部の底部であった可能性がある。

石室の構築技法は基本的には結晶片岩の板石を小口積みする技法であるが、玄室では平積みにしており、そこから上部では中型から小型の石材を小口積みにして、壁面の持ち送り角度も急になっている。前壁部では、玄室前道基石の下に 2 枚の板状の石材が敷かれており、玄室内部に突出している。羨道部は石材がやや小型で、入口部に向かってやや斜めに下がるように積まれている。

石室は石室の主軸方向と、岩盤の板状節理面の方向および丘陵の等高線とが、ほぼ直交するように築かれている。玄室と羨道取り付け部の床面の段差はほとんどなく、やや入口部が下り気味の平坦面に石室が築かれている。

玄室奥部の板石の長軸が主軸方向に対して、直交する方向に敷かれていることから、被葬者を主軸に直交する形で 2 ～ 3 人納めることを勘案して石室を築造したものと推定される。

d. 出土遺物

玄室から須恵器蓋片 (1)、墓道入口部から須恵器の低脚で 2 段透かしの高坏脚部 (2)、墳丘上から須恵器の器台の破片 (3) が出土した。これらの遺物は 7 世紀初頭頃の年代を示すものであり、古墳の初葬時の副葬品であれば、この古墳が築かれたのは 7 世紀初頭頃だと推定される。石室の形態や構築技法からみれば、玄室幅に対する羨道部の幅が広く、奥壁下部で大型の石材が平積みされている

点などから、岩橋千塚古墳群の横穴式石室の中では比較的新しい要素をもつ石室だと推定され、出土遺物の年代との大きな隔たりは認められない。

e. 調査後の措置

調査後は速やかに埋め戻した。平成 21 年度に古墳の北側に説明板を設置した。

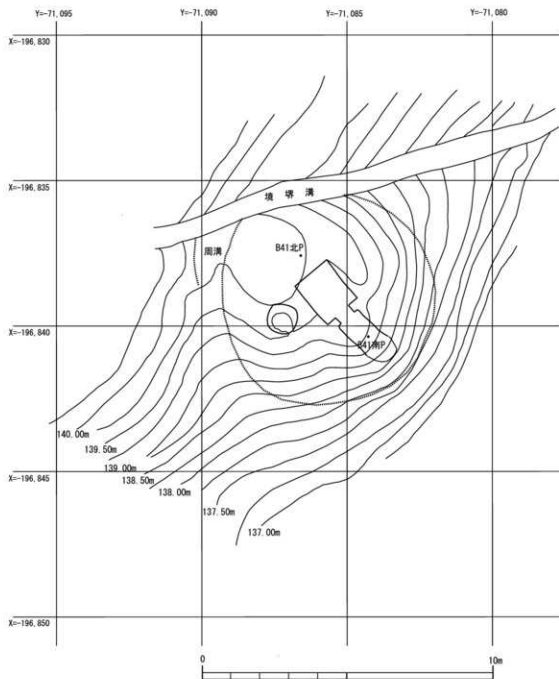


図 38 前山 B 41 号墳 墳丘と石室

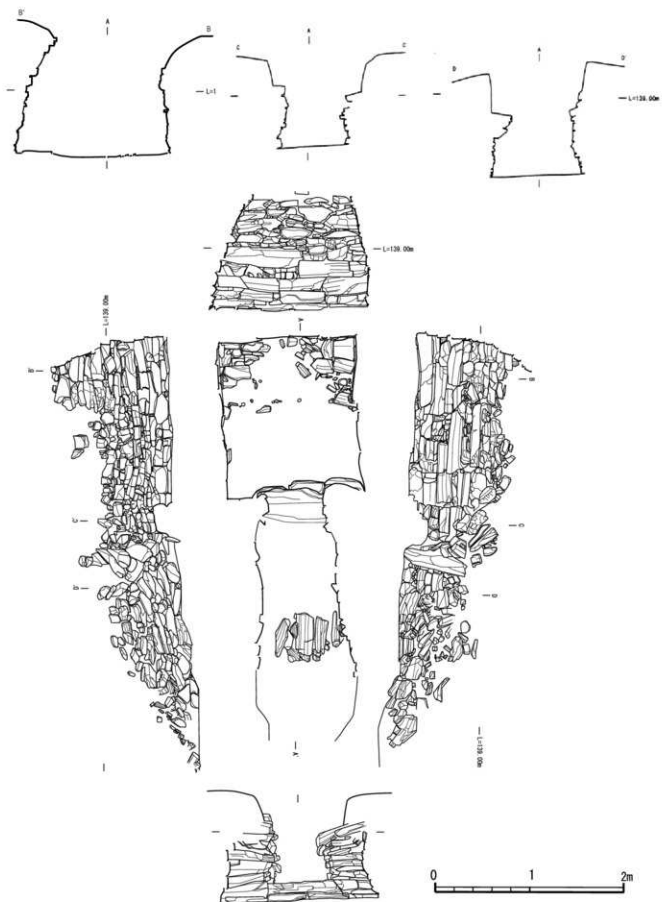


图 39 前山 B 41 号墳 横穴式石室

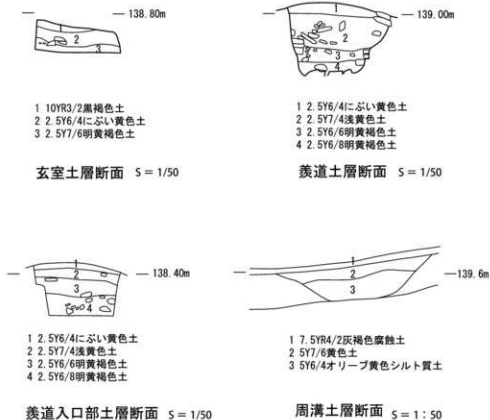


図 40 前山B 41号墳 調査区土層断面

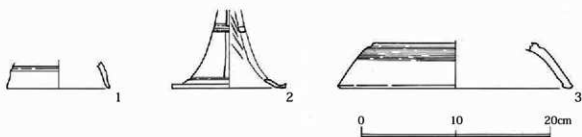


図 41 前山B 41号墳 出土遺物

(8) 事業継続中の古墳の調査概要

A. 前山A 13号墳の調査概要

前山A 13号墳の正式な調査については、現在継続している出土遺物整理業務と古墳整備業務が完了してから、まとめて報告する計画である。

a. 調査の経緯と経過

前山A 13号墳は前山A地区北斜面の標高66m地点に位置する円墳である。1枚の石棚と2本の石梁のある横穴式石室をもつ古墳で、均整のとれた発達した段階の岩橋型横穴式石室を観察することが出来る。大正7年の和歌山県第一期調査で主体部を調査しており、排水溝も確認されている。調査時には、羨道から雲珠・辻金具・轡といった馬具や、槍先等が出土しており、『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査会報告書』1で紹介されている。墳丘は径16～19.5mで、楕円形を呈している。

前山A 13号墳は紀伊風土記の丘の資料館に最も近い位置にあり、現在、石室公開古墳として横穴式石室の見学対象としている。しかし、石室から羨道にかけての床面に土砂が堆積し観察できないほか、石室の背後に盗掘坑があり雨が降るたびに石室内に水がたまり泥だらけになるなど問題が多数生じていた。そこで、大正年間以降に溜まった玄室と羨道の土砂を取り除き、石室の公開の便宜を図るため発掘調査を実施した。調査は平成18年度と平成20年度に行っており、紀伊風土記の丘が担当し、現地調査に際しては、県文化財センターの支援を受けた。

b. 石室・羨道の発掘調査概要（平成18年度）

平成18年度は、前山A 13号墳の主体部の発掘調査を行った。玄室、羨道、墳丘内墓道について大正年間以降の堆積土を除去した。墳丘内墓道部では、大正年間と異なる位置で排水溝を掘り下げ、蓋石を確認した。調査は、7月から10月まで主体部床面の調査を行い、玄室内と墳丘内墓道部で排水溝の確認を行った。また、合わせて石室の展開図を作成した。石室からは水晶製切子玉と青・緑・黄色のガラス製小玉を検出した。

c. 石室入口周辺の発掘調査（平成20年度）

平成20年度は、石室開口部と隣接する微隆起部分について確認調査を実施した。

調査では、前山A 13号墳の排水溝が墳丘外に向かって延びる状況を検出したほか、微隆起部分堆積した土から前山A 13号墳のものとみられる須恵器大甕片を確認した。

d. 遺物整理と古墳の整備

平成21年度に石室の照明施設設置の実施設計書作成、平成22年度に同工事が計画されており、工事とともに石室奥壁側の盗掘坑を埋め戻す計画となっている。発掘調査成果とともに報告するべく作業を進めている。

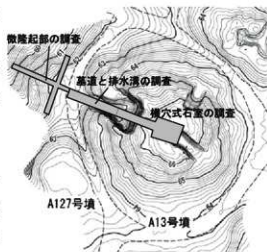


図42 前山A 13号墳 調査区の配置

B. 大日山 35 号墳の発掘調査概要

大日山 35 号墳の正式な調査については、現在継続している出土遺物整理業務と古墳整備業務が完了してから、まとめて報告する計画である。

a. 調査の経緯と経過

大日山 35 号墳は特別史跡岩橋千塚古墳群の西端にある大日山の山頂に位置する前方後円墳である。古墳の石室が大日如来が祀られていたことから、調査対象となったことがなかったが、今回の整備事業では特別史跡地内にある最大級の前方後円墳として調査・整備することとした。

b. 第 1 次調査

第 1 次調査は、平成 15 年 7～12 月に墳丘測量・墳丘確認調査・造出の発掘調査を行い、3 月に石室の調査を実施した。調査面積は約 675m²である。

調査区は第 1～第 12 トレンチまで設定した。第 1 トレンチでは調査区を拡張し、東造出上面の埴輪と須恵器大甍の配置を確認した。第 4 トレンチは調査を実施せず、第 5 トレンチについては埴輪の存在を確認した時点で作業を中断した。横穴式石室の調査では、石室床面の残存遺物を検出し、石室の展開図を作成したほか、石室の排水溝と羨道の副葬品を確認した。

墳丘の規模・形状の調査の結果、従来の認識より大きい基壇のある 2 段築成の前方後円墳であることが確認された。各トレンチで円筒埴輪列を検出したほか、東造出から家・馬・鳥（翼を広げた鳥・水鳥）・力士・盛装の人物・大刀のほか、猪・犬・牛とみられる埴輪や靱・巫女とみられる埴輪の破片が出土している。石室からは馬具や須恵器の破片、玉類が出土している。

b. 第 2 次調査

第 2 次調査は、平成 16 年 10 月から平成 17 年 1 月に、東造出の後円部寄りの谷筋（第 13 トレンチ）と基壇上面（第 14 トレンチ）を設定し調査を行った。調査面積は 50m²である。第 1・2 次調査は文化遺産課が担当し、財団法人和歌山県文化財センターが現地作業を支援した。

第 13 トレンチでは円筒埴輪が 8 本ほぼ直線的に並んでいる状況を確認し、最下段が盾形の基壇であることを確認した。円筒埴輪の据え付け間隔は、埴輪の中心間の距離で 0.66～0.90 m であった。

c. 第 3 次調査

第 3 次調査は、平成 17 年 9 月から平成 18 年 3 月に西造出の発掘とともに、前方部・後円部・基壇・埴輪頂部の確認調査を行った。調査面積は約 300m²である。第 3 次調査は、紀伊風土記の丘が調査を担当し、財団法人和歌山県文化財センターが現地作業を支援した。

第 1～3 次調査の結果、大日山 35 号墳は墳長約 86 m の前方後円墳で、基壇総長は約 105 m であることが確認された。西造出からは家・馬・武人・巫女・靱のほか、両面人物埴輪・胡録形埴輪・双脚輪状冠帽を被る人物埴輪といった特殊な埴輪が出土している。

d. 出土遺物の整理と古墳の整備

第 1～3 次調査では、埴輪を中心に約 300 箱の遺物が出土した。約 200 本の円筒埴輪と多数の胡顔形埴輪・蓋形埴輪のほか、30～40 点の形象埴輪が出土しており、整理作業が継続中である。平成 19 年度には墳丘復元工事を実施しており、形象埴輪の復元と現地へのレプリカ設置、報告書の作成を行う計画で作業を進めている。

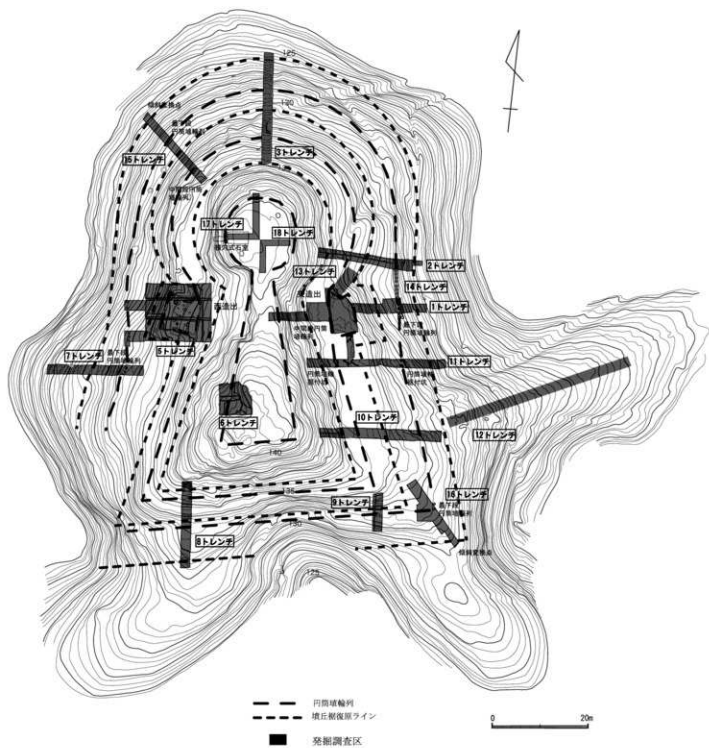


図 43 大日山 35 号墳 調査区の配置

第2節 墳丘測量と石室実測

和歌山県では平成17年度から、古墳の石室や盗掘坑を埋め戻し墳丘を盛り直す、古墳保存修景工事を行っている。整備委員会の指導を受け、石室を埋め戻す前に石室の図化や墳丘測量を行い、資料化をはかっている。平成17年度から19年度までの3年間で、墳丘測量は16基、石室実測は34基で実施しており、ここでその成果を公表する。また同時期に、帆立貝形古墳と考えられる大日山1号墳と前山B117号墳の測量も実施しているため、これらの成果も合わせて掲載したい。

作業は、紀伊風土記の丘が担当した。平成17・18年度については、県文化財センターが発掘調査等支援業務の作業の一部として現地作業を支援した。平成19年度については、紀伊風土記の丘が石室の展開図を作成した。

測量・実測の実施において、基準とする座標は第VI系国土座標の旧座標、古墳の標高については東京湾標準水位(T.P.)で残存する古墳の頂上を測ったものを記載した。墳丘の径は現状で墳丘裾部の認識できるものについては、小数点第一位まで表記し、判然としなないものについては整数値で示した。墳丘は著しい楕円形の古墳を除いて、平均値で測っている。古墳の位置(座標値)・標高・石室方位について、正確な数値の不明なものについては参考のために、図上で確認しておおまかな整数値および方位を入れたものである。石室の規模・平面プランは床に土が堆積した状態で測ったものを使用している。

A. 平成17年度 墳丘測量・石室簡易実測

平成17年度は保存修景工事対象の古墳9基について、墳丘測量と石室簡易実測を行った。対象とした古墳は、前山A4・86号墳、前山B1・2・4・45・67(知事塚古墳)・68・69号墳である。墳丘測量は1/100、石室簡易実測は平面規格の記録と、1/40の断面図作成を行った。

B. 平成18年度 墳丘測量・石室簡易実測

平成18年度は保存修景工事対象の古墳28基のうち19基について、石室簡易実測を行った。対象とした古墳は、前山A16・18・25・31・92・96・107・114・119・121・122・125・130・A141・A142号墳と大日山3・4・5・6号墳で、このほか盗掘坑の平面プランを記録した古墳がある。石室簡易実測は1/40の平面プランと断面図作成を行った。また、このほか、大日山1～6号墳周辺の墳丘測量を行った。

C. 平成19年度 墳丘測量・石室実測

平成19年度は保存修景工事対象の古墳15基のうち5基の石室展開図を作成したほか、前年度に作成した5基の簡易実測図の加除修正を行った。1/10の石室展開図を作成した古墳は、前山A16・18・77号墳、前山B111・118号墳である。石室簡易実測の追加作業を行った古墳は前山A25号墳、大日山3・4・5・6号墳である。平成19年1月10日～平成20年3月16日に実測した。

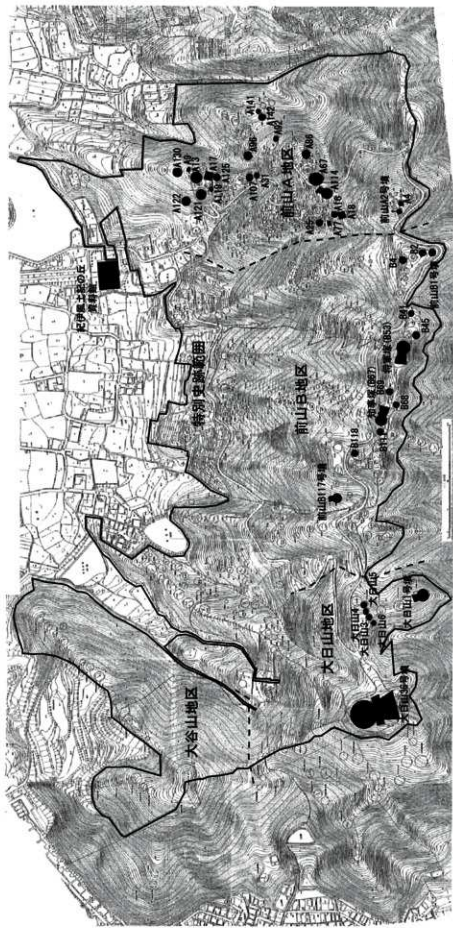


図 44 石産実測状況

■ 石産を实測した石塊

報告 №	実施 年度	古墳名	墳丘形状	墳丘 規模	石室種類	石室平面規 模 (m)	園化内容	原因・目的	備考
	16	前山A 2号墳	円墳	10	横穴式石室	1.0×1.9	石室実測	発掘調査	第2章第1節掲載
1	17	前山A 4号墳	円墳	12	横穴式石室	1.6×1.65	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
	19	前山A 9号墳	円墳	3~5	竪穴式石室	1.54×0.56	石室実測	発掘調査	第2章第1節掲載
	18	前山A 13号墳	円墳	19.5	横穴式石室	2.67×2.03	石室実測	発掘調査	別途報告予定
2	19	前山A 16号墳	円墳	10	横穴式石室	2.5×1.6	石室実測	保存修景工事	当報告掲載
	19	前山A 17号墳	方墳	14	箱式石棺	2.32×0.53	石室実測	発掘調査	第2章第1節掲載
3	19	前山A 18号墳	円墳	13.5	横穴式石室	—×0.9	石室実測	保存修景工事	当報告掲載
	4	前山A 25号墳	円墳	12.5	横穴式石室	2.25×2.4	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
5	18	前山A 31号墳	円墳	8.5	竪穴式石室	1.85×0.7	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
	17	前山A 67号墳	円墳	27	横穴式石室	3.8×2.3	護道前底部実測	発掘調査	第2章第1節掲載
6	19	前山A 77号墳	円墳	6	横穴式石室	1.75×1.2	石室実測	保存修景工事	当報告掲載
7	17	前山A 86号墳	円墳	14.5	横穴式石室	1.85×1.9	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
8	18	前山A 92号墳	円墳	9	横穴式石室	2.1×1.8	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
9	18	前山A 96号墳	円墳	17	横穴式石室	1.9×1.8	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
10	18	前山A 107号墳	円墳	11.6	横穴式石室	1.5×1.6	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
11	18	前山A 114号墳	帆立貝形	31	横穴式石室	—	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
12	18	前山A 119号墳	円墳	8.5	横穴式石室	—	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
13	18	前山A 121号墳	円墳	17.4	横穴式石室	2.1×1.8	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
14	18	前山A 122号墳	円墳	14.5	横穴式石室	1.6×1.8	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
15	18	前山A 125号墳	円墳	12.6	横穴式石室	1.6×—	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
16	18	前山A 130号墳	円墳	16	横穴式石室	2.3×1.7	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
17	18	前山A 141号墳	円墳	10	横穴式石室	1.98×0.42	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
18	18	前山A 142号墳	円墳	12.6	横穴式石室	—×2.0	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
19	17	前山B 1号墳	円墳	13	横穴式石室	2.1×1.45	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
20	17	前山B 2号墳	円墳	13.5	横穴式石室	2.45×1.42	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
21	17	前山B 4号墳	円墳	12.5	横穴式石室	2.5×1.9	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
	16	前山B 41号墳	円墳	8	横穴式石室	1.8×1.6	石室実測	発掘調査	第2章第1節掲載
22	17	前山B 45号墳	円墳	18	横穴式石室	3.2×2.0	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
23	17	知事塚	前方後円墳	34.5	横穴式石室等	2.0×— 他	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
24	17	前山B 68号墳	円墳	13	横穴式石室	2.3×1.7	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
25	17	前山B 69号墳	円墳	14	横穴式石室	1.32×1.85	墳丘測量・石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
26	19	前山B 111号墳	円墳	14	横穴式石室	2.25×1.8	石室実測	保存修景工事	当報告掲載
27	19	前山B 117号墳	帆立貝形	20	横穴式石室	2.3×1.8	墳丘測量	調査研究	当報告掲載
28	19	前山B 118号墳	円墳	11	横穴式石室	2.9×1.85	石室実測	保存修景工事	当報告掲載
29	18	大日山 1号墳	帆立貝形	31.5	横穴式石室	—	墳丘測量	詳細分布図作成	当報告掲載
30	18	大日山 3号墳	円墳	8	横穴式石室	2.0×1.6	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
31	18	大日山 4号墳	円墳	8	横穴式石室	2.5×1.6	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
32	18	大日山 5号墳	円墳	10	横穴式石室	—	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
33	18	大日山 6号墳	円墳	7.5	横穴式石室	2.3×0.9	石室簡易実測	保存修景工事	当報告掲載
	15	大日山35号墳	前方後円墳	86	横穴式石室	4.3×2.4	石室実測	発掘調査	別途報告予定

表6 墳丘測量・石室実測古墳一覧

1 前山A4号墳

(平成17年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区南西部 X=-197,175 m、Y=-70,635 m、h = 150.3 m

墳丘 円墳 現状は方形に近い

規模 直径約12 m、残存高1.5 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長1.6 m、幅1.65 m、残存高0.7 m

右袖不明、左袖幅0.36 m、玄室前道幅不明

方位 南南西に開口

備考 盗掘により、天井石欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成17年度）、周辺樹木伐採（平成19年度）

その他 前山A地区で最高所に位置する。

前山A4号墳は、岩橋千塚の主稜線上に所在する古墳で、前山A2号墳の東隣りに位置する。この古墳周辺の数基の古墳は、前山A地区よりもむしろ前山B地区から続く群集墳のなかで評価すべきものと考えられる。

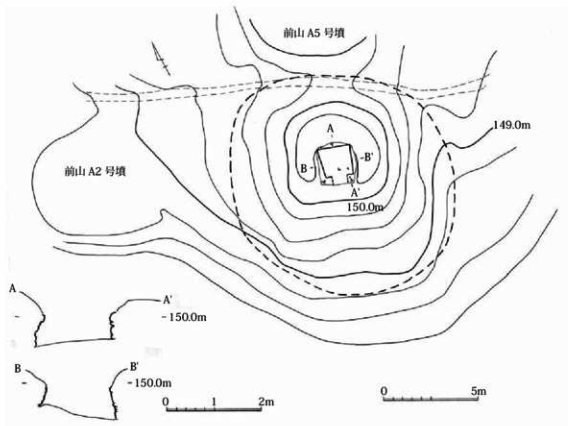


図45 前山A4号墳 墳丘・石室

2 前山 A16 号墳

(平成 18 年度：石室簡易実測、平成 19 年度：石室再実測)

墳丘：位置 前山A地区西部 X=-197.060 m、Y=70.645 m、h=110.6 m

墳形 円墳 やや楕円形を呈している

規模 直径 10 m、残存高 2 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長 2.50 m、幅 1.60m、高さ 1.10m 以上

右袖幅 0.32 m、左袖幅 0.26 m、玄室前道幅 0.7 m

方位 北西に開口

備考 盗掘により天井部欠失、右側壁崩壊

調査歴 なし

整備 保存修景工事 (平成 19 年度)

その他 6 世紀中～後葉

風化の進んだ石材を使用するが、比較的均整のとれた横穴式石室を築造している。奥壁・側壁は持ち送り構造があり、右側壁は崩壊し、石室下部は土砂で埋没している。この古墳と前山 A 18 号墳は、類纂に名称が入れ替わって記載されており、注意が必要である。

① X = -197060.980
Y = -70643.315
② X = -197060.582
Y = -70643.704

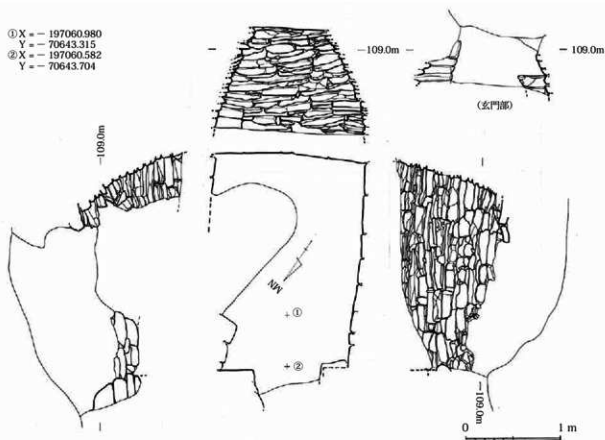


図 46 前山 A 16 号墳 石室

3 前山 A18 号墳

(平成 18 年度：石室簡易実測、平成 19 年度：石室再実測)

墳丘：位置 前山 A 地区西部 X=-197.075 m, Y=-70.645 m, h=114.0 m

墳形 方墳

規模 一辺 12.5 × 13.5 m、残存高 2 m

石室：種類 竪穴式石室

規模 石室長 2.00 m 以上 (2.50 m：昭和 42 年文献記述)、幅 0.90m、残存高 0.70m

方位 主軸 西北西—東北東

備考 トレンチ状の盗掘坑により天井部のほか、御壁 2 箇所欠失

調査歴 T 字形 (横長) 竪穴式石室として取り上げられる文献が見られる。

整備 保存修景工事 (平成 19 年度)

その他 盗掘のトレンチが石室に直角に掘られており、T 字形竪穴式石室と誤認しやすい。

主体部の南西側には須恵器が多数散布しており、須恵器の碗形器台大甕と甬の破片が確認された。墳丘上の土を掻き下ろして、墳丘南側の周溝を埋めているものと考えられる。隣接する前山 A 16 号墳と古墳名が 2 回入れ替わっているうえ、竪穴式石室と認識された場合が多く、過去の文献を参照する際は注意が必要である。

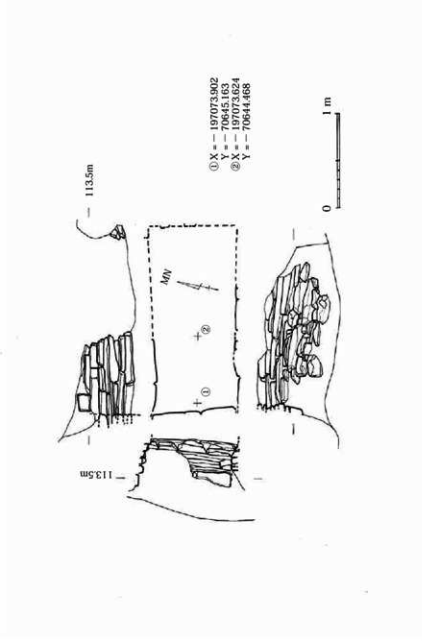


図 47 前山 A 18 号墳 石室

4 前山A 25号墳

(平成18年度：石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区西部 X=-197.030 m、Y=-70.655 m、h=102.9 m

墳形 円墳

規模 直径12.5 m、残存高2 m

石室：種類 横穴式石室

規模 石室全長3.35 m。玄室長2.25 m、幅2.4 m、残存高1.8 m

右袖幅0.75 m、左袖幅不明、玄室前道幅0.55 m

方位 北西に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成19年度）

その他 平成19年度に実測図を若干訂正し、石室清掃・詳細写真撮影を実施

前山A地区の西側の尾根の中では、やや規模の大きい円墳である。石室の左側壁は崩壊し、右側壁の残存部分も膨らみが著しく非常に危険な状況であった。玄門は均整のとれた両袖式となっており、玄室前道、羨道、墳丘内墓道が長く、発達している。

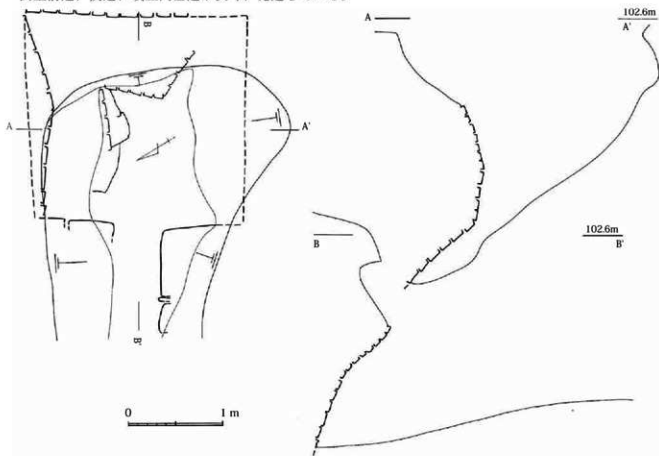


図48 前山A 25号墳 石室

5 前山A 31号墳

(平成18年度：石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区北部 X=-196.935 m、Y=-70.560 m、h=74.5 m

墳形 円墳

規模 直径8.5 m、残存高1.1 m

石室：種類 竪穴式石室

規模 石室長1.85 m、石室幅(北西)0.7 m・(南東)0.6 m、高さ0.4 m

方位 主軸 北西—南東

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 大正7～10年の和歌山県第一期調査で報告あり。

整備 保存修景工事(平成19年度)

その他 近年は前山A 106号墳と呼称されていた。大正時代の調査報告で前山A 31号墳として報告があるので訂正した。

墳頂からの大きな盗掘坑と東側からのトレンチ状の盗掘坑があり、その底部に竪穴式石室が見えている。天上石は両端部を残し、中央部は無くなっている。側壁のほか石室の両端も小口積みをしている。和歌山県第一期調査では石室の床面まで掘り下げており、人骨片が出土している。

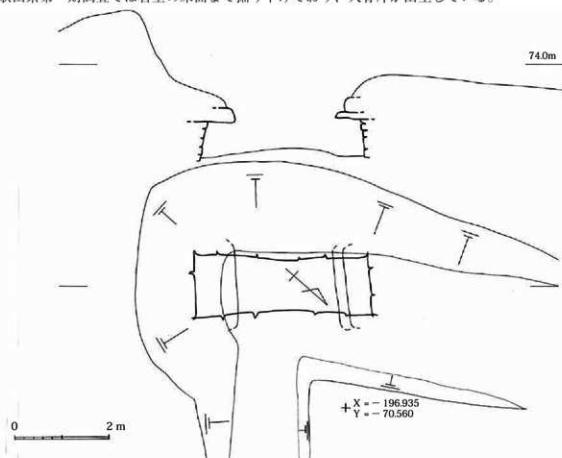


図49 前山A 31号墳 石室

6 前山 A77 号墳

(平成 18 年度：石室簡易実測、平成 19 年度：石室再実測)

墳丘：位置 前山 A 地区西部 X=-197,055 m、Y=-70,655 m、h=104.2 m

墳形 方墳

規模 東西 6 m、南北 4 m、残存高 1 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長 1.75 m、幅 1.20 m (奥壁)・1.00 m (前壁)、残存高 0.7 m

玄室前道幅 0.6～0.8 m、玄室前道長 0.4 m、玄門化粧石(板状の石)あり

方位 西南西に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事(平成 19 年度)

その他 平成 14～20 年度に、前山 AX 3 号墳と仮称されていた古墳である。

前山 A 地区西尾根に特有の、小型の羽子板形平面プランをもつ横穴式石室を主体部とする方墳の 1 基である。「T 字形」と呼称される横長の小型横穴式石室と同じ単葬の小型横穴式石室であるが、埋葬の頭位は石室に平行した奥壁側にある。墳丘が石室と同じ形の方形である点が注目される。

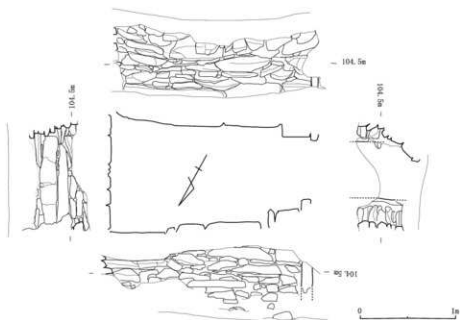


図 50 前山 A 77 号墳 石室

7 前山A 86号墳

(平成17年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区中央部 X=-197.025 m、Y=-70.530 m、h=98.3 m

墳形 円墳

規模 直径14.5 m、残存高4.0 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長1.85 m、幅1.9 m、残存高1.3 m

右袖幅0.79 m、左袖幅0.45 m、玄室前道幅0.6 m

方位 南南東に開口

備考 盗掘により、天井石欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成17年度）

その他 なし

前山A地区の中央からやや東側に位置する古墳で、南側の谷筋へ向かい開口する横穴式石室をもつ。横穴式石室は両袖式で6世紀中頃から後半にかけてのものと考えられ、前山A 65号墳や前山A 114号墳より新しく、前山A 67号墳より古い段階の古墳といえる。出土遺物等はみつかっていない。

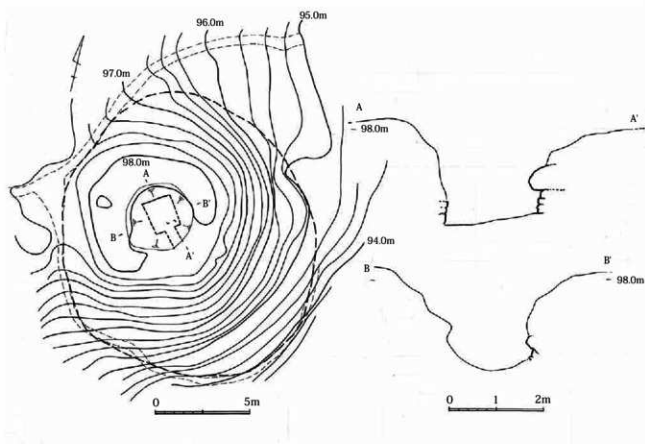


図51 前山A 86号墳 墳丘・石室

8 前山A 92号墳

(平成18年度：石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区東部 X=-196.975 m、Y=-70.510 m、h=80 m

墳形 円墳

規模 直径9 m、高さ1.5 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長2.1 m、幅1.6 m、残存高1.0 m

右袖幅0.27 m、左袖幅0.2 m、玄室前道幅0.75 m

方位 東に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（石室埋め戻し）

その他 なし

前山A 93号墳の東側に隣接して築造されている古墳である。規模がやや小さく、立地もあまり良好ではない。玄門は右袖部が崩れている可能性があり、石室の形態がやや不鮮明である。

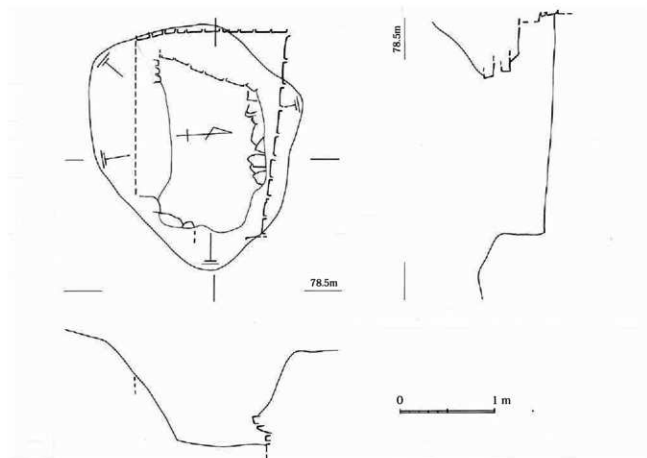


図52 前山A 92号墳 石室

9 前山A 96号墳

(平成18年度：石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区東部 X=-196,920 m、Y=-70,525 m、h=73.4 m

墳形 円墳

規模 直径17 m、残存高5 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長1.9 m、幅1.8 m、残存高2.0 m

右袖幅0.70 m、左袖幅0.46 m、玄室前道幅0.56 m

方位 西に開口

備考 盗掘により天井部欠失。左側壁が石室内へ膨らむ

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成18年度）

その他 なし

前山A 46号墳の西にあり、西側の谷筋へ開口する横穴式石室をもつ古墳である。前山A 46号墳と別の谷筋へ石室が開口しており、前山A 31・32号墳と同一の墓道に連なる可能性がある古墳である。やや小ぶりの石を積み上げて石室を構築し、玄門はやや右袖が広い。

+ X = -196.920
Y = -70.525

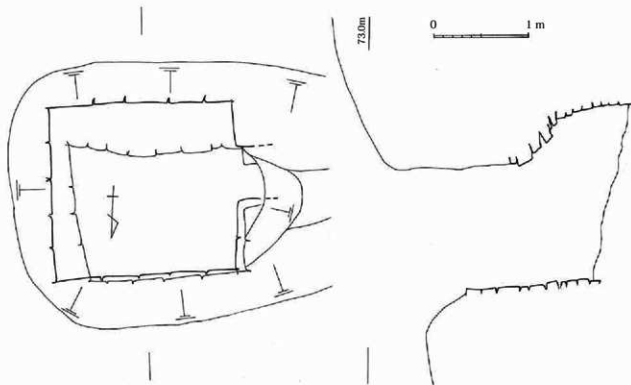


図 53 前山A 96号墳 石室

10 前山A 107号墳

(平成18年度：石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区北部 X=-196,920 m、Y=-70,565 m、h=72.9 m

墳形 円墳

規模 直径11.6 m、残存高2 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長1.5 m、幅1.6 m、残存高0.9 m

右袖幅0.56 m、左袖幅不明、玄室前道幅不明

方位 東に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成18年度）

その他 なし

前山A 32号墳の北にある横穴式石室をもつ円墳である。石室上部の持ち送り部分は既に崩落しており、右袖は土砂に埋まっていた。現状よりも石室の崩壊が進む可能性は低かったが、墳丘上を古墳散策路が通過しており、歩行者の安全を図るために埋め戻しが行われた。

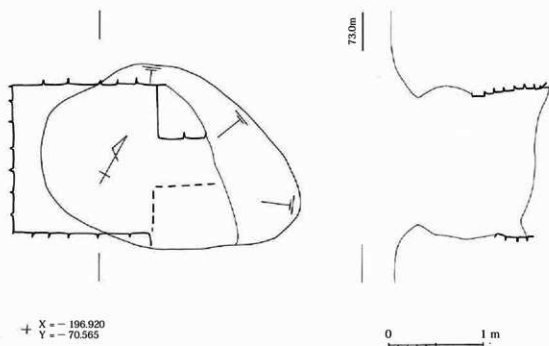


図54 前山A 107号墳 石室

11 前山A 114号墳

(平成18年度：石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区中央部 X=-197,050 m、Y=-70,605 m、h=111.4 m

墳形 帆立貝形古墳 あるいは小型前方後円墳

規模 墳長31 m。円丘部径19 m、高さ5 m、方形部長さ12 m、幅12 m、高さ2 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長1.5 m以上、幅1.1 m以上、高さ不明

右袖幅0.1 m、左袖幅0.4 m、玄室前道幅0.6 m、同長1.1 m

羨道幅0.9 m、同長0.9 m以上

方位 南東に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成18年度）

その他 方形部分は前山AX 5号墳と呼称されていた。

前山A 65・67号墳の西にある古墳で、石室は南に開口している。円丘部の北東に、やや長いが低平な方形部分があるので帆立貝形古墳あるいは小型前方後円墳として認識できる。

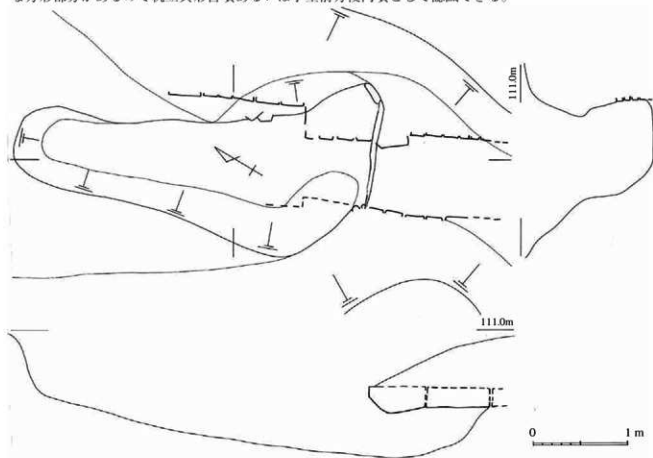


図55 前山A 114号墳 石室

12 前山A 119号墳

(平成18年度：石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区北部 X=-196,850 m、Y=70,580 m、h=63.9 m

墳形 円墳

規模 直径8.5m、残存高0.3～1.2m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長1.3m以上、幅1.2m以上、高さ不明

右袖幅0.05m、左袖幅0.4m以上、玄室前道幅0.5m

方位 北向きに開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 古墳保存修景工事 (平成18年度)

その他 なし

平成14年度に左片袖傾向の著しく強い擬似片袖式の横穴式石室を主体部とする古墳として認識された。横穴式石室導入期の古墳である可能性が考えられる。袖部の石材は不揃いで、雑な印象を与える。

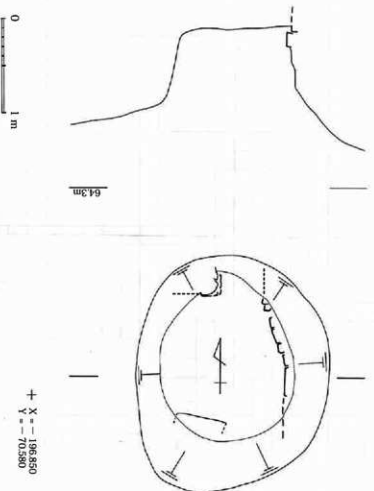


図 56 前山A 119号墳 石室

13 前山A 121号墳

(平成18年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区北部 X=-196,835 m、Y=-70,585 m、h=63.0 m

墳形 円墳

規模 直径17.4 m、残存高2.5～5.0 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長2.1 m、幅1.8 m、残存高1.2 m

玄室前道幅0.5 m

方位 西北西に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成18年度）

その他 西裾の蛸壺は「岩橋山塊の祭祀関連遺跡と本土決戦準備遺構」〔和歌山地方史研究57〕2009で報告される。

前山A 17号墳・前山A 116号墳から北西に派生する尾根に築造されている円墳である。両袖式の横穴式石室が西の谷筋に向かって開口している。古墳の西裾には人が一人ちょうど隠れられるサイズの穴があり、戦時中に掘られた蛸壺と推定される。

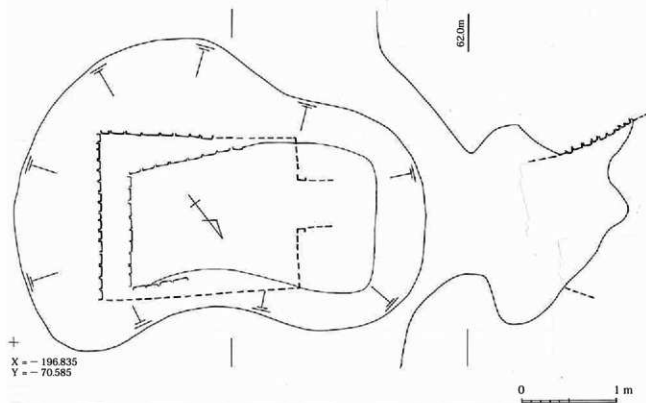


図57 前山A 121号墳 石室

14 前山A 122号墳

(平成18年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区北部 X=-196,810 m、Y=-70,600 m、h=51.0 m

墳形 円墳

規模 直径14.5 m、残存高3 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長1.6 m、幅1.8 m、残存高0.8 m

右袖幅不明、左袖幅0.45 m、玄室前道幅不明

方位 西に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成18年度）

その他 なし

周辺に竹が生えており、管理には注意が必要な古墳である。この古墳より北方では大規模な地形変化があり、昭和20年の本土決戦準備遺構として認識できる。大正時代の分布図では他に古墳がみられないが、若干の土器片の表採ができることから、消滅した古墳があったものと思われる。

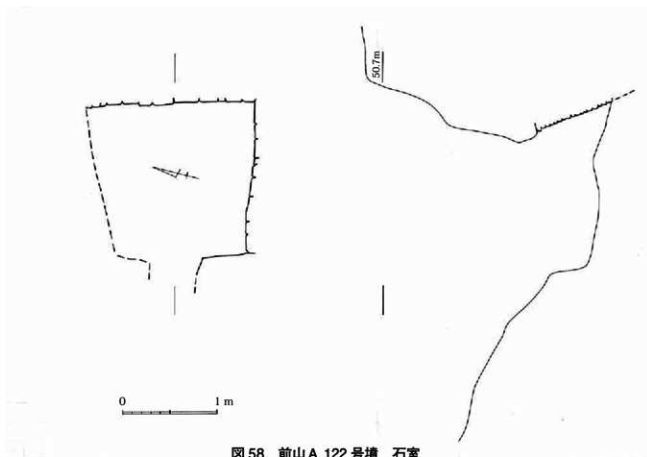


図58 前山A 122号墳 石室

15 前山A 125号墳

(平成18年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区北部 X=-196.865 m、Y=-70.560 m、h=67.8 m

墳形 円墳

規模 直径12.6 m、残存高2.2 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長1.6 m、幅不明、残存高1.6 m

右袖幅不明、左袖幅0.4 m、玄室前道幅0.4 m

方位 北東に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事(平成18年度)

その他 なし

前山A地区の北尾根の最も安定した平坦面にあり、北には方墳である前山A 17号墳、南には帆立貝形古墳ないしは小型前方後円墳である前山A 116号墳がある。盗掘坑から玄室と羨道天井石が若干観察でき、石室は北東に開口していることが分かる。岩橋千塚では標準的な規模の円墳である。

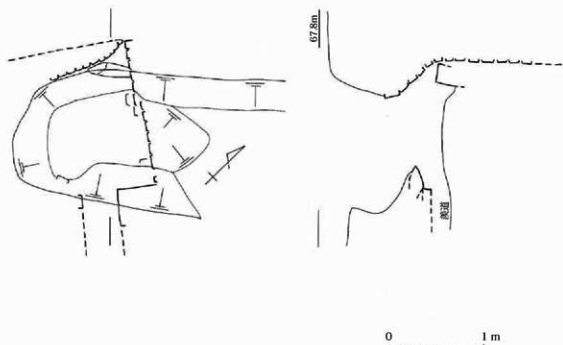


図59 前山A 125号墳 石室

16 前山A 130号墳

(平成18年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区北部 X=-196.800 m、Y=-70.550 m、h=63.5 m

墳形 円墳

規模 直径16 m、残存高4 m

石室：種類 横穴式石室 石棚1枚

規模 玄室長2.3 m、幅1.7 m、高さ1.5 m以上

右袖幅0.54 m、左袖幅0.46 m、玄室前道幅0.56 m、長0.9 m、玄門幅0.45 m

方位 北西に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事(平成18年度)

その他 なし

前山A 9号墳の北側にある円墳である。石室の残存状態が良好で安定していたが、垂直な穴になっており、立入り禁止の措置をとっていた。玄門部は均整のとれた石積みを行っており、玄室内から玄門の閉塞石が見える。この古墳のあたりから北側では古墳築造の密度が低くなっている。

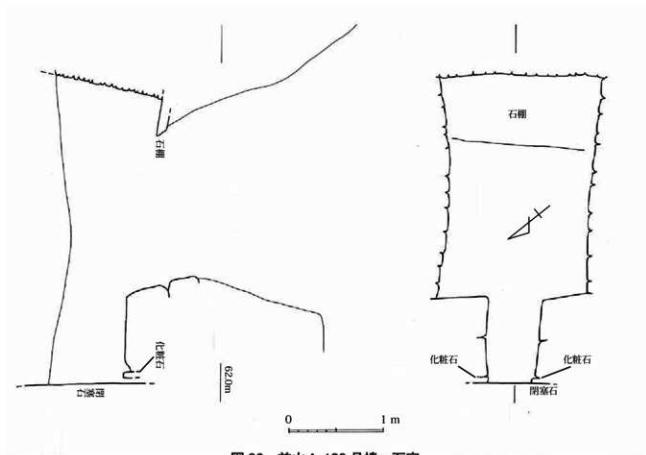


図60 前山A 130号墳 石室

17 前山 A141 号墳

(平成 18 年度：石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区東部 X=-196.945 m、Y=-70.450 m、h=63.2 m

墳形 円墳

規模 直径 10 m、残存高 1 m

石室：種類 竪穴式石室

規模 石室長 1.98 m、幅 0.42 m、高さ 0.4 m

方位 主軸 北東-南西

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成 18 年度）

その他 平成 14～20 年度に、前山 AX45 号墳と仮称されていた古墳である。

前山 A 46 号墳の南にある谷に向かい並ぶ 6 基の古墳のうちの一つである。現在、これらの古墳は藪に覆われており行きづらいが、実際には前山 A 地区の東の谷筋からなだらかな傾斜に沿ってこの古墳まで来ることができる。小型の竪穴式石室をもっているが、年代は不詳。石室の中ほどの蓋石が一枚失われていた。

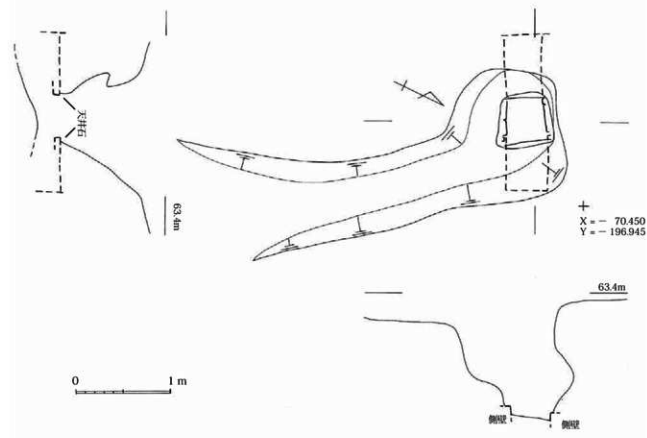


図 61 前山 A141 号墳 石室

18 前山 A142号墳

(平成 18 年度：石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区東部 X=-196.950 m、Y=-70.460 m、h=63 m

墳形 円墳

規模 直径 12.6 m、残存高 2 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長不明、幅 2.0m、高さ 1.2m 以上

右袖幅不明、左袖幅不明、玄室前道幅不明

方位 南東に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成 18 年度）

その他 平成 14～20 年度に、前山 AX47 号墳と仮称されていた古墳である。

前山 A 46 号墳の南にある谷に向かい並ぶ 6 基の古墳のうちの一つであるが、石室の崩壊が著しいため埋め戻した。この古墳と前山 A 46 号墳の間は古墳の空白地となっている。

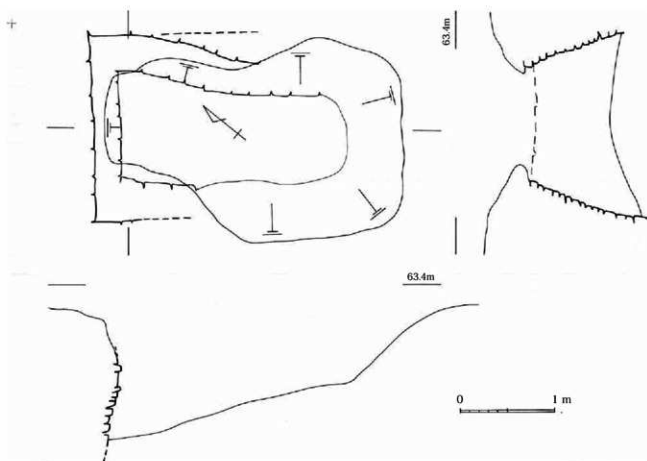


図 62 前山 A142号墳 石室

19 前山B1号墳

(平成17年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山B地区南東部 X=-197,225 m、Y=-70,730 m、h=144.3 m

墳形 円墳

規模 直径11～13 m、残存高3.0 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長2.1 m、幅1.45 m、残存高1.3 m

右袖幅0.42 m、左袖幅0.52 m、玄門幅0.52 m

方位 東南東に開口

備考 盗掘により天井部欠失。側壁影らみあり

調査歴 なし

整備 保存修景工事(平成17年度)

その他 なし

前山B地区の南東端に位置する古墳で、紀伊風土記の丘の園路が隣接地を通過する。奥壁は小口積み
みの石以外に、平積みみの石とも考えられる長い石が混在している。両側壁はかなり内側へせりだして
おり、危険な状況であり、埋め戻しを行っている。

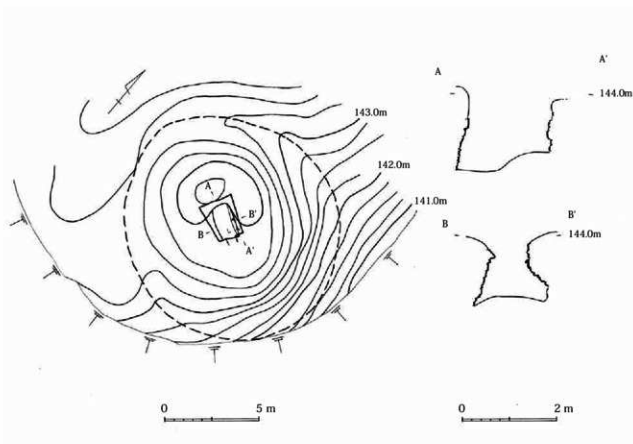


図63 前山B1号墳墳丘・石室

20 前山B 2号墳

(平成 17 年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山B地区南東部 X=-197,210 m、Y=-70,730 m、h=145.7 m

墳形 円墳 周溝あり

規模 直径 13.5 m、残存高 3.5 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長 2.45 m、幅 1.52m、残存高 1.3m

右袖幅 0.5 m、左袖幅 0.42 m、玄室前道幅 0.62 m

方位 東南方向に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成 17 年度）

その他 なし

奥壁及び側壁には他の古墳よりやや粗い石を用いるが、両袖の石は平坦な石の側面を揃えて使用している。石材を整え両袖式の石室を造るところから、6世紀中頃から後半にかけての古墳である可能性が高い。

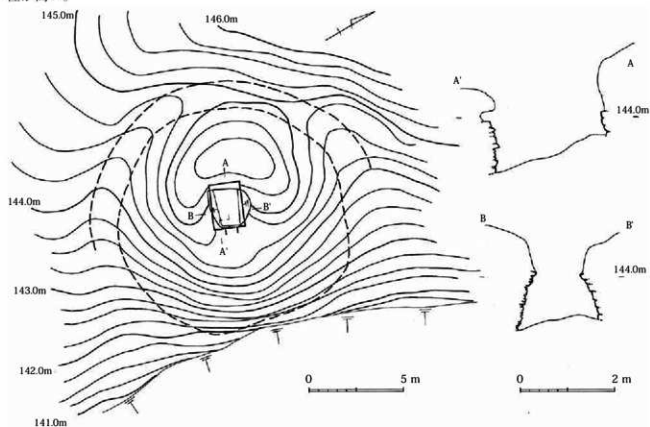


図 64 前山B 2号墳墳丘・石室

21 前山 B 4 号墳

(平成 17 年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山 B 地区南東部 X=-197,180 m、Y=-70,740 m、h=147.0 m

墳形 円墳

規模 直径 12.5 m、残存高 3 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長 2.1 m、幅 1.9 m、残存高 1.2 m

右袖幅不明、左袖幅不明、玄室前道幅不明

方位 ほぼ北に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成 17 年度）

その他 平成 14～20 年度には、前山 BX61 号墳と仮称された古墳である。

前山 B 3 号墳の北隣りに位置する円墳である。石室はやや粗い石材を使用しており、右側壁の前壁寄りには既に崩壊している。玄門付近も崩れて土を被っており、規格があまり分からない状態となっている。

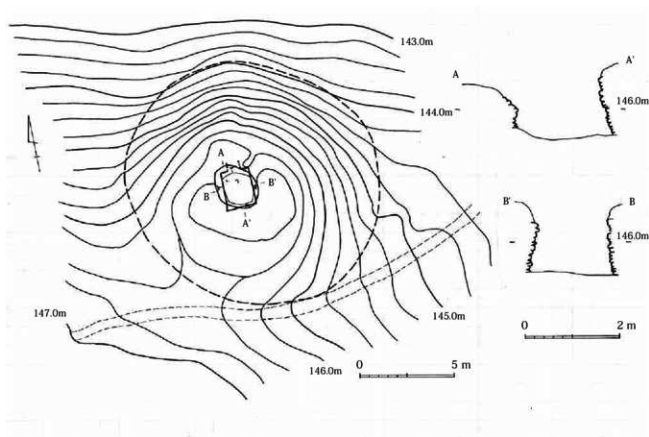


図 65 前山 B 4 号墳墳丘・石室

22 前山 B45 号墳

(平成 17 年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山B地区南部 X=-197.185 m、Y=-70.865 m、h=146.0 m

墳形 円墳

規模 直径 16 ～ 18 m、残存高 3.3 m

石室：種類 横穴式石室 石棚あり

規模 玄室長 3.2 m、幅 2.0 m、残存高 1.3m

右袖幅 0.5 m、左袖幅 0.7 m、玄室前道幅 0.8 m

方位 南南西に開口

備考 盗掘により天井部欠失。石棚 1 枚 出 0.9 m、幅 1.3 m。

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成 17 年度）

その他 なし

將軍塚古墳の東に近接し、古墳見学路沿いにある古墳である。石室はやや粗い石材を用いて積まれており、石材の一部は墳頂部に置かれている。石棚のほか、玄門部の天井石もやや厚みのある 1 枚石を使用している。玄門部の幅が広いのが特徴的な古墳である。

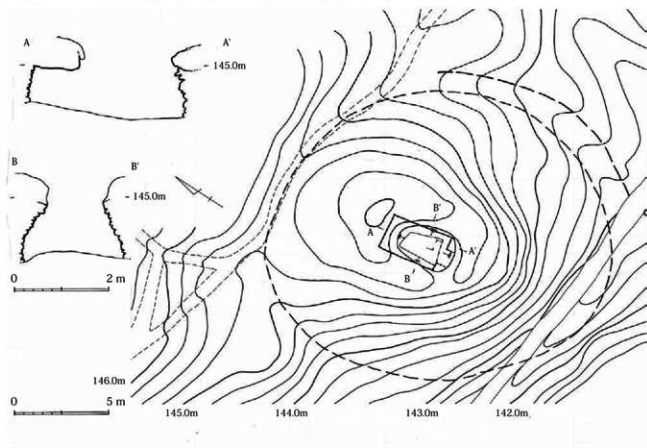


図 66 前山 B 45 号墳墳丘・石室

23 知事塚古墳（前山 B67 号墳）

（平成 17 年度：墳丘測量・石室簡易実測）

墳丘：位置 前山 B 地区南部 X=-197,115 m、Y=-71,005 m、h=146.7 m

墳形 前方後円墳 造出あり

規模 墳長 34.5 m

後円部径 20.5 m・高さ 6 m、前方部長 16 m・幅 25 m・高さ 6 m

くびれ部北側に造出あり。東西 4 m、南北 3 m、高さ約 1 m

石室 1：種類 横穴式石室（後円部） 石棚あり

規模 玄室長 2.4 m、幅 2.0 m、高さ 3.35 m

右袖幅不明、左袖幅不明、玄室前道幅 0.8 m、長 0.5 m

石棚・石障あり。床面河原石使用。玄室前道入口に閉塞石あり。

方位 西に開口

石室 2：種類 小型横穴式石室（くびれ部寄りの前方部北側）

規模 玄室長 2 m、幅 0.9 m、残存高 1.4 m

右袖幅不明、左袖幅 0.17 m、玄室前道幅 0.46 m・長 0.55 m

方位 北北東に開口

石室 3：種類 竪穴式石室（くびれ部寄りの前方部南側）

規模 長さ 1.9 m、幅 0.45 m、高さ不明

方位 主軸 北東—南西

備考 石室 1 と 3 は、平成 17 年度の埋め戻し前に既に観察不能であった。

石室 2 は天井石欠失。石室 3 もおそらく天井石なし。

このほか、もう 1 基石室があるともいわれるが、詳細不明。

調査歴 ①昭和 41 年に和歌山市と関西大学が墳丘測量実施。

関西大学文学部考古学研究室「岩橋千塚」1967 に掲載

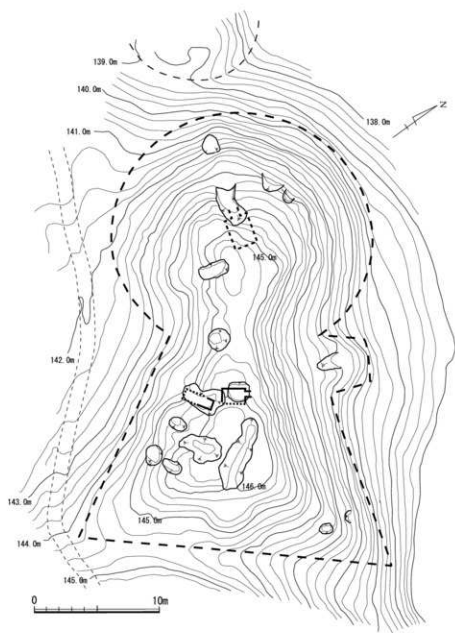
②造出の存在と表採された須恵器・埴輪片の紹介。

『紀伊風土記の丘年報』第 15・16・35 号に掲載

整備 保存修景工事（平成 17 年度）

その他 後円部と造出で埴輪・須恵器多数表採。古墳全域で埴輪少量表採。

知事塚古墳は、岩橋山塊の主稜線上に並ぶ前方後円墳の一つで、前山 B 地区では將軍塚古墳に次ぐ規模の古墳である。前方部を東、後円部を西に向け、北には造出が存在する。断続ナデ技法を用いる円筒埴輪が表採されていることから、岩橋千塚古墳群で最後の段階の前方後円墳であり、おそらくは 6 世紀第 3 四半期頃の古墳ではないかと推定される。主体部は 3 箇所確認されており、後円部にある横穴式石室は、玄室の高さが増大している段階のものと評価できる。今回の測量で墳長が 3 m 大きく、造出のある墳形が確認できた。



前方部 小型横穴式石室断面

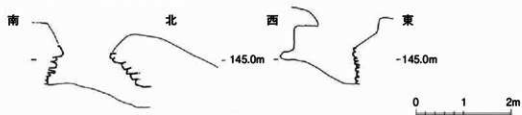


图 67 知事塚古墳（前山 B 67 号墳）墳丘・石室

24 前山 B68 号墳

(平成 17 年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山B地区南部 X=-197.135 m、Y=-70.995 m、h=147.2 m

墳形 円墳

規模 直径 12.0 m、残存高 2.3 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長 2.5 m、幅 1.7 m、残存高 1.0 m

右袖幅 0.7 m、左袖幅 0.5 m、玄室前道幅 0.6 m

方位 南西に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成 17 年度）

その他 なし

玄室の奥壁と側壁の石はやや粗く、風化が進んでいる。両側壁の上半は既に崩落してなくなっており、取り急ぎ埋め戻しが必要な古墳と判断された。玄門部は均整が取れており、各袖の幅と玄門の幅はほぼ同じで、玄門はあまり広くはない。

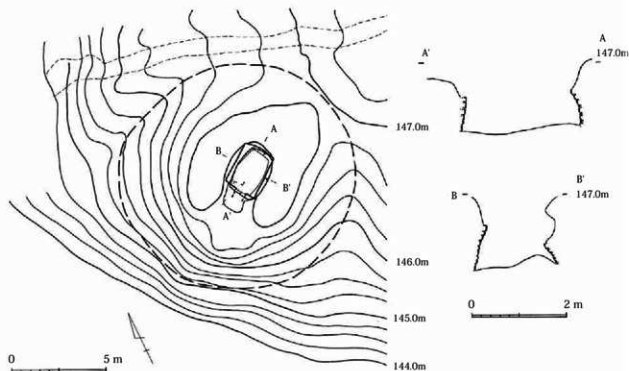


図 68 前山 B 68 号墳墳丘・石室

25 前山 B69 号墳

(平成 17 年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山B地区南部 X=-197.125 m、Y=-70.970 m、h=148.5 m

墳形 円墳

規模 直径 14 m、残存高 3.5 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長 1.32 m、幅 1.85m、残存高 1.8m

右袖幅 0.76 m、左袖幅 0.32 m、玄室前道幅 0.8 m

方位 北北東に開口

備考 盗掘により天井部欠失。石室が北に偏在している

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成 17 年度）

その他 なし

前山の主稜線から北斜線に向かって墳丘を造っており、墳頂から石室床面までは標高差が大きい。石室の石材は粗く苔むしている。玄門部は土砂を被っており分かりづらいが、右袖が広いようである。

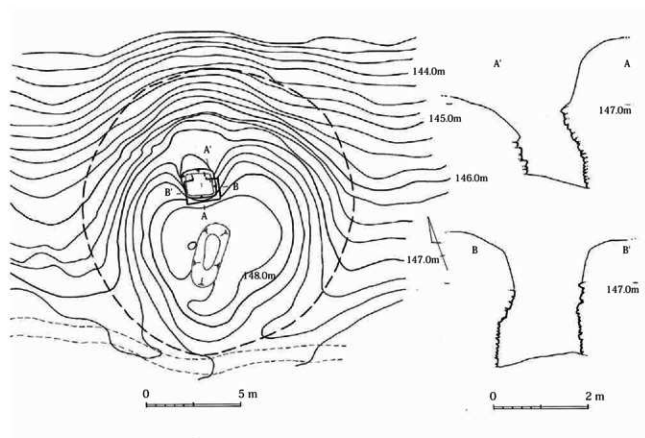


図 69 前山 B 69 号墳墳丘・石室

26 前山 B111 号墳

(平成 19 年度：石室実測)

墳丘：位置 前山B地区南部 X=-197,105 m、Y=-71,030 m、h=139.8 m

墳形 円墳

規模 直径 14.0 m、残存高 3.0 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長 2.25 m、幅 1.80m、残存高 1.6m

右袖幅 0.6 m、左袖幅 0.47 m、玄室前道幅 0.65 m、同長 0.6 m

羨道幅 0.7 m、同長 2.2 m

方位 西向きに開口

備考 盗掘により天井部欠失、玄門部のみ天井石が一枚残る。南側壁崩壊

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成 19 年度）

その他 なし

前山 B 111 号墳は、知事塚古墳の西に隣接する斜面に造られた円墳である。玄室の中央に羨道が取り付くことから、6 世紀中頃から後半の古墳と推定される。

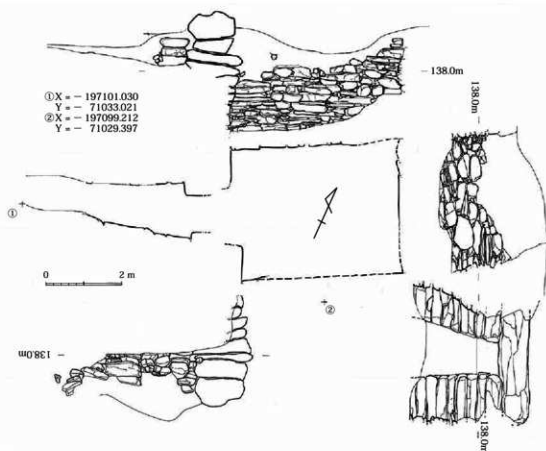


図 70 前山 B 111 号墳 石室

27 前山B 117号墳

(平成19年度：石室実測)

墳丘：位置 前山A地区中央部 X=-197,015 m、Y=-71,140 m、h=116.3 m

墳形 帆立貝形古墳 周溝を含めた総長は約25 m

規模 墳長20.0 m、円丘部径16.0 m、高さ4.3 m、方形部幅8.5 m、長6.5 m、高さ1.5 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長2.3 m、幅1.8 m (奥壁)、1.7 m (前壁)、残存高1.6 m

玄門幅0.55 m、右袖幅0.55 m、左袖幅0.60 m

方位 西北西に開口している

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 「前山B 117号墳の墳丘測量と遺物表採」〔紀伊風土記の丘年報35〕2008にて調査報告

整備 危険木伐採(平成20年度)

その他 保存修景工事対象外。2基の円墳(前山BX11・12号墳)と認識されていた古墳

郡長塚古墳の北西にある平坦面に築造された、平成19年度新規発見の帆立貝形古墳である。保存修景工事の対象外であり、石室の図面はまだ作成していない。方形部では、埴輪や須恵器大甍片等が表採されており、造出状の施設と認識される。6世紀中頃の古墳と推定される。

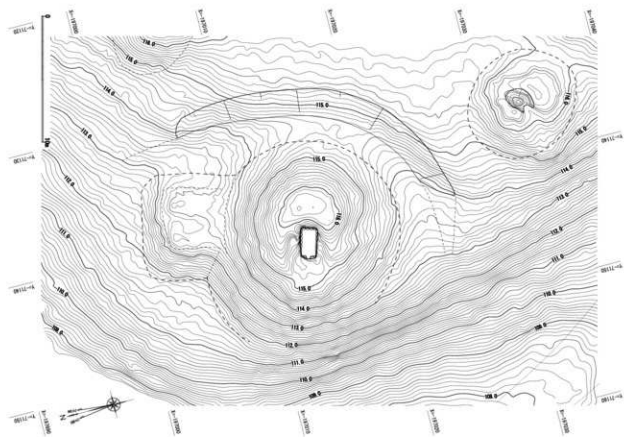


図71 前山B 117号墳墳丘

28 前山 B118 号墳

(平成 19 年度：石室実測)

墳丘：位置 前山B地区南部 X=-197,060 m、Y=-71,070 m、h=131.4 m

墳形 円墳

規模 直径 11.0 m、残存高 4.0 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長 2.90 m、幅 1.85m、残存高 1.6m

右袖幅不明、左袖幅不明、玄室前道幅 0.7 m

方位 東に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成 19 年度）

その他 なし

前山 B 118 号墳は、郡長塚古墳の北東にある円墳である。石室は比較的大型のものであるが、南側壁が崩壊しており観察しづらい状態である。玄門付近の北側壁は堆積土が多く、土圧によりずれが生じている。羨道の隙間から閉塞石と考えられる板石の存在が確認されている。

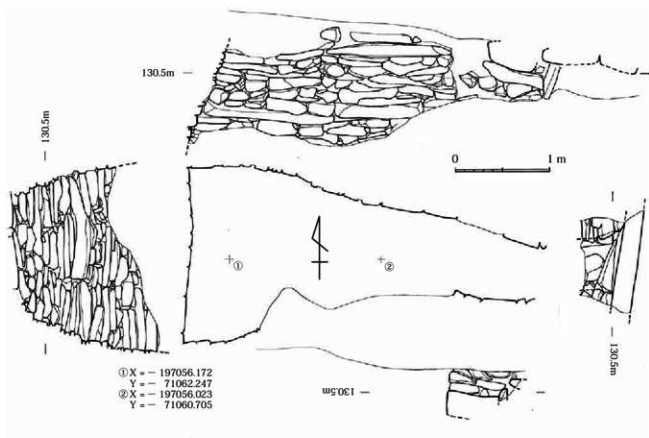


図 72 前山 B 118 号墳 石室

29 大日山1号墳

(平成18年度：墳丘測量)

墳丘：位置 大日山A地区南東部 X=-175.135 m、Y=-71.340 m、h=122.7 m

墳形 帆立貝形古墳あるいは前方後円墳 基壇がある可能性あり

規模 墳長31.5 m、円丘部径21.0 m、高さ4.8 m、方形部幅13.0 m、長10.0 m、高1.6 m

石室：種類 横穴式石室

規模 石室不明（横穴式石室と推定される）

方位 不明

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 墳丘上の樹木伐採（平成18年度）

その他 古墳修景工事対象外

前方後円墳として知られるが、方形の部分が短小低平であり、帆立貝形古墳として認識すべき古墳と考えられる。基壇に載っている可能性もあり、やや範囲を広げて追加測量をする必要がある。くびれ部から後円部にかけて原位置を保つ円筒埴輪が数本確認できるほか、墳頂部と方形部で埴輪片が表採されている。主体部は不明であるが、横穴式石室と推定される。

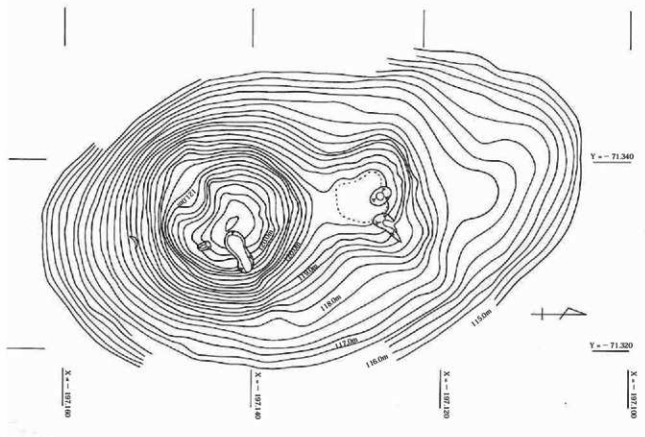


図73 大日山1号墳墳丘

30 大日山3号墳

(平成18年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 大日山地区南東部 X=-197,055 m、Y=-71,360 m、h=121.0 m

墳形 円墳

規模 直径8m、残存高1m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長2.0m以上、幅1.6m、残存高0.9m

右袖幅不明、左袖幅不明、玄室前道幅不明

方位 南に開口するものと考えられる

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成19年度）

その他 平成14年度時点では、大日山4号墳とされていた古墳である。

大日山2号墳のある南方に向かって開口する横穴式石室をもつ古墳である。奥壁はほとんど抜け落ちており、墳丘上には石材が散乱している。大日山3～6号墳については石材が粗く、崩壊も進んでおり、埋め戻して墳丘を復元した。

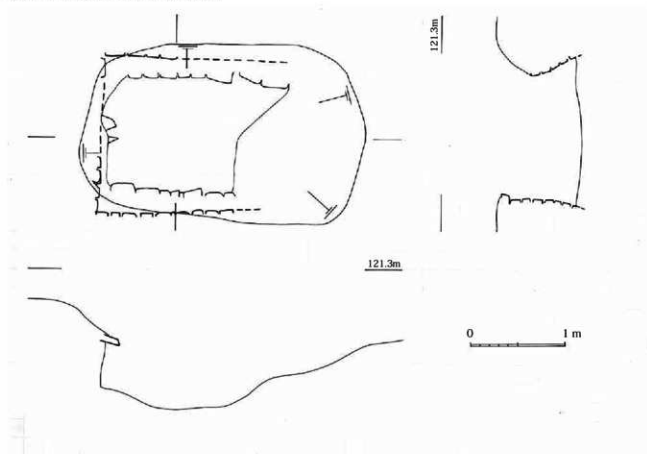


図74 大日山3号墳 石室

31 大日山4号墳

(平成18年度：墳丘測量・石室簡易実測、平成19年度：実測図修正)

墳丘：位置 前山A地区南東部 X=-197,055 m、Y=-71,345 m、h=120.4 m

墳形 円墳

規模 直径8 m、残存高3 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長2.5 m、幅1.6 m、残存高0.5 m

右袖幅不明、左袖幅0.3 m、玄室前道幅不明

方位 南南東に開口

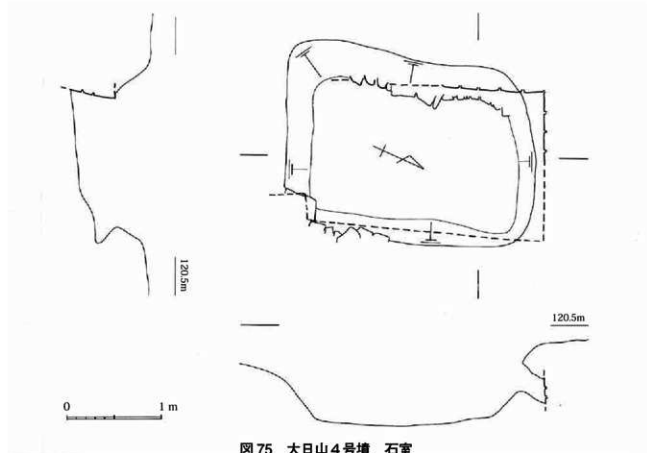
備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事(平成19年度)

その他 平成14年度時点では、大日山5号墳とされていた古墳である。

大日山3号墳と並んで築かれた古墳である。石室の残存状況は非常に悪く、両側壁が崩れているほか、石室の内外に石材と盛土が散乱しているが、奥壁はほぼ残存している。玄室の左側壁が若干観察できるため、左袖の幅が狭い両袖式の石室ではないかと推測される。



32 大日山5号墳

(平成18年度：墳丘測量・石室簡易実測)

墳丘：位置 前山A地区南東部 X=-197,050 m、Y=-71,330 m、h=120.4 m

墳形 円墳

規模 直径10 m、残存高1.3 m

石室：種類 横穴式石室

規模 玄室長1.1 m以上、幅1.0 m以上、残存高0.9 m

右袖幅不明、左袖幅不明、玄室前道幅不明

方位 南東に開口

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 石室埋め戻し・墳丘復元(平成19年度)

その他 平成14年度時点では、大日山6号墳とされていた古墳である。

東側の側壁以外石が無く、三方は細礫混じりの土で埋まる。東西1.0 m、南北1.8 m、高さ1.0 mの四角い穴となっている。この古墳の東の谷には戦時中の掩壕や蛸壺が掘られており、谷筋から最も近かったこの古墳が防空壕や貯蔵用の穴として、転用されたものと考えられる。

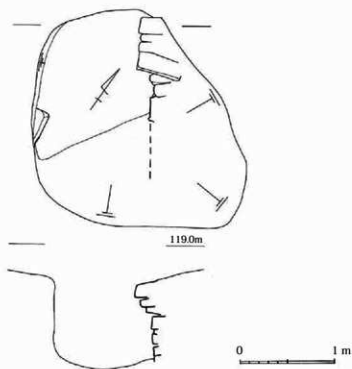


図76 大日山5号墳 石室

33 大日山6号墳

(平成18年度：墳丘測量・石室簡易実測、平成19年度：図面修正)

墳丘：位置 大日山地区南東部 X=-197,065 m、Y=-71,375 m、h=116.0 m

墳形 円墳

規模 直径7.5 m、残存高1.5 m

石室：種類 竪穴式石室

規模 石室長2.3 m、幅0.9 m、残存高0.6 m

方位 主軸 北—南

備考 盗掘により天井部欠失

調査歴 なし

整備 保存修景工事（平成19年度）

その他 平成14年度時点では、大日山3号墳とされていた古墳である。

大日山地区では珍しい竪穴式石室をもつ古墳である。墳丘はほとんど残存しておらず、石室自体も残存状態が非常に悪い。石室にかぶる腐葉土を除去し東壁を確認し、南壁は埋没したものをピンポールで位置を確認した。他の古墳に比べ、あまり立地は恵まれていない。

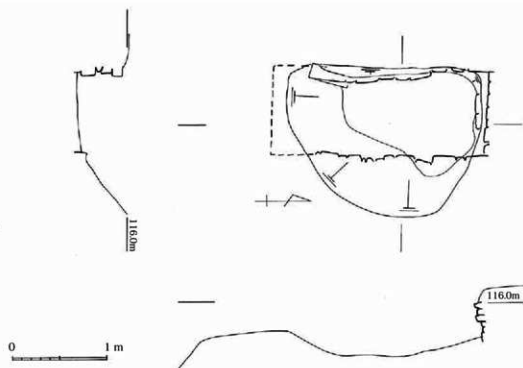


図77 大日山6号墳 石室

第3章 保存整備

第1節 危険木伐採

業務の目的と経緯・経過

古墳の墳丘や石室に影響を及ぼすクスギ・コナラ・ヤマモモ・ハゼ・サクラ・カシ・クスノキなどの樹木を伐採し、1～2m以内の長さに切断して墳丘外へ搬出する業務である。古墳に損傷を与えることなく伐採する高度な熟練技術を保持している必要があることから、和歌山市内近郊の森林組合を指名業者として指名競争入札をおこない事業を実施した（平成16年度は和歌山市近郊の森林組合のうち最低見積書提出者と随意契約）。

伐採業務については、特別史跡内であるので文化財保護法による現状変更の許可を得て実施するとともに、保安林でもあるため人工林の択伐として保安林内立木伐採届出書を知事に提出している。

各年度の概要（表7）

平成15年度 大日山35号墳の保存修理事業（発掘調査）にともない、古墳に影響がある墳丘上の樹木や調査に支障がある墳丘上および墳丘周辺の樹木97本を伐採した。

平成16年度 古墳整備事業に関連する前山A2号墳、前山A67号墳、前山B41号墳、大日山35号墳の古墳4基の樹木を12本伐採したほか、古墳の保存に影響を及ぼしている前山A地区4基、前山B地区13基、大日山地区1基の各古墳について樹木38本を伐採した。

平成17年度 前山A地区2基、前山B地区19基、大日山地区9基の各古墳について、古墳の保存に影響を及ぼしている樹木82本を伐採した。

平成18年度 公開古墳地区にあたる前山A地区の10基および園路・散策路に近接した前山B地区の將軍塚・知事塚古墳、大日山地区の大日山1号墳の各古墳について伐採を行なった。前山A2号墳については、設置した保存施設に影響がある樹木を伐採した。伐採本数は235本である。

平成19年度 前山A地区の保存整備事業等に関わる古墳4基および前山B地区東側から中央部の古墳39基について伐採を実施した。前山A地区では4基の古墳で61本、前山B地区では39基の古墳で201本を伐採した。前山A67号墳では、照明施設のソーラーパネル保護のためパネルに近接した樹木を伐採した。石室公開施設を設置した前山A2号墳と隣接するA4号墳では、両古墳と園路の間にあたる南斜面の樹木を伐採し、古墳公開施設の保護と眺望を確保した。この他、大日山35号墳の保存修理事業にともなって古墳墳丘上の225本の樹木を伐採した。

平成20年度 前山B地区西側の主尾根後線付近の古墳10基について実施した。いずれも園路や散策路に近い古墳で、伐採本数は76本である。

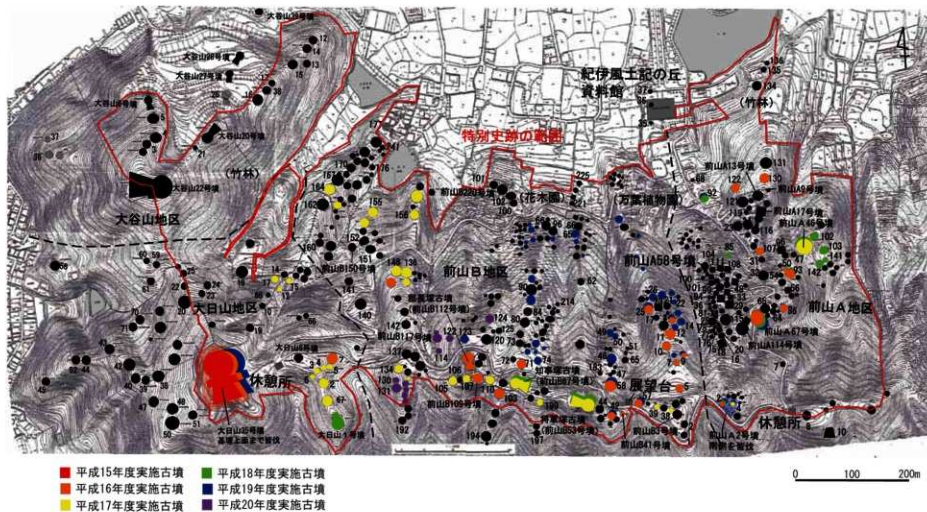


図 78 危険木伐採対象古墳の位置

第2節 説明板・案内標識の設置

業務の目的と経緯・経過

特別史跡岩橋千塚古墳群の説明板・案内標識は昭和46年の紀伊風土記の丘の開園時に設置され、その後、毀損・滅失したものを中心に補充をはかっている。その結果、30年以上の間に作られ錆び・退色の進んだ形の異なる数種の説明板・案内標識が乱立する様相となっていた。

紀伊風土記の丘は平成20年度時点で年間延べ20万人を超す人が来園しており、古墳の見学者の便宜を図るとともに、自然観察等の目的での来園者にも古墳を分かりやすく見ていただくためにカラー写真と図を入れた説明板の設置を行うこととした。

当事業では、平成15年度から発掘調査を行い保存公開用の施設を設置する計画の古墳に、黒御影石にセラミック板（陶磁板）をはめ込んだ説明板を設置した。また、平成19年度に園内全域を対象とした説明板設置の全体計画を作成し、平成20年度から古墳群全域に説明板と案内標識を設置する業務を開始した。古墳群全域を対象とした説明板は全体説明板・地区説明板と個別の古墳の説明板の3種類から構成し、これとともに統一したデザインで案内標識を設計している。説明板・案内標識の設置は、平成25年度まで継続する計画である。

(1) 古墳群の説明板・案内標識の設置

平成19年度に古墳群全域を対象に説明板・案内標識を設置する全体計画を立て、平成20年度から設置を始めた。黒御影石にセラミック板を貼り付けた説明板は高さが25cmと低く、保存施設の入口ならば良いが、丘陵地で下草が生えやすい群集墳の中に置くには不適であった。そこで、好所を選んで設置できる立て看板タイプの説明板を作り、設置することとした。説明板は本体がステンレス製で表面にシルクスクリーン印刷のシートを貼り付ける仕様で、長期的に本体が錆びにくくシートの貼り替えが安価で可能な形態である。

説明板は古墳群全体説明板と地区説明板、古墳（遺構）説明板の3種類を製作し、古墳群全体に配置することとした。全体説明板は資料館に近接する古墳群入口部に設置し、こげ茶色（日塗工D09-20B）の本体に白い盤面の説明板をつけている。地区説明板は、一定範囲の古墳のまとまりを対象に地回り説明板を作成する予定であるが、平成20年度までには設置していない。古墳等説明板は石室公開古墳の説明の補助のほか、埋め戻した古墳の説明、展望解説などを行うものである。古墳の入口に置くため、場所をとらず、見学の妨げとならない位置を選び倒れづらいものを製作した。

案内標識は約65万㎡の敷地内に約430基の古墳が分布する当古墳群において、道に迷わずに古墳を見学できるよう便宜をはかるため設置している。案内標識はステンレス製で、こげ茶色に白文字の表記を行い、園路・古墳見学路沿いにコンクリート基礎を埋め込みポールを立てて設置している。

ステンレス製説明板の仕様

古墳群の説明板には全体説明板・古墳等説明板・案内標識がある。仕様は図を参照していただきたい。また、平成21年度以降に小規模な地区を対象とした地区説明板を設置する予定である。

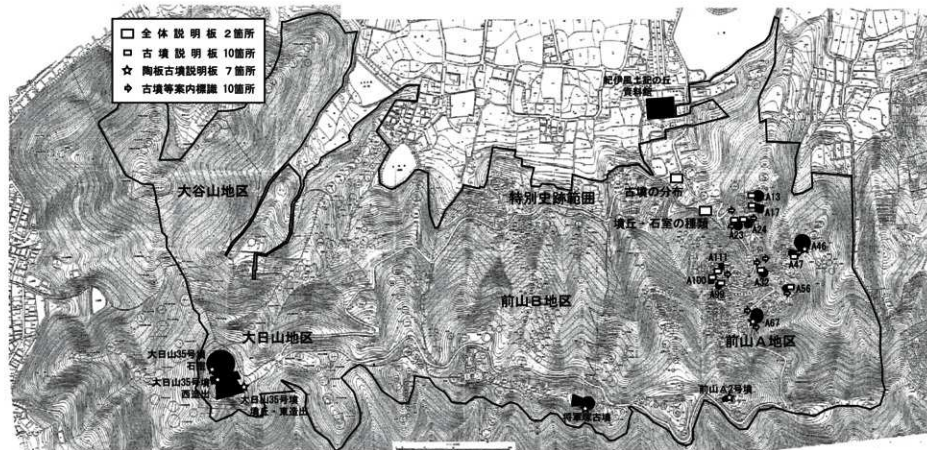


図 79 説明板・案内標識の設置位置

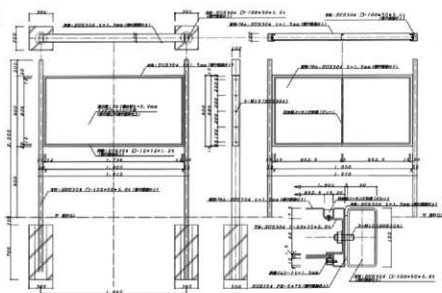
平成 20 年度業務

全体計画の説明板・案内標識設置予定地のうち、資料館から最も近く石室公開古墳が集中する前山 A 地区において、説明板を設置した。古墳群全体説明板 2 基と古墳説明板 10 基、案内標識 10 箇所である。説明板の内容は以下のとおり。

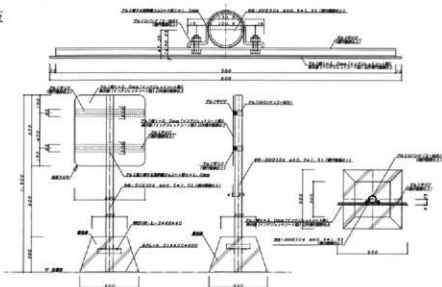
年度	No.	設置古墳名等	説明内容	全体規格 (mm)	版面規格 (mm)	期間	委託業者	実績金額 (円)	現状変更 (申請・許可・終了報告)				
特別史跡岩橋千塚古墳群説明板 (ステンレス製・立看板タイプ)													
古墳群全体説明板													
20	1	古墳群入口部	古墳群全体と特別史跡範囲の古墳	2800(地上部2000)×1800×50	900×1800	10.23～01.29	機丹青社	3,042,900	紀風第66号(H20.9.24) 20委庁第4の1332号(H20.11.21) 紀風第16号(H21.4.21)				
20	2	前山A地区入口部	墳丘と石室の種類										
古墳説明板													
20	1	前山A13号墳	円墳・横穴式石室	1500×600	600×600								
20	2	前山A17号墳	方墳・箱式石棺										
20	3	前山A23号墳	円墳・横穴式石室										
20	4	前山A24号墳	円墳・横穴式石室										
20	5	前山A32号墳	円墳・横穴式石室										
20	6	前山A47号墳	円墳・竪穴式石室										
20	7	前山A56号墳	円墳・横穴式石室										
20	8	前山A99号墳	円墳・横穴式石室										
20	9	前山A100号墳	方墳・箱式石棺										
20	10	前山A111号墳	方墳・竪穴式石室										
案内標識													
20	1～10	前山A地区10箇所	古墳等の方向と距離の表示	1500×500～900	200×500								
石室保存公開施設設置古墳の説明板 (セラミック製・据置きタイプ)													
15	1	大日山35号墳横穴式石室前	横穴式石室	1415×810×150・250	600×600(2枚)	H15.11.12～H16.03.19	㈱ステップス	2,751,000	文第56号(H15.4.17) 15委庁第4の88号(H15.5.23)				
15	2	大日山35号墳	墳丘と東造出										
16	3	前山A2号墳	横穴式石室	800×800×150・250	600×600	H17.1.14～H17.3.18	㈱ステップス	812,700	文第149号(H16.6.11) 16委庁第4の443号(H16.7.16)				
19	4	大日山35号墳	西造出	700×700×150・250	600×600	H19.10.10～H19.12.11	岩尾磁器工業㈱	918,750	紀風第87号(H19.8.7) 和教文第323号(H19.8.8) 紀風第17号(H20.4.30)				
19	5	前山A67号墳	横穴式石室	700×700×150・250	600×600								
19	6	前山A46号墳	横穴式石室	700×700×150・250	600×600	H20.02.20～H20.03.28	大塚オーミ陶業㈱	824,250	紀風第161号(H20.2.15) 和教文第696号(H20.2.26) 紀風第21号(H20.4.30)				
19	7	將軍塚古墳	横穴式石室	700×700×150・250	600×600								

表 8 説明板一覧

全体説明板



古墳説明板



案内標識

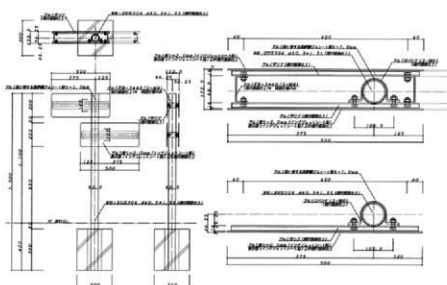


図 80 古墳群説明板・案内標識の仕様

(2) 保存公開施設設置古墳の説明板

セラミック製の説明板は、平成20年度までに5基の古墳で、7基の説明板を設置した。

セラミック製の説明板は60cm四方の盤面に、古墳名と文章約200～300文字のほか、写真、図を入れて焼付けている。説明板は台座となる黒御影石に貼り付けて据え置いた。説明板は露天で、寒暖差のある山中に設置するため、吸水率が低く、退色しにくく耐候性に優れた素材としてセラミック板を使用している。説明板の仕様は、各年度若干異なっており、以下の通りである。

陶磁板製説明板 各年度の仕様

	陶磁板(縦×横×厚)	台座(縦×横×高(前～奥))	台座石加工
平成15年度	60×60×1cm	80×160×15～25cm	磨き・割肌加工
平成16年度	60×60×1cm	80×80×15～25cm	磨き加工
平成19年度	60×60×1cm	70×70×15～25cm	磨き・割肌加工

平成15年度業務

大日山35号墳の第1次発掘調査の成果を受けて、説明板を設置した。設置箇所は2箇所、古墳の全体説明板を前部東側に、横穴式石室の説明板を石室前に設置した。説明板はセラミック板を2枚並べて張り合わせた横長のもので側面は割肌加工している。

平成16年度業務

前山A2号墳の発掘調査の成果を受けて、説明板を設置した。石室から土師器が出土した状況の写真等を掲載した。

平成19年度業務

発掘調査の成果を受けて、大日山35号墳の西造出と前山A67号墳の説明板を設置した。このほか、既存の保存整備施設のある將軍塚古墳・前山A46号墳の石室前にも説明板を設置した。説明板は重量・平面積を軽減し、台座を10cm小さくした。台座の加工方法は、全面磨き加工の場合墓石のイメージに重なるとの意見があったので、側面は割肌加工に統一した。

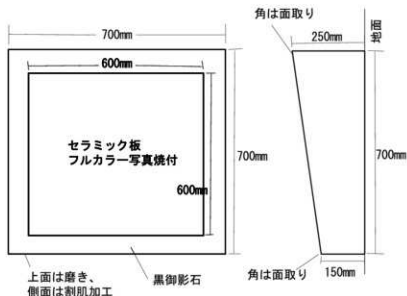


図82 保存公開施設設置古墳の説明板仕様

第3節 石室保存公開施設の設置

古墳の保存をはかりつつ、より安全で分かりやすいかたちで公開することを目的として、岩橋千塚古墳群において特徴的な横穴式石室をもつ2基の古墳を対象に保存公開施設を設置した。

(1) 前山A 2号墳

目的

前山A 2号墳は岩橋千塚古墳群でも数少ないT字形横穴式石室を埋葬施設とする円墳である。盗掘によって天井石が全て除去され、現状で永く放置すれば石室が崩壊する恐れがあるので、まず発掘調査を実施し、その後、保存公開施設を設置することとした。

業務内容

平成16年度に発掘調査を実施し、同年度に保存措置を講じ、平成17年度に保存公開施設を設置した。

平成16年度

業務名：特別史跡岩橋千塚古墳群保存修理事業に伴う前山A 2号墳保存修理業務

契約額：2,824,500円

業務期間：平成17年1月18日～平成17年3月18日

契約先：中村石材工業株式会社

羨道部換気管設置・全体埋め戻し、真砂土・エポキシ系接着剤による石室石材目地詰めと玄室上部の土固め。

平成17年度

業務名：特別史跡岩橋千塚古墳群保存修理事業に伴う前山A 2号墳保存修理業務

契約額：3,360,000円

業務期間：平成18年2月15日～平成18年3月17日

契約先：中村石材工業株式会社

墳丘修景、ガラス覆屋設置。

施設の仕様

基礎：花崗岩（サビ系）

覆屋：

平面の規模：2.26 × 2.94 m

枠：ステンレス

ガラス：合せ強化ガラス 10mm + 10mm

点検口設置

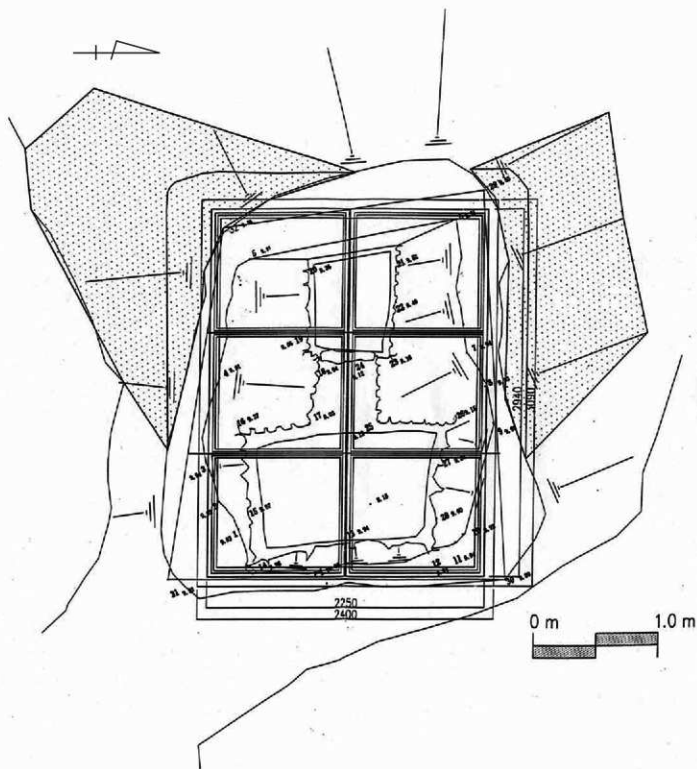
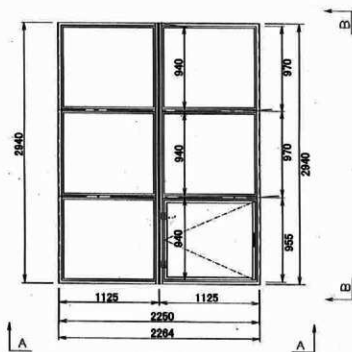
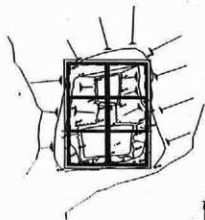
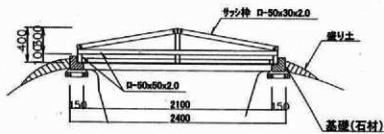


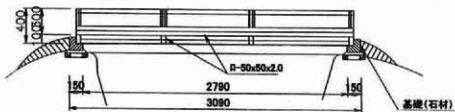
图 83 前山A 2号墳 石室保存公開施設平面図



平面図



A-A 立面



B-B 立面

図84 前山A2号墳 ガラス製覆屋詳細図①

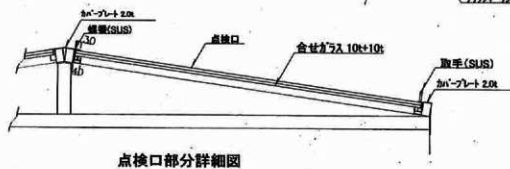
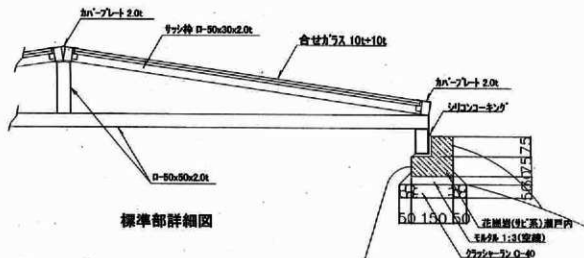
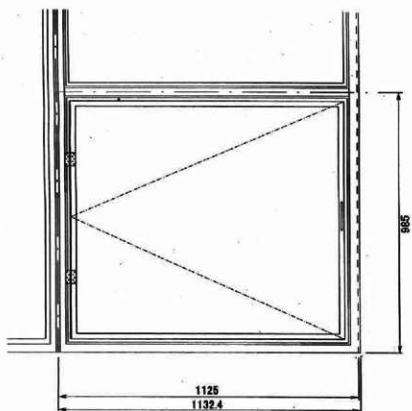


図 85 前山A 2号墳 ガラス製覆屋詳細図②

(2) 前山A 67号墳

目的

大正年間に発掘調査が実施された前山A 67号墳は、玄室内に石障が設けられた典型的な岩橋型横穴式石室をもつ古墳として石室が公開されていたが、盗掘による玄室奥壁破壊箇所からの土砂流入や墓道側壁の崩壊等により公開を中止していた。今回、再び安全に公開出来るよう保存公開施設を設置することにした。

業務内容

平成17年度に羨道部の発掘調査を実施するとともに、保存整備のための実施設計を行い、平成18年度に保存公開施設を設置した。

平成17年度

業務名：平成17年度特別史跡岩橋千塚古墳群保存修理事業に伴う大日山35号墳・前山A 67号墳保存整備実施設計業務

契約額：5,512,500円

業務期間：平成18年2月21日～平成18年3月24日

契約先：株式会社空間文化開発機構

平成18年度

業務名：特別史跡岩橋千塚古墳群保存修理工事に伴う前山A 67号墳保存修理工事

契約額：2,856,000円

業務期間：平成18年11月30日～平成19年3月30日

契約先：株式会社桂組

墳丘、石室に影響を及ぼす樹木6本の伐採・石室補修・墳丘修景・石室入口保護施設設置・ソーラー発電照明装置の設置。

施設の仕様

石室補修：盗掘による玄室奥壁破壊箇所石室石材と同じ結晶片岩の割石を充填し、元の石材と区別するため、境目に鉛板を嵌める。

墳丘修景：墳丘の盗掘坑底面に不織布を設置し、墳丘表面から測って0.3mの深さまで人力による流用土の埋め戻しと転圧作業。遮水シートを敷き、真砂土による墳丘の修景作業。

保護覆屋：羨道部に石室入口保護施設を設置。片側の羨道側壁が内側にせり出して危険なため、羨門部にステンレス製片開き格子扉を設けて、扉越しに内部を見学出来るようにした。

ソーラー発電照明装置：古墳の北東、墳裾の外側に発電装置(87W DC12V)を設け、石室まで配線をして照明器具を設置した。照明器具はシリンダーライト(白色LED7W)と投光器(白色LED10W)の2基で、点灯スイッチ(オンディレイタイマー)を扉の手前に設けた。点灯可能な時間は1日あたり約3時間である。

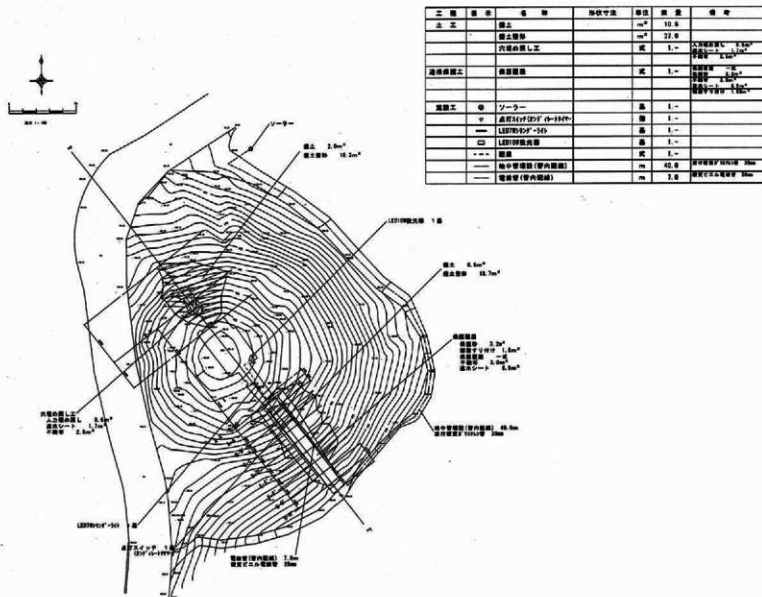


图 86 前山A 67号填 工事平面図

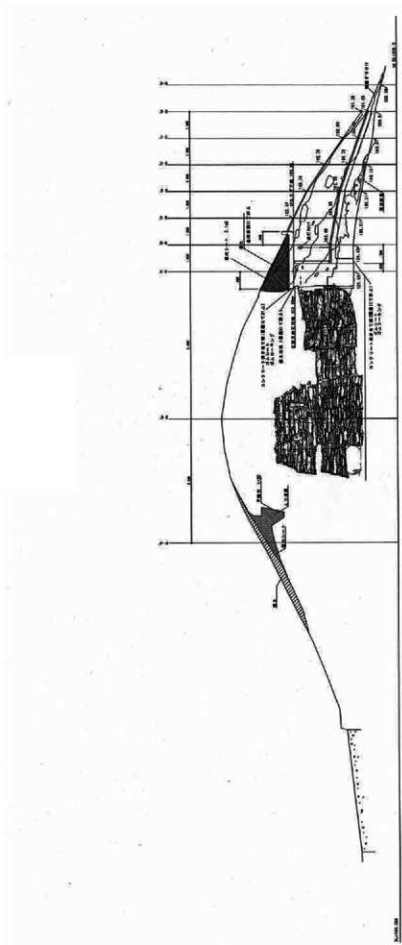
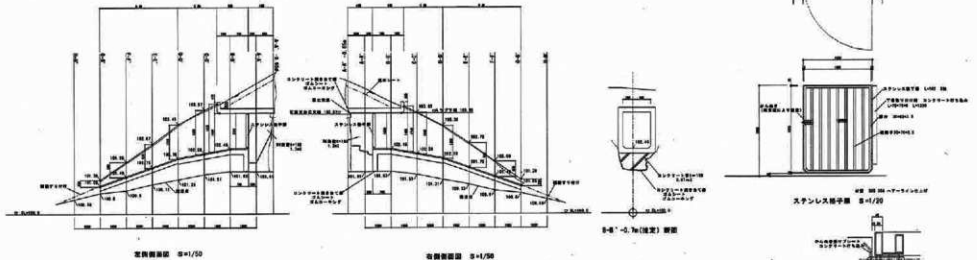
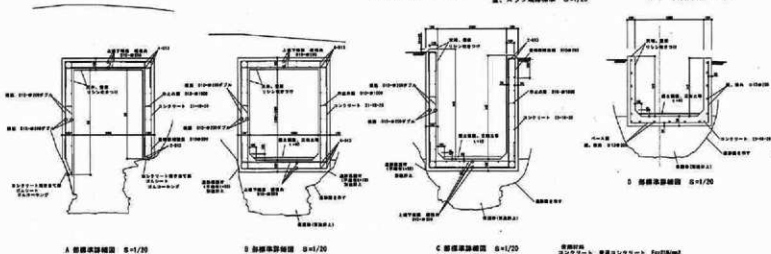
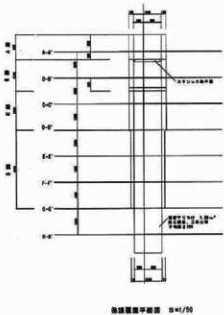


图 87 前山 A 67 号填 工事縦断面图



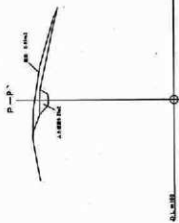
注意
 * 設置する場合は、図面に示す位置にて設置工もお願いの上設置する。
 * コントロール室、通路は、図面に示す位置とするが、通路幅確保のため仕切扉を必要とするが、通路幅より大きくする場合は別途設計する。
 * コントロール室の扉は、図面に示す位置とするが、通路幅確保のため仕切扉を必要とするが、通路幅より大きくする場合は別途設計する。
 * コントロール室の扉は、図面に示す位置とするが、通路幅確保のため仕切扉を必要とするが、通路幅より大きくする場合は別途設計する。
 * 扉は、スラブ上部及び基礎部分にボルトを埋設して固定する。



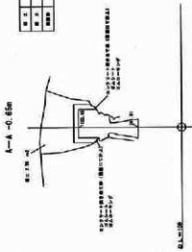
製図ソフト: 製図ソフトウェア: FortiCAD
 2015A

図 88 前山A 67号墳 石室入口保護施設詳細図①

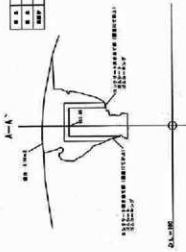
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00



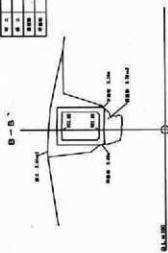
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00



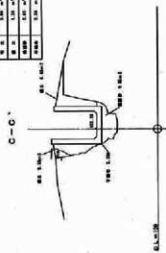
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00



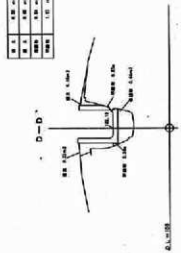
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00



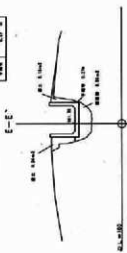
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00



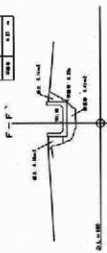
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00



石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00



石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00



石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00
石室	1.00	1.00

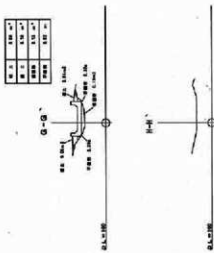
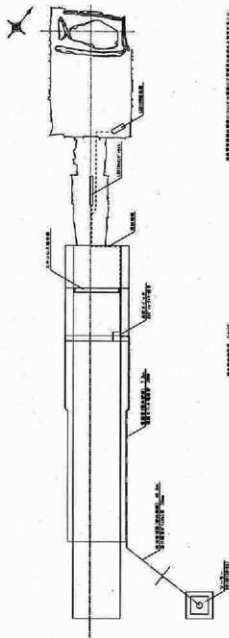
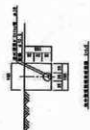
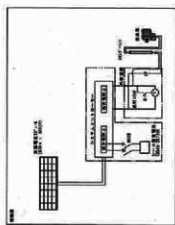
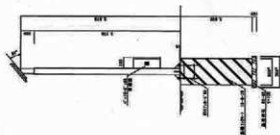
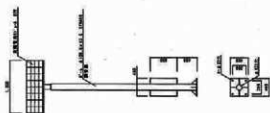


图 89 前山 A 67 号墳 石室入口保護施設詳細図②



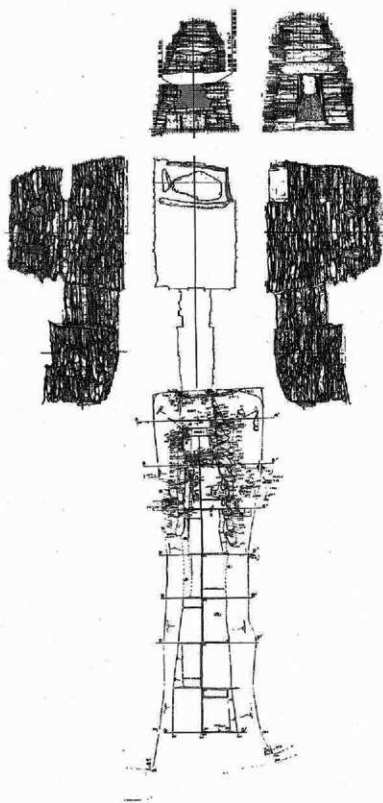
此圖係根據本廠設計部之設計圖繪製而成，其內容與實際產品之構造及安裝方法無異，請參閱說明書。

圖 90 前山 A 67 号機 電氣設備配置圖・詳細圖



此圖係根據本廠設計部之設計圖繪製而成，其內容與實際產品之構造及安裝方法無異，請參閱說明書。

圖 90 前山 A 67 号機 電氣設備配置圖・詳細圖



序号	名称	单位	数量	备注
1	人工修砌	m ³	0.17	
2	填充石	m ³	0.24	原有文物层
3	砌筑砂浆	m ³	2.48	

图 91 前山 A 67 号填石室修缮箇所图

第4節 古墳保存修景工事（石室・盗掘坑の埋め戻しと墳丘盛土）

業務の目的と方法、経緯と経過

古墳保存修景工事は、崩壊の危機にある石室の保護や、墳丘を本来の姿に近い形に復旧し古墳群の景観を整える目的で古墳の主体部・盗掘坑の埋め戻しを継続的に実施している事業である。

盗掘により天井石が失われた古墳は、石室の石組が見えるものと、盗掘坑しか見えないものがある。石室が見えるものについては、既に毀損しているものと、今後毀損の進む可能性の高いものを対象に、石室の記録を残して埋め戻しを行った。毀損が進むものの判断については、平成17年度以降、紀伊風土記の丘で順次踏査を進め対象を検討した。埋め戻し対象としたものは、崩壊の進行している横穴式石室を中心としており、持ち送り構造が残るものや尾根の上方からの土圧により壁面が著しく膨らんだものを現地で確認して選定している。また、盗掘等により既に崩壊している石室・盗掘坑は、園路沿いにある古墳を優先的に埋め戻すとともに、墳丘形状を復元して表示している。石室の埋め戻しには砂を用い、表面は真砂土を用い修景した。墳丘復元の盛土は真砂土を用いた。埋め戻しの基準・方法は試行錯誤を重ねており、各年度で方法が若干異なっている。

事業対象とする古墳については、埋戻対象部分について草刈り・清掃を行ったうえで、図化・写真撮影を行い、現状の記録を残したうえで埋め戻した（第2章第2節参照）。土砂は舗装された園路をダンプトラックで運び、各古墳へは人力小車運搬で運んだ。石室の露出した部分は基本的に砂で埋め戻し、盗掘坑及び墳丘盛土は真砂土で埋め戻した。

砂は石室保護のため塩分のないものあるいは脱塩処理をしたものを用い、填圧は人力で行った。墳丘盛土は周辺の古墳や、盗掘により散乱した土量を参考に、真砂土で盛り上げた。埋め戻した盛土には種子を埋め込んだネットを被せ、土の流出を防いだ。

土工については、次の3つの内容に大別して実施した。

1. 石室埋め戻し
2. 盗掘坑埋め戻し
3. 墳丘盛土整形

古墳保存修景工事の仕様

古墳保存修景工事の仕様は、試行錯誤を経て各年度で変更している。

平成17年度は、前山A地区の石室公開古墳地区を避け、岩橋千塚の主軸線上に近い園路沿いの古墳を中心に、石室崩壊の進む古墳を選定して、埋め戻しを行った。石室の埋め戻しには脱塩処理の施されている砂を用い、表面は真砂土を用いて埋め戻した。埋め戻した場所に植物がなかなか生えず、白くて目立つ状態が3～5年続いたため、翌年以降は植物が生えるように植生ネットを張ることとした。

平成18年度は、埋め戻しの基準・方法をめぐって新たな方針が掲げられ、石室公開古墳地区にあたる前山A地区の古墳の石室を悉皆的に埋め戻している。埋め戻しには工業用発泡スチロール（EPS）

を用いた。石室・盗掘坑の埋め戻しのほか、墳丘を盛り上げるための骨材として使っている。EPSは持ち運びできるサイズの長方形のものを使用し、現地で熱線を使い焼き切って加工し使用した。軽量なため砂の運搬が困難な古墳での埋め戻しに効果を発揮することが期待されたが、車両が通行できる園路沿いの古墳の埋め戻しに用いたため、従来の埋め戻しとコスト面であり変わりがなかった。

EPSを用いて埋め戻した古墳のうち、前山A 122号墳では翌年の春に石室の中に組み込んだEPSの間に竹の子が生え、石室の石組への悪影響が懸念される状況が生じた。また、前山A 114号墳では猪が掘り起こしてEPSの破片が散乱したほか、墳丘上で跳躍すると若干弾むような感触があることから、墳丘上でジャンプする人が見かけられた。そのほか、どのような影響があるか不安があることから、次年度の整備委員会に諮り、できる限り砂と真砂土で埋め戻す方針へと戻した。また、埋め戻し基準についても、石室の保護と公開のバランスを考えて従来の方針へ修正し、十分な記録をとらずに次々と石室を埋め戻すべきではないとの意見で一致した。

平成19年度は、石室の崩壊の進む古墳と園路沿いにある古墳の形状の分かりづらい古墳を選定して、石室・盗掘坑の埋め戻しと墳丘盛土を行った。石室は事前に清掃・写真撮影を行ったうえで石室の展開図を作成し、現地で十分な検討を行ったうえで埋め戻している。清掃時にはいくつかの古墳で土器片などが表採された。

埋め戻しには脱塩処理をした砂と真砂土を用い、盛土後には従来の合成樹脂製ではなく植物分解性の種子ネットを張り、養生した。墳丘盛土の形状については、地区・主体部・年代などを考慮し、半球形、截頭円錐形、半楕円球形、截頭四角錐形などの適した形で復元した。

各年度の事業対象古墳

平成17年度は、計9基の古墳の石室を埋め戻した。前山A地区で前山A 4・A 86号墳の2基、前山B地区で前山B 1・2・4・45・67（知事塚古墳）・68・69号墳の7基を対象として事業を実施した。

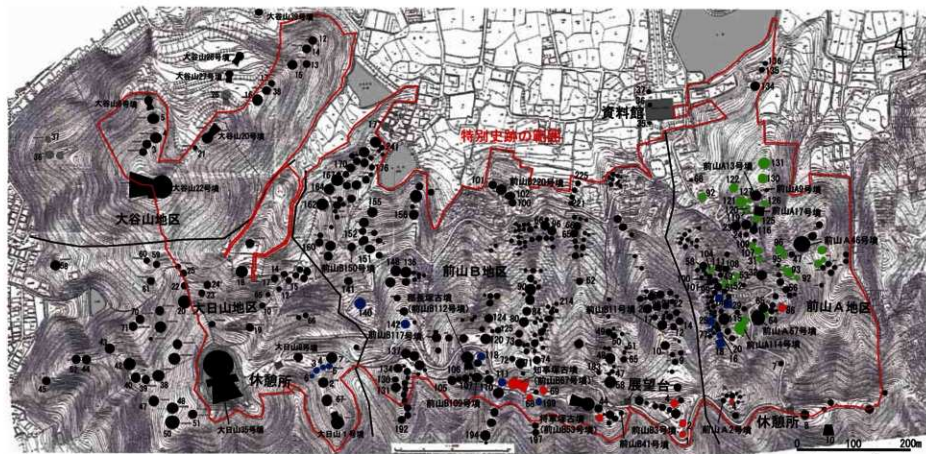
平成18年度は、前山A地区で28基の古墳を埋め戻した。石室の埋め戻しが20基、盗掘坑の埋め戻しが8基である。対象とした古墳は、前山A 29・31・51・52・53・54・57・92・93・95・96・103・104・107・109・114・117・119・121・122・123・125・126・127・130・131・141・142号墳である。

平成19年度は15基の古墳を埋め戻した。石室の埋め戻しが10基、盗掘坑の埋め戻しが5基、墳丘復元の盛土が10基である。対象とした古墳は、前山A 16・18・25・29・31・77号墳、前山B 111・118・140・142・199号墳、大日山3・4・5・6号墳である。

各古墳の事業内容及び関連する作業の詳細については表を参照していただきたい。

	平成17年度		平成18年度				平成19年度	
実績金額	2,152,500円		10,153,500円				8116500円	
委託業者	(株) 藤山組		(有) 光華園				(株) 吉本園芸	
契約年月日	H18.1.27		H18.11.15				H20.1.18	
完成日	H18.3.7		H19.3.20				H20.3.14	
現状変更申請	文第105号の2(H17.5.26)		紀風第28号(H18.5.16)		紀風第96号(H18.9.26)		紀風第137号(H19.1.23)	
現状変更許可	17委庁財第4の351号(H17.8.10)		18委庁財第4の376号(H18.8.4)		18委庁財第4の1302号(H18.10.13)		18委庁財第4の2025号(H19.2.23)	
現状変更終了報告	紀風第30号(H18.5.17)		紀風第44号(H19.5.30)		紀風第46号(H19.5.30)		紀風第59号(H19.6.20)	
	前山A地区		前山A地区		前山A地区		前山A地区	
	A4号墳	横穴式石室	A92号墳(BX34)	横穴式石室*	A57号墳	竪穴式石室	A51号墳	盗掘坑
	A86号墳	横穴式石室	A93号墳	盗掘坑*	A96号墳	横穴式石室*	A52号墳	盗掘坑
	前山B地区		A95号墳	盗掘坑*	A31号墳(H1A106)	竪穴式石室*	A53号墳	盗掘坑
	知事塚古墳(B67)	横穴式石室・盗掘坑	A103号墳	盗掘坑*	A107号墳	横穴式石室*	A54号墳	盗掘坑
	B1号墳	横穴式石室	A104号墳	盗掘坑*	A117号墳	盗掘坑		A140号墳(H1A31)
	B2号墳	横穴式石室	A109号墳	盗掘坑*	A122号墳	横穴式石室*		A77号墳(AX3)
	B4号墳(BX61)	横穴式石室	A114号墳	横穴式石室*	A130号墳	横穴式石室*		前山B地区
	B45号墳	横穴式石室	A119号墳	横穴式石室*	A64号墳(AX29)	盗掘坑		B111号墳
	B68号墳	横穴式石室	A121号墳	横穴式石室*		*EPS使用		横穴式石室・盛土
	B69号墳	横穴式石室・盗掘坑	A123号墳	横穴式石室*				B118号墳
			A125号墳	横穴式石室*				横穴式石室・盛土
			A126号墳	横穴式石室*				B140号墳
			A127号墳	盗掘坑*				盗掘坑
			A131号墳	盗掘坑*				B142号墳
			141号墳(AX45)	竪穴式石室*				盗掘坑・盛土
			142号墳(AX47)	横穴式石室*				B199号墳
			*EPS(工業用発泡スチロール)使用					盗掘坑
								大日山地区
								大日山3号墳
								横穴式石室・盛土
								大日山4号墳
								横穴式石室・盛土
								大日山5号墳
								横穴式石室・盛土
								大日山6号墳
								竪穴式石室・盛土
対象古墳(基)	計	9					計	28
							計	15

表9 保存修景工事対象古墳一覧



- 平成17年度実施古墳
- 平成18年度実施古墳
- 平成19年度実施古墳

図 92 保存修景工事対象古墳の位置

第4章 まとめ（平成15～20年度整備の成果と残された課題）

過去の整備と今回の整備の成果

紀伊風土記の丘は昭和46（1971）年の開館以来すでに39年が経過している（2010年現在）。敷地は65万㎡におよび、園内には5世紀後半～7世紀に作られた430基を越す古墳がある。日本有数の群集墳であり、特別史跡に指定されている所以でもある。岩橋型と呼ばれる独特の構造をもつ横穴式石室や、副葬品・埴輪などにも他地域に見られない独自の文化性がある。古代紀氏集団の墓域と考えられており、古墳時代における紀ノ川下流域の歴史と文化を示す遺跡として学術的価値が高い。

紀伊風土記の丘はこの貴重な岩橋千塚古墳群の保存と活用を目的として昭和43年度から整備を始め、昭和46（1971）年8月に開館した。開館までに行われた整備では、古墳群を一周する園路を設けるとともに、前山A46号墳はコンクリートブロック擁壁、將軍塚古墳はコルゲート管を用いた羨道入口の土留め施設を設け、石室を公開したのが特筆すべき整備であった。開館以降も継続して整備と維持管理を行い、園路や説明板等を順次整備するとともに、昭和49～51年度：園路沿い及び花木園地区の植林整備、昭和51年度：花木園地区の古墳4基整備、昭和60～平成元（1989）年度：万葉植物園の園路等整備、昭和61年度：オリエンテーリングコース設置、平成8年度：堅穴住居復元などの整備を行ってきた。

このような風土記の丘設立当初からの整備方針は基本的には園路を散策しながら古墳群の現状を見学してもらうという姿勢である。しかしながら、岩橋千塚古墳群は近代以降の盗掘等で天井石が失われ、石室が露出したものも多く、風雨による経年劣化と樹木の根の伸張等による悪影響もあり、石室や墳丘の保存対策が緊急の課題となっていた。

また、古墳群の調査研究の面でも昭和38～42年の関西大学による総合調査以降、本格的な発掘調査は行われておらず、考古学の発展に見合った新しい調査研究と情報発信も求められていた。

平成15年度に始まった整備事業は上記のような現状認識を受けて、古墳群の保存措置を図るとともに、これまでよりも積極的に古墳を公開し、その価値を理解してもらうことを大きな目的としている。そのためにはポイントとなる古墳の学術的価値を解明する発掘調査が必要となるし、発掘成果を現地で学習できる整備も求められた。

大日山35号墳の整備を除くと、平成15～20年度には前山A2号墳とA67号墳で発掘調査と石室公開のための整備を行った。

前山A2号墳は石室の発掘調査を行った上で石室上部にガラス覆屋を設けて岩橋千塚では珍しいT字型石室を上から見学できる形に整備し、横に説明板を設置した。前山A67号墳は石室の発掘調査後、崩落していた石積部分を修復し、見学者の入口となる墓道両側にコンクリート擁壁を設けて墓道斜面を保護するとともに、石室内部にはソーラー発電による照明装置を設置した。

これらの整備によって岩橋千塚の特徴的な2基の古墳石室が保護を図りながらより分かり易い形で

見学可能となったことは大きな成果である。

古墳群の保存措置としては墳丘や石室を破壊する要因となっていた樹木や墳丘の外形を視認する上で支障となっていた樹木を伐採した。伐採した範囲は1号園路から2号園路沿いの主要な古墳群で、伐採総数は1,000本強である。

また、保存上危険な状態にある石室や盗掘坑の埋め戻しを行うとともに、土が流失し墳丘の形状がわかりにくい古墳の修景盛土を行った。対象古墳は前山A・B地区及び大日山地区合わせて50基以上に及んだ。

これらの一連の保存整備工事によって、遺構の保護に万全を期すとともに墳丘形態が見えやすくなり、古墳群を顕在化することができた。

また、今回の整備では説明板と案内標識も新たに追加した。紀伊風土記の丘にはこの種のサイン類が開館当初以降、その都度設置したものなど数多く混在しているのが現状である。今回は発掘調査や整備を行った古墳を中心に説明板を設置した。これによって古墳群の現地情報が最新の内容に替わり、情報量も増加した。

今後の課題

紀伊風土記の丘の利用者は園内を散策する人が多く、年間20万人を超えている。平日でも500人、休日には1,000人前後の人々が訪れている。それに対して資料館への入館者は各種行事や体験学習による参加者を含めても園内散策者の10%、年間2万人強にとどまっている。園内散策者は健康志向、自然に親しむことを目的とした人が多く、古墳見学を目的としている人はそれほど多くない。また、園内散策者はリピーターが多く、日常的に園内を歩いている人々であるのも特徴である。

紀伊風土記の丘としては古墳見学目的の人はもとより、古墳見学が主たる目的ではないこの大多数の園内散策者にも古墳群の価値と魅力を理解してもらう努力が必要である。そのためにはいくつかの課題がある。

第一は園内を一周している主要園路から周囲に数多くの古墳があることを見てとれるように整備する必要がある。430基もの古墳が群集する古墳時代の一大墓地であることを実感してもらうのが基本である。このためには古墳群の墳丘が視認できるビスタを確保するための樹木伐間や下枝払い、墳丘の日常的な樹木整理と笹草刈り等を行うことが求められる。

第二は主要園路から支線園路への散策者の誘導である。支線園路へ入るとどのような魅力的な見学ポイントがあるのかを主要園路上のサインで分かり易く表示する必要がある。また、主要園路から支線園路への分岐点を分かり易く、かつ入りやすい形に整備するとともに、支線園路自体が安全・快適で魅力ある遊歩道とすることも重要である。勾配が急な部分には丸太階段等を整備し、支線園路周囲の林も見通しのきく、明るい景観にする必要がある。

第三は古墳見学ポイントの追加とそれぞれの内容の充実である。古墳の石室はどれもが明るければ良いというものではない。人にもよるのであろうが、暗い石室にこわごわと入った印象が強くと後に残

ることもある。ただし岩橋千塚の特色の一つが結晶片岩を積み上げた岩橋型と呼ばれる高さのある石室にあるから、キーポイントとなる石室は安全に内部に入って見学できることが望ましい。内部を公開する石室には照明も必要であろう。

また、岩橋千塚は古墳の現状見学が基本で、築造当時の姿を見学できる古墳はない。可能であれば築造当時、あるいは築造途中の過程が見学できる古墳があれば古墳なるものを理解する上で大きな効果が期待できる。大日山35号墳の今後の整備も含めて、将来的な課題であろう。

第四はサインである。サインには園内全体・古墳群・古墳各個の説明板、各古墳の名称板、現在位置や道案内をする道標、利用上の注意や危険性を知らせるもの、最新の行事や体験学習などのイベントを知らせるものなどさまざまな種類と機能がある。今後は今回設置したサインのデザインを基調とした各種サインの全体設計と、どこでどのような情報を提供するのかというサイン配置計画を作り、これをもとに順次サインを整備し、園内全体を統一感のあるすっきりしたサインに整えていく必要がある。説明板に盛り込む内容は中学生が理解できるレベルとするのが穏当であろう。また、日本語以外に英語・韓国語・中国語などの併記もサインの種類と場所によって考慮することも求められる。一つの説明板中の文章は400字を超えない範囲が読みやすい。

今回の整備事業は昭和46年の紀伊風土記の丘開館以降、はじめてのまとまった形の整備である。あと数年の事業期間が残されているが、ここに記した課題は残された期間内に解決できるものばかりではない。さらに遠い将来を見据えた長期的なビジョンを持っていることが紀伊風土記の丘をより良くしていくことにつながるから、今回の課題で残されたものは長期ビジョンの中に位置づけ、具体化していきたい。



園内を散策する人々

写真図版



岩橋千塚と和歌山市街地（南上空から）



岩橋千塚遠景（天王塚山から花山まで・北東から）

古墳群遠景



花山地区（東から）



大谷山・井辺前山地区と名草山（左から順に・北北東から）



山東地区と福飯ヶ峰（東から）

特別史跡遠景（北西から）



大谷山・大日山地区（左から
順に・南西から）



大日山・前山B地区（左から
順に・南西から）



特別史跡遠景



前山A・B地区（北から）



大日山地区（北東から）



大谷山地区（東から）

前山 A17 号墳周辺 (南から)



前山 A 99 号墳周辺 (南東から)



前山 A 65・67・114 号墳 (左から順に・北東から)



特別史跡近景



將軍塚周辺（東北東から）



前山 B 130 号墳周辺（北東から）



大日山 35 号墳周辺（東から）

古墳全景（調査前・北から）



横穴式石室（調査前・東から）



古墳全景（北から）



前山A 2号墳発掘調査



横穴式石室（東から）



横穴式石室（北から）



玄室（西から）

玄室（東から）



羨道と玄門（西から）



玄門閉塞状況（西上方から）



前山A 2号墳発掘調査



玄室前道（南から）



羨道（南から）



羨道（北から）

第1トレンチ（南東から）



第2トレンチ（南西から）



第3トレンチ（南西から）



前山A2号墳発掘調査



第4トレンチ（西から）



第5トレンチ短頸壺出土状況
（北から）



第6トレンチ环身出土状況
（西から）

第7トレンチ（西から）



墓道排水溝蓋石（北から）



墓道床面旧状（西から）



前山A2号墳発掘調査



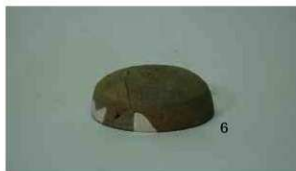
墳丘内墓道北壁土層（南から）



羨道入口土層断面（西から）



玄門部土師器壺出土状況（西から）



出土遺物

前山A9号墳発掘調査



調査区周辺（調査前・北から）



平成19年度調査区全景（東から）



前山A9号墳南側の土層（東から）



古墳全景（北東から）



竪穴式石室（南から）



竪穴式石室（東から）



石室南西隅

前山A9号墳発掘調査



竪穴式石室（北から）



竪穴式石室内部（東から）



竪穴式石室内部（西から）

古墳状隆起1（南から）



古墳状隆起1の盗掘坑（東から）



前山A13号墳墳丘北裾（北から）



前山A9号墳北西隣接地発掘調査



平成20年度調査区全景



平成20年度第1～3トレンチ



平成20年度第4・5トレンチ

古墳全景（調査前・南から）



箱式石棺（調査前・北から）



調査区全景（南から）



前山 A 17 号墳発掘調査



調査区全景（北から）



箱式石棺（西から）



仕切石の加工



側面の石の加工



石材の赤色化（主室北壁）

箱式石棺調査区（北から）



箱式石棺（北から）



箱式石棺（南から）



前山 A 17 号墳発掘調査



箱式石棺（東から）



箱式石棺（西から）



第1トレンチ（東から）

第2トレンチ（北から）



第3トレンチ（東から）



第4トレンチ（北から）



前山 A 67 号墳発掘調査



墳丘（調査前・東から）



墳丘（中央に盗掘坑・北西から）



石室入口（調査前・南から）



玄室内部（奥壁の盗掘坑補修前）



玄門（羨門掘削後）

前山 A 67 号墳発掘調査



羨道と玄門（羨門側から）



石室入口（古墳時代当初床面・南から）



羨道前庭（当初床面・南から）



調査区全景（当初床面・北上方から）

前山 A 67 号墳発掘調査



調査区全景（南から）



排水溝掘り方と立石（羨道前庭・南から）



羨道前庭右側壁付近の地山と盛土（東から）

羨道前庭付近の盛土（南東から）



墳丘内墓道の焼土坑（西から）

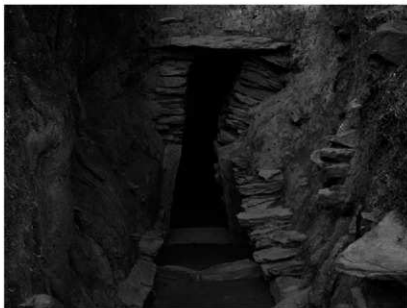


玄室奥壁崩壊状況





板状石材出土状況（南から）



羨門（南から）



羨門床面（南から）

羨道前庭右側壁（南東から）



羨道前庭左側壁（南西から）



羨道前庭左側壁先端部（南東から）



前山 A 67 号墳発掘調査



羨門排水溝追加調査（南から）



排水溝北地点（羨門付近・南から）



排水溝南地点（羨道前庭先端付近・南から）

墳丘（調査前・北東から）



横穴式石室（調査前・南西から）



墳丘（調査後・北東から）



前山B 41号墳発掘調査



横穴式石室（南西から）



羨道（南東から）



周溝の断面土層（北から）

横穴式石室（北から）



横穴式石室（南西から）



玄室奥壁（南東から）



前山 B 41 号墳発掘調査



玄室左側壁（南西から）



玄室右側壁（北東から）



玄門・羨道の左側壁（南西から）

玄門・羨道の右側壁（北東から）



玄室前道と羨道（北西から）



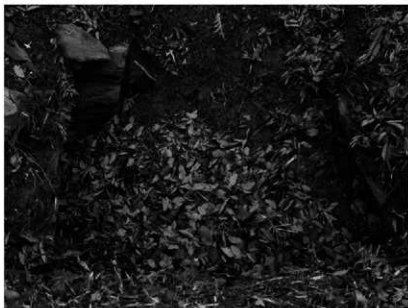
羨道先端の敷石（北西から）



墳丘・石室の記録化



前山 A4 号墳 (北から)



前山 A4 号墳 横穴式石室 (北から)



前山 A16 号墳 (北から)

前山A 16号墳 横穴式石室
玄室奥壁（北から）



前山A 18号墳（南東から）



前山A18号墳 竪穴式石室
（北東から）



墳丘・石室の記録化



前山A 25号墳 横穴式石室
(西北西から)



前山A 25号墳 横穴式石室
(北西から)



前山A 31号墳 (西から)

前山A 31号墳 竪穴式石室
(南から)



前山A 77号墳 (東から)



前山A 77号墳 横穴式石室
(南から)



墳丘・石室の記録化



前山 A 86 号墳 (北西から)



前山 A 86 号墳 横穴式石室
(北から)



前山 A 92 号墳 (西から)

前山 A 92 号墳 横穴式石室
(北から)



前山 A96 号墳 (南から)



前山 A96 号墳 横穴式石室
(東から)



墳丘・石室の記録化



前山 A 107 号墳 横穴式石室
(東から)



前山 A 114 号墳 (南東から)



前山 A 114 号墳盗掘坑 (南東
から)

前山A 114号墳 横穴式石室
玄室（北から）



前山A 119号墳（東から）



前山A 119号墳 墳丘横穴式
石室（南から）



墳丘・石室の記録化



前山A 121号墳 (南から)



前山A 121号墳 横穴式石室
(北西から)



前山A 122号墳 (南から)

前山A 122号墳 横穴式石室
(南から)



前山A 125号墳 (西から)



前山A 125号墳 横穴式石室
(東から)



墳丘・石室の記録化



前山 A 130 号墳 (北から)



前山 A 130 号墳 玄室前道
(東から)



前山 A 130 号墳玄室奥壁 (西
から)

前山 A141 号墳 (南西から)



前山 A142 号墳 (北西から)



前山 A142 号墳 (南東から)



墳丘・石室の記録化



前山B1号墳（北から）



前山B1号墳 横穴式石室
（南から）



前山B2号墳（南から）

前山B2号墳 横穴式石室
(北から)



前山B4号墳 (東から)



前山B4号墳 横穴式石室
(南から)



墳丘・石室の記録化



前山B 45号墳 (西から)

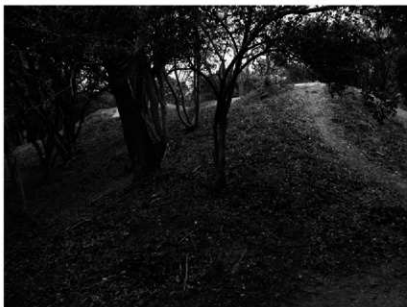


前山B 45号墳 横穴式石室
(奥壁側から)



知事塚古墳 (前山B67号墳)
(北から)

知事塚古墳（前山 B67 号墳）
（南東から）



知事塚古墳造出（くびれ部か
ら）



知事塚古墳前方部小型横穴式
石室（南東から）



墳丘・石室の記録化



知事塚古墳前方部石室の玄室
前壁（南から）



前山 B 68 号墳（北から）



前山 B 68 号墳 横穴式石室
（奥壁側から）

前山B 69号墳 (西から)



前山B 69号墳 横穴式石室
(玄門側から)



前山B 111号墳 横穴式石室
(東から)



墳丘・石室の記録化



前山B 111号墳 横穴式石室
羨道（北西から）



前山B 117号墳（南東から）



前山B 117号墳 横穴式石室
（西から）

前山B 117号墳 玄室前壁
(東から)



前山B 118号墳 (西から)



前山B 118号墳 横穴式石室
(東から)



墳丘・石室の記録化



大日山1号墳（北から）



大日山3号墳（東から）



大日山3号墳 横穴式石室
（東から）

大日山4号墳（北から）



大日山4号墳 横穴式石室
（南から）



大日山5号墳（西から）



墳丘・石室の記録化



大日山5号墳 横穴式石室
(南から)



大日山6号墳 (北東から)



大日山6号墳 竖穴式石室
(東から)

危険木伐採作業



伐採木裁断作業



伐採木片付け作業



危険木伐採



石室内での伐採状況（前山B
122号墳）



墳丘上の伐採状況（前山B
191号墳）



伐採による墳丘顕在化（将軍
塚古墳（前山B53号墳））

古墳説明板の搬入



古墳説明板の運搬



案内標識の設置



古墳群説明板設置



古墳群全体説明板「墳丘と石室」



古墳説明板（前山A 99号墳）



案内標識近景



古墳群全体説明板「古墳の分布」

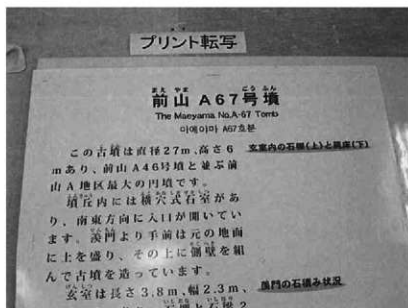


古墳説明板（前山A 23号墳）



案内標識設置状況

保存公開施設設置古墳の説明板設置



セラミック板転写



セラミック板プリント焼成



セラミック製説明板据え付け
(前山A67号墳)

セラミック製説明板設置状況
(前山A 2号墳)



セラミック製説明板 (前山A
67号墳)



セラミック製説明板 (大日山
35号墳石室前)



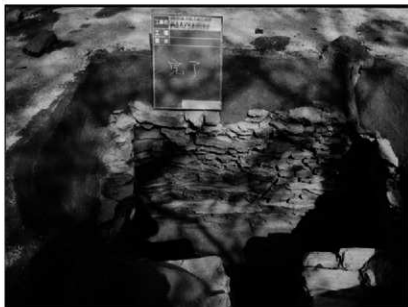
前山A 2号墳 保存公開施設設置（平成 16 年度）



整備工事着手前状況



通気管埋設

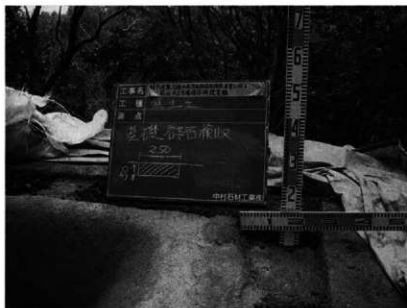


樹脂による土留め

平成17年度整備着工前



基礎碎石埋設状況



墳丘盛土整形



前山A2号墳 保存公開施設設置（平成17年度）



花崗岩基礎据え付け状況



ガラススクリーン設置



石室保存公開施設完成



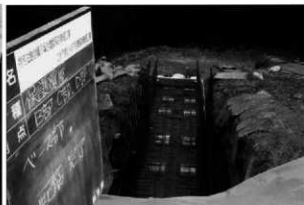
盗掘坑埋め戻し前



保護砂埋め戻し



盗掘坑埋め戻し完了



保護覆屋ベース鉄筋組立



伐木工完了



ベースコンクリート打設状況



本体工事着手前



保護覆屋側面鉄筋組立

前山 A 67 号墳 保存公開施設設置作業



石室入口保護施設天井部コンクリート打設



リシン吹付け



石室入口保護施設側面コンクリート打設



バッテリーボックス



ステンレス扉取付完了



ゾーラー設置状況



石室入口保護施設三土舗装



バッテリーの配管状況

スイッチボックス取付状況



シリンダーライトと投光器設置状況



ソーラーパネル設置状況





石室奥壁補修前



石室奥壁補修後



本体工事完了状況

工事着工前状況



砂の小車運搬と埋め戻し



真砂土の人力運搬と墳丘盛土



保存修景工事工程



墳丘盛土の人力顔圧



機械顔圧



種子ネット張り付け

工業用発泡スチロール (EPS)
搬入



石室内 EPS 使用状況 (前山
A 119号墳)



墳丘内 EPS 使用状況 (前山
A 114号墳)



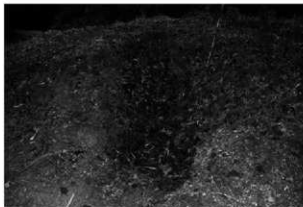
保存修理工事状況（平成 17 年度）



前山 A 93 号墳盗掘坑



前山 A 4 号墳（南から）平成 17 年度



前山 A 109 号墳盗掘坑（西から）



前山 A 86 号墳（北西から）



前山 A 126 号墳盗掘坑（西から）



前山 B 1 号墳（西から）



前山 A 127 号墳盗掘坑（東から）



前山 B 2 号墳（北から）



前山B 4号墳（南から）



前山B 69号墳（南から）



前山B 45号墳（北西から）



前山A 31号墳（北から）平成18年度



知事塚（前山B 67号墳・西から）



前山A 51号墳（北西から）



前山B 68号墳（西から）



前山A 52号墳（北西から）

保存修理工事状況



前山A 53号墳 (東から)



前山A 92号墳 (西から)



前山A 54号墳 (南から)



前山A 93号墳 (西から)



前山A 57号墳 (西から)



前山A 95号墳 (北から)



前山A 64号墳 (北西から)



前山A 96号墳 (南から)



前山A 103号墳 (西から)



前山A 114号墳 (西から)



前山A 104号墳 (東から)



前山A 117号墳 (南から)



前山A 107号墳 (南東から)



前山A 119号墳 (南東から)



前山A 109号墳 (南西から)



前山A 121号墳 (西から)

保存修理工事状況



前山A 122号墳 (西から)



前山A 127号墳 (北から)



前山A 123号墳 (西から)



前山A 130号墳 (南から)



前山A 125号墳 (北東から)



前山A 131号墳 (西から)



前山A 126号墳 (西から)



前山A 141号墳 (南から)



前山 A142 号墳 (南から)



前山 A 29 号墳 (南から)



前山 A 16 号墳 (南から)



前山 A 77 号墳 (南東から)



前山 A 18 号墳 (南東から)



前山 A 140 号墳 (東から)



前山 A 25 号墳 (南から)



前山 B 111 号墳 (南東から)

保存修理工事状況



前山B 118号墳 (西から)



大日山3号墳 (北から)



前山B 140号墳 (北西から)



大日山4号墳 (北から)



前山B 142号墳 (南から)



大日山5号墳 (北から)



前山B 199号墳 (北から)



大日山6号墳 (北東から)

平成 15 ～ 20 年度実施事業概要（別途報告分）



大日山 35 号墳東造出の調査（平成 15 年度）



大日山 35 号墳埴輪出土状況（平成 17 年度）



大日山 35 号墳横穴式石室の調査（平成 15 年度）



大日山 35 号墳の形象埴輪（左から両面人物、翼を広げた鳥、胡蝶）



大日山 35 号墳基壇円筒埴輪列の調査（平成 16 年度）



大日山 35 号墳墳丘復元工事（平成 19 年度）



大日山 35 号墳西造出の調査（平成 17 年度）



前山 A 13 号墳横穴式石室の調査（平成 18 年度）

抄 録

ふりがな	とくべつしせきいわせせんづかこんぐんはつくつちようき・ほぞんせいびじぎょうほうこくしょ1							
書名	特別史跡岩橋千塚古墳群							
副書名	発掘調査・保存整備事業報告書							
巻次	1							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	丹野拓／高瀬要一・仲原知之・山本高照							
編集機関	和歌山県立紀伊風土記の丘							
所在地	〒640-8301 和歌山市岩橋1-4-1 1番地 073-471-6123							
発行機関	和歌山県教育委員会							
所在地	和歌山市小松原通1丁目1番地							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
特別史跡岩橋千塚古墳群	和歌山市岩橋	市町村	遺跡番号	34° 13' 20"	135° 13' 50"	2003.04.01 ～ 2009.03.31	675 (H15) 50 (H16) 315 (H17) 13 (H18) 55 (H19) 30 (H20)	史跡整備
		3020150	185					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
前山A2号墳	古墳	古墳時代	円墳、横穴式石室	須恵器・土師器		T字形石室		
前山A9号墳	古墳	古墳時代	円墳（低墳丘）、小型竪穴式石室	なし				
前山A17号墳	古墳	古墳時代	方墳、箱式石棺	なし		明治時代に調査あり		
前山A67号墳	古墳	古墳時代	円墳（楕円墳）、横穴式石室	須恵器片・土師器片		羨道前庭部調査		
前山B41号墳	古墳	古墳時代	円墳、横穴式石室	須恵器				
要約	特別史跡岩橋千塚古墳群の整備報告書で、平成15～20年度に業務が完結した古墳について調査・整備内容を掲載した。発掘調査は5基（前山A2・9・17・67・B41号墳）、石室実測は34基、墳丘測量は11基について掲載した。そのほか、史跡整備のため、危険木伐採1,027本、説明板・案内標識29基、石室保存公開施設2基、古墳保存修景工事62基について掲載した。							

特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査・保存整備事業報告書 1

発行日 平成 22 年 3 月 31 日

発行 和歌山県教育委員会

和歌山市小松原通 1 丁目 1

編集 和歌山県立紀伊風土記の丘

和歌山市岩橋 1411

印刷 有限会社阪口印刷所

和歌山市中之島 1497